

## 序

## 章

# 対人関係の変容

## ゆるやかな人間関係の構築

東京成徳短期大学教授

深谷 昌志

他者と関係を保てない

このところの教育問題といえば、小学校での「学級の荒れ」（「学級崩壊」はマスメディアが誇張した用語であろうが）や「不登校」と中学生の「いじめ」や「キレる」、そして高校での「高校中退」などが連想される。

こうした問題に共通しているのは、子どもたちの対人関係がスムーズでない事実であろう。いじめに例をとると、つきつめていえば、いじめの底流に対人関係の持ち方の未成熟さが見られる。いじめる側はいじめられる子の気持ちがわからない上に、自分の感情をコントロールする仕方を知らない。いじめられる側は萎縮することが多く、自分の状況を外へ

訴える有効な方法を見いだせない。さらに、周囲にいる子もいさかいに慣れていないので、いじめに気づいても止める術を持っていない。

子どもたちが互いに、人間関係のトラブルを処理する力を持っていれば、仮にいじめがあっても、ブレーキがかかって、いじめが深刻化することはないように思う。

それと同じように、学級の荒れについても、集団の中での行動の仕方を知らない子どもが多いことが、荒れを助長しているのではないか。

こうした事例が示すように、生徒指導の問題の多くは、子どもたちの対人関係の持ち方が変わったことから発生している。それでは、そうした変化はどうして生じたのか。

## 身勝手は成長の遅れ——●

先生たちと話していると、身勝手に、集団での行動が苦手な子どもが増加しているという。そうだろうと納得できる反面、そう結論づける前に、「身勝手」とはどういう行動なのかを考える必要を感じる。とりあえず「身勝手」とは、他人の立場に思いをおかずに、自分の利害を優先することを意味していよう。換言するなら、「身勝手」とは「自己中心的」と同意語で、自分の立場しか考えられない態度をあらわす。

こうした言い方をすると、「身勝手」に「わがまま」なイメージがつかまとう。しかし、発達的にとらえるなら、乳児は、本来、自己中心的存在である。なにしろ生まれて以来、泣けば親があやしてくれるし、腰回りの気持ちが悪くなればおしめを替えてくれる。そうした意味で、乳児は自己中心性を支えてくれる環境の中で成長している。乳児はかわいく無力な存在なので、まわりの者も乳児を身勝手と思わないだけで、実は自己中心的で身勝手なままで成長していく。

しかし、子どもが幼児期になると、他者に配慮した行動をとれるように自我を制限する方向でのしつけが始まる。親が「きょうだい仲良くしなさい」とか、「友だちにおもちゃを貸しなさい」「それはがまんしなさい」などと、他者との関係を大事にしたしつけを行うのがその具体例になる。自分の周囲にたくさん人がいて、自分を主張するだけでは場を共有できない。まわりの人 多くは子ども の気持ちと自分の気持ちとを勘案しながら、行動の仕方を決めていく必要が出てくる。

こうした形で成長するにつれ、いろいろな経験を重ねながら、子どもたちは自分を抑えて、周囲に協調した行動をとれるようになる。それが成長の1つの側面であろう。そう考えてくると、身勝手とは、中学生や高校生になつたのに、まだ自分のことしか考えられない幼児性を残している現れで、心の面での成長の遅れを意味していよう。

## 昔の子は人間関係の中で育つ——●

これまでの子どもたちは、様々な人間関係に取り巻かれて育ってきた。家庭では親の他にきょうだいも多く、その上、祖父母も同居している。さらに、近隣の人たちとの交流も密なので、子どもは多様な人間関係に囲まれて育ってくる。

日本は伝統的に子どもを大事にする社会で、多くの子が親の庇護のもとにかわいがられて育ったのは確かだが、それでも家が貧しかったので、食べ物も十分でなかった。それだけでなく、多くの子どもは幼いうちから様々な形で働いていた。小僧や子守などで他家へ奉公に出る子も少なくないが、家に残った子どもも農業や家事の手伝いに駆り出された。長野県などで農繁期に学校が休みだったことも、子どもが貴重な労働力だったことを物語っている。

さらにいえば、きょうだいの数が多いから、きょうだいの中でいさかいが絶えない。年下の子は年上のきょうだいの言いつけにしたがわなければならないが、時には主張することも大事だ。自分が年上なら、年下のきょうだいの世話をやきながら、自分の立場を通していく。きょうだいの中で切磋琢磨しつつ、どの子も育っていったのである。

そうした状況で育つと、人間関係の中での行動が身につく、身勝手になるはずもないが、小学校に入る頃から、子どもたちは地域の群れ遊び集団に加わる。といっても、正式のメンバーでない「みそっかす」としての参加である。みそっかすは見習いの期間で、メンバーのように行動できなくてもいいが、見習い期間にかくれんぼや鬼ごっこのルールを覚え、集団のメンバーとしての行動の仕方を習得しなければならなかった。小学3、4年生は群れ遊び仲間の中堅としてリーダーにしたがいが、年下の子を守り、群れ遊びを支えていくのが役割となる。そして上級学年になると、ガキ大将として集団を統率していかなければならない。

かつての地域には街角ごとに遊び仲間が存在したので、集団間の争いは日常的だった。それだけに、リーダーは相手集団から年下のメンバーを守る必要があった。なにしろ、遊び仲間はギャング集団といわれた通り、悪さをするとところに特徴があった。それだけに、群れを通して、子どもたちは清濁あわせた体験を積み重ねていった。

思い起こしてみると、遊び仲間を通して、かつての子どもは人とのつきあい方を覚えていった。具体例をあげるなら、「けんかをするときには飛び道具を使うな」「インチキをするな」「弱いものいじめは弱い子のすること」「ジャンケンの結果は神聖なもの」「勝ち逃げは駄目」などである。そうした中で、身勝手な行為は最もしてはいけないことの1つだった。

こう考えてみると、かつての子どもは家族、そして遊び仲間の中で人間関係にもまれ、集団内での行動を身につけて成長していったように思う。そうした子どもは、集団内の行動を習得しているから、学校の中で「先生の教えを守る」や「学級の仲間と仲良くつきあう」

などの行動をするのはそれほど大変ではなかった。

## 孤独に慣れた成長

しかし、現代の子どもは、かつての子どもに比べ、人間関係にもまれることの少ない成長をたどっている。まず家庭についていえば、経済的に豊かになったので、子どもたちは安心して、家庭での毎日を送れるようになった。働くことはむろん、家事の手伝いもしないで済む。不足感を味わうことは少ない。さらにいえば、核家族が一般的な上に、きょうだい数が少ない。兄と妹、あるいは姉と弟の場合も、子どもは一人っ子的な育ち方をしている。現代では家の中で人間関係にもまれることはまれになった。

そして、地域で群れ遊びをする子どもたちの姿が消えてから、30年近くが過ぎ、遊びを知らない世代が親になりはじめている。夕方の町はひっそりと静まりかえり、子どもの姿は見かけない。子どもたちの放課後は、塾やけいこ事へ行く子か、家の中でテレビを見ている子かに二分され、ギャング集団は心理学の教科書にしか残っていない郷愁の世界の出来事になりつつある。したがって、今の子どもたちは友と群れた体験は皆無に近い。

そうすると、友とけんかをしたことのない子どもが育ってくる。争ったことがないのだから、人との折り合いのつけ方を知らない。身勝手と見える行為もそうした人間関係の未成熟さのもたらしたもので、本人たちは身勝手といわれても、いわれている意味がわからないかもしれない。

友を持たない子どもたちは、放課後、自分の部屋の中で1人きりでテレビゲームをした

り、マンガを読んだりして時を過ごしている。マンガに飽きたら、テレビがあるし、カセットで好きな音楽を聴くこともできる。ファクスで友と連絡をとることもできる。

このように、現代の子どもたちのまわりには物言わぬメカニックな友がたくさん控えていて、それぞれの特徴を生かしながら、退屈をまぎらわせてくれる。メカの友は従順で、反抗することなく仕えてくれる。したがって、子どもは1つのメカに飽きたら、次の友を呼び出せばよいのである。そうした生活に慣れると、生身の友とのつきあいは気を遣うわりにスムーズに進まない。それならば、1人の方が気が楽と、1人の空間の中に安住の世界を求めるようになる。

このように、現代の子どもたちは家の中でも人とのふれあいが少なく、放課後の友はなく、家の中でメカニックな友との世界に安らぎを求めている。こうした生活を送っていけば、他者とは無関係に、自分の関心のおもむくままにマイペースの行動をとるのが当たり前になる。それが、おとなたちの目に「身勝手」と写っている可能性が強い。

### 人間関係の持ち方にそれぞれの立ち場 ―●

子どもの身勝手と個性とは重なり合う部分が多いので、身勝手を排除しながら、子どもをのびのびと育てることが大事であろう。そうした反面、これまでふれてきたように現代の子どもたちは人間関係の希薄な中で成長している。

中学生などに「友だち調査」を行うと、友に求める属性として、「ジョークのうまい子」や「ノリのいい子」「一緒にいると楽しい子」などがあがってくる。そして、「まじめな子

や「がんばり屋の子」などの順位は低い。

子どもたちは楽しそうに話してはいるが、それは表面だけで、心の底にある悩みは友に話せないでいる。「親の仲が悪く、家の中が暗い」や「成績が下がって、望みの高校に入れそうにない」などの悩みを話せる友が「学級に1人もいない」生徒が3割を超える。

それぞれの子が自分のことしか考えられず、相手の身になれない。互いに身勝手なそうした関係が、キレる子を生み、いじめや不登校を増加させているのであろう。それだけに、子どもたちを密接な人間関係のネットワークの中で育てることが大事になる。

ここで、見解が2つに分かれる。これから先の社会では、かつてのようなこまやかな人間関係に包まれて、絆のしっかりとした関係を保つことは期待できない。そうだとするならば、それぞれが自分のペースを保ちながら、ゆるやかな関係を結ぶ形が大勢を占めることになる。こうした動きを前提に、学校のあり方を考えてはどうかという考え方もある。

そうした一方、どのような社会でも、人とのふれあいは大事だ。それだけに、情報化社会だからなおのこと、人間関係を重視したい。その観点から、子どもの成長をとらえ直してはどうか。特に小学生の場合は、放課後の群れ遊びを保障すると同時に、学校でも小集団を活用した学習の機会を増やす。そうした形で、人とふれあう機会が増加すれば、身勝手な子は減っていこう。身勝手な子の存在を人間関係の希薄さを示すシグナルと思って、少し期間をかけて、身勝手さの減少を心がけていく立場である。

ゆるやかな人間関係の持ち方が確かだとして、それを教育的にどう考えたらよいか。考えを深めてみたいテーマである。



## 高校生の他者感覚 - ゆるやかな人間関係の持ち方 -

### 要約

#### 第1章 調査の意図と調査対象校 および調査対象者の属性

##### ① 調査の意図

複雑で多様化する社会の中で今の高校生は他者とのどのような関係を結んでいるのだろうか。また、関係を結ぶ中でどのような意識をもっているのだろうか。さめた高校生とか表面的なつきあいしか望まないといわれる中で、高校生はどんな自己像をよりどころとして他者との差異や同一化を求めているのだろうか。

本調査は上のような問題意識に立って友人とのつきあい、親しさの度合い、距離のとり方、理解度・許容度、そして自分らしさ、親友の質およびその判断枠などをたずねてみた。さらに、高校生の「世間」範囲（恥意識や他者の視線の意識）などもたずね、アイデンティティのあり方についても聞いた。

##### ② 調査対象者の属性

今回の調査対象校は6校である。学校の所在地は北海道4校（A校、B校、C校、D校）、福岡1校（E校）、埼玉1校（F校）である。埼玉の1校（F校）のみ私立で、残り5校は公立である。調査回答者は、高校1年～3年

の1,512名。男女の内訳は、男子721名、女子791名。調査時期は1998年10月下旬から12月上旬である。

部活動は「運動部・熱心」が2割を超えている。「文化部・熱心」な生徒は1割、部活動に「入ったことがない」生徒は2割強いる。部活動の週の回数は7回が一番多く、3割弱である。

きょうだい数は2人が多く（5割）、次いで3人（3割）、出生順位は1番目が一番多く（5割弱）、次いで2番目（4割）

現在アルバイトをしている割合は1割いる。かつてアルバイトをした経験は4割弱で、経験のない者が6割を少し超えている。卒業後の進路は大学・短大への希望者が7割近い（p.13 表1 - 1、p.15 表1 - 2）

#### 第2章 高校生にとっての友人・さまざまな他者・コミュニケーションの技法

##### ① 友人の数

高校生の表明する「友人」の数は多い。「仲のよい友人グループ」に複数所属している（p.17 表2 - 1、3、p.18 表2 - 4）

## ② 親しみを感じる存在

他者への距離感は相手によって3タイプに分けることができる。同世代の仲間を感じる「重要な他者」、身内に感じる「身近な他者」、教師や近所の知り合いを感じる「距離をもった他者」である (p.25 表2 - 13, 14, p.26 図2 - 1)。

## ③ コミュニケーション技術

人と接するコミュニケーション技術を彼らの多くが獲得し、「思いやり」を共有し合う関係が意識されている。しかし、プライドの高い者や無関心の者も少数ではあるが存在する。これはコミュニケーションの希薄化のあらわれかもしれない (p.28 表2 - 15~p.31 表2 - 17, p.29 図2 - 2)。

## ④ 「さめた」関係・「熱い」関係

高校生は「同級生・友人」に「熱い」関係を求める。友人との関係意識は、現状の中での「オアシス」なのか、他の相手との「さめた」、期待をもてない反動でもあろう。

ない」という3つの軸によって、より構造的に把握できることが明らかとなった (p.34 表3 - 1, p.36 表3 - 3, p.37 図3 - 3, p.38 図3 - 4)。

## ② 友人関係と自己意識

自己の一貫性、拡散は、ともに8割に達している。広い友人関係を求める志向は自己肯定感と、関係を回避する志向は自己拡散と関係がある。状況に応じた関係を求める志向は、自らの自分らしさに肯定感をもちつつも、それが状況ごとに異なるという感覚、つまり流動性のある多元的な自己と関連している (p.39 図3 - 5, p.42 図3 - 6, p.40 表3 - 4 ~ p.42 表3 - 6)。

## ③ 友人関係、自己意識、不安・悩み

「孤独感」「居場所のなさ」「虚無感」を感じている生徒が、5~6割である。特に関係をうまく作れず、不確かな自分らしさしかもてないタイプが、最も問題を抱えている (p.43 図3 - 7, p.49 図3 - 9, p.44 表3 - 7, p.45 表3 - 8)。

## 第3章 友人関係の現在

- 友人関係・自己意識・不安 -

## ① 友人とのつきあい方

広く浅い関係が25.2%、狭く深い関係が38.0%である。また、24.9%が広く浅いかつ狭く深い関係であり、11.9%はどちらでもない。広く浅い狭く深いという二分法では把握しきれない側面がある。さらなる分析の結果、関係の広さ狭さ、関係を構築することを望む望まない、関係性が状況に応じた柔軟さをもちもた

## ④ 友人関係のタイプ

友人とのつきあい方の3つの要素のパターンによって、7つのタイプが見いだされた。広くかつ深いともいえるような友人関係をもつ「状況適応型社交」「柔軟関係」の2つのタイプが合わせて4割に達している (p.46 図3 - 8, p.47 表3 - 9)。

## 第4章 これが私の生きる道

### ① 頼ること・頼られること、

#### 干渉すること・干渉されること

頼ったり頼られたりすることについては、「人の親切を喜んで受け入れる」に88.3%が肯定的に回答しており、ほとんどの高校生が周りの人に頼ることについては肯定的な態度を示している。「人助けが躊躇なくできる」と「自分より立場の弱い人を助けたい」に肯定的に回答した割合はいずれも6割台だが、「とてもそう」という回答はいずれも10%前後で、あまり深く頼られたくない様子がうかがえる。

干渉したり干渉されたりすることについては、「人に自分の短所を直接言われたくない」と肯定的に思っている割合は63.5%で、ほぼ3人に2人が干渉されることへの抵抗感を示している。「人のいいところはほめる」に肯定的な回答をした割合は84.5%にも上るが、「人に言ったら悪いと思うことは言わない」に肯定的な回答をした割合が70.5%、「人の非難をしだすと止まらなくなる」に否定的な回答をした割合が55.8%と、干渉することについては、内容に応じたそれなりの節度があるようだ（p.53 図4 - 1）。

### ② 頼ったり頼られたりしたい人間関係

「学校での出来事について」一番話したい相手は親友（48.4%）で、「自分の成績や進路について」一番話したい相手は両親（41.2%）。頼りたい相手としては、おしゃべりをするにしても、悩み事の相談、勉強や進路の相談にしても、親友がとても頼り。

学校のことやクラブ活動といった身のまわりの出来事は親友に最も話したいし、頼りになるが、進路や社会の出来事といった世の中

のしくみにかかわることは両親に最も話したいし、頼りになると思っており、つきあっている人や好きな人とは学校での出来事は話したいけれど、社会の出来事のようなお堅い話は話したいとは思っていないし、クラブ活動については高校の先輩や後輩とも話したいし、好きな人のことは両親には内緒でもきょうだいからはこっそり知恵を拝借したいし、進路については学校の先生とも話したいし頼りにしたい、というように、内容によって話したい相手を使い分けている様子がうかがえる（p.55 表4 - 1、p.57 表4 - 2、p.56 図4 - 2、p.59 図4 - 3）。

### ③ 干渉したり干渉されたりしても かまわない人間関係

きょうだいに対して、干渉されることには許容度が低いですが、干渉することに対しては積極的にかかわろうとする態度がみられる。つきあっている人や親友に対しては似たような傾向がみられ、干渉されることも干渉することも厭わない関係である。同級生、高校の先輩や後輩、高校以外の友人、中学時代の友人は、干渉されることも干渉することもやや許容度が低いですが、その中でも中学時代の友人に対する許容度が一番高く、また状況と相手に応じて許容度を使い分けている様子がうかがえる（p.60 表4 - 3 ~ p.62 表4 - 5、p.63 図4 - 4）。

### ④ 「親友」という人間関係

「友人」の数と「親友」と呼べる人の人数を比較したところ、「友人」については8割以上が10人以上いると答える一方、「親友」については9割が1桁しかいないと回答している。

どんなことができれば「親友」だと思うかについては高い順に、相手に「本当の自分を

見せることができること」(71.5%)、「お互いに悩みを話せること」(69.1%)、「気が合うこと」(68.8%)、「一緒にいて疲れないこと」(62.5%)、「相手の意見や行動を認めてあげること」(43.4%)、「本気でケンカができること」(35.7%)、「相手のために時間を割けること」(28.2%)となっている (p.65 図4-5、p.66 図4-6)

## 第5章 高校生の人との距離感

### ① 恥意識

現代の高校生なりに恥の文化が存在し、ほぼ「電車の中」>「道や広場」>「教室」の順で恥意識が存在する。また一般に男子より女子の方が恥意識が存在する (p.69 表5-1)

### ② 他者の行為への許容 - 不許容

万引き(38.1%)、通り魔(10.6%)など、逸脱的な他者の行為を許容する高校生は多くない。また一般的に接する他者に対して、いらいらした(70.4%)、ムカついた(48.0%)する傾向がみられる一方で、お年寄り(76.2%)やいじめられている友だち(40.8%)などへ、保護的にコミットメントしていく傾向もみられる。また部活動や友人関係などが、これらの他者への許容・不許容へ影響を与えている側面がある (p.71 表5-2、p.73 表5-3)

### ③ 一番落ち着くところ

高校生の一番落ち着くところは、「部屋で1人有的时候き」(51.9%)である。またアイデンティティの自己拡散的な高校生は、「外で1人有的时候き」が一番落ち着く傾向がみられる (p.76 表5-6～p.77 表5-9)

## 〔調査概要〕

対象 北海道・埼玉・福岡の公立・私立高校  
6校の1～3年生1,512名(男子721名、  
女子791名)

時期 1998年10月下旬～12月上旬

方法 学校通しによる質問紙調査

サンプル数 (人)

	男子	女子	合計
高1	397	335	732
高2	218	272	490
高3	106	184	290
合計	721	791	1,512

## 〔執筆分担〕

### 序章

深谷昌志(東京成徳短期大学教授)

### 第1章

望月重信(明治学院大学教授)

### 第2章

浜島幸司(上智大学大学院生)

### 第3章

岩田 考(東京学芸大学大学院生)

### 第4章

西島 央(東京大学助手)

### 第5章・まとめ

大野道夫(大正大学助教授)

## 第1章 ||||

# 調査の意図と調査対象校 および調査対象者の属性

不透明で多元化する社会の中で、高校生は人々とどんな人間関係を結んで生きているのだろうか。自分をとりまく周囲の人たちとは深く、浅く、または広く、狭くつきあっているのだろうか。

今の高校生は上でみるように、単純明快なくかわり意識>をもって他者とつきあっているわけではない。いやむしろ、親しさにもいくつかの次元があり、距離のとり方も相手によって変えているようである。

NHKの世論調査によると、今の高校生は次のように描かれている。

「ひととひととのやりとりも自分が傷つくことを恐れ深入りせず遊戯化しメディアを仲介してのコミュニケーションに埋没しているがひとの体温や手触りの実感のなさを感じている」(NHK世論調査部編『現代中学生・高校生の生活と意識』〔第2版〕明治図書、1995)

さて、私たちが若者の対人関係に注目するのは、おとなのように人との「かわり」が何らかの利害や効率の価値追求につながり、自己表現の回路を多様さの中で求める

自由さをもっていて、それが社会へのひろがりの可能性を秘めていると考えるからである。

豊かさの中で消費にコミットし、商品を通じて対人関係を制御したり、メディアの向こうがわに他者を想定する「他者間接指向的」対人のコミュニケーションチャンネルを自由に開いたり閉じたりしている高校生。「同質性への信頼感」が消失しつつある状況の中で、商品をコミュニケーションツールとして使い、自分だけの世界からしか対人関係を維持しない、リアルなコミュニケーションをしない若者。

しかし、このようにコミュニケーション不全が免疫化しつつあるといっても、「関係の偶発性」にさらされることで、他者の視線をより一層浴びることになり、自分であることの体感も強くもつようになったといえないだろうか。

高校生たちは不透明で錯綜した環境をそのまま受け入れ、複雑で重層的な環境を不安のうちに対人関係からひたすら退却しているわけではない。

自分たちの身のまわりの複雑さを縮減したり、クリアな見通しを得ようと、また関係

維持のための「戦術」を用いているに違いない。本調査でそのことを確かめたい。

確かに私たちが生きる現代社会は、豊富な選択肢に恵まれた社会である。その豊富な選択肢は反面、私たちに処理しきれない複雑性を経験させてもいる。それだけに若者の間で

「関係性モデル」をもてないでいる。選択肢の異常な増殖は選択不安という問題を引き起こしているかもしれない。それが「他者感覚」の中にどうあらわれているか。本調査のねらいはここにある。

## 1 調査の意図

### 1) 世代コードの解体

高校生なる社会集団は「世代コード」によって形成されているのだろうか。かつての戦後の混沌した環境から発見された「世代コード」とはみんな同じ「仲間」といった同質性意識があった。太陽族、カミナリ族、みゆき族などはたから見てわかりやすいイメージを持っていた。だから若者が視えていた。

私たちの社会は「同質性への信頼感」を基礎とする社会であった。組織も「信頼感」のもとに存在していた。だから私たちの社会は「異質な他者」という存在に敏感になる。そしてときにこれを排除しようとする力学も働くことを知っている（岩間夏樹『戦後若者文化の光芒』参照、日本経済新聞社、1995）。

しかし、今の社会はあまりに複雑で不透明であるため、私たちは今住んでいる地域や社会の全体像や将来の見通しといった予測がつかない、というのが本当のところではないか。これほどまでのマスメディアの発達のおかげで、遠い世界の動向や出来事が手に取るようにわかる。他方で、携帯電話で身近なことを何でもかんでもしゃべる。

携帯電話やPHSに夢中になる若者は「世代コード」の確認をしているかのように思えるが、実はバラバラの「個別コード」によるもので、「同世代感覚」へのよりかかりはないように思える。仲間や仲間うちが「世代コード」として成立しにくくなっている。

本調査で、高校生は「自分」とか「自分ら

しさ」をどのように提示し、そのような自分は他者からどのように見えているのか、また自分は他者から見てどのように思われているのかについて調べてみることは興味深い。

### 2) 複数の私

状況や場合にに応じて、性格や雰囲気が変わるということは誰しも覚えがある。また「相手」によって話題を変えたり、受容したり拒否したりする。

このように自分という現象は、ミードの自我論が指摘するように、「自己は無数の他者たちとの関係において成り立つ」と同時に、「自己自身との間に関係を取り結ぶ」と説明できる。またゴッフマンは自己の成り立ちについて「制度的な役割に拘束される自己」と「そういった拘束から自由な自己」とに分けたが、高校生の人間関係を考えると、それぞれの状況にふさわしい役割を果たすといった制度的な意味合いよりも＜自由な私＞という世俗的な観点から考えられる。つまり他者との関係において、自由で無責任な位置におかれている高校生の実態をとらえ、身動きの自由でない関係性（かわりごと）を生きるおとなとは違う関係の枠組みを想定できる。

確かに同世代間のつながりの意識の諸相において、高校生の中で「過剰な疎隔と癒着、反発と親和の往復運動となってあらわれる」（小浜逸郎『大人への条件』ちくま新書、1997）のは思春期独特のあり方といえる。

ゴッフマンは「ある行為主体がある役目を演じているとき、彼は自分を観察する人びとに、彼らを前にして作りだされた印象が真面目に受け容れられることを暗黙のうちに求めている」(E.ゴッフマン『行為と演技』誠信書房、1974)と指摘するが、この「真面目」が若者の間で消失されていないだろうか。

### 3) 高校生の人間関係観

現代の高校生はさめているという指摘がある。自分自身の行為に信をおかずに相手の信頼にも最終的にはなんらの関心を示さない、というのである。本調査でも指摘されているように「親しみを感じていない相手には現状維持の関係・スタンスをおいてかかわる」というのである。

高校生の他者感覚について以下、問題意識を掲げてみよう。

①今の高校生は人間関係を大切にしているものの、かなり範囲が限られているのではないか。

②「意味ある他者」(自分をじっと見守ってくれる人)がめっぽう少なくなった。今の高校生には励まし合ったり、叱ったり、ほめ合ったりする友人がいるのか。また他者を受容する範囲をどこに求めているのか。

③自分たちの身のまわりのわずらわしさを縮減したり、クリアな見通しや関係維持のた

めの「戦術」を高校生はもっているだろうか。

④人が集まる場所で他者の視線にさらされることをどう思っているか。また、高校生たちは自己表現の回路をどこに求めているか。

⑤今の高校生は「自分というもの」の同一性、一貫性が保たれているのか。「自分らしさ」をどう思っているのか。

⑥今の高校生は「関係の偶発性」にさらされて生きていないだろうか。かなりさまざまな状況に応じて関係性を使い分けているのだろうか。

⑦若者の無干渉主義が指摘されるが、干渉の内容、相手によって許容度はどうなるのか。

⑧友だちとの交流の基本は感情移入といわれるが、今の高校生は「そこそこの人間関係」を理想としているのだろうか。また、深入りはしたくないが、「相互依存の関係」をくずしたくないと本気で思っているのだろうか。

⑨コミュニケーションツールは高校生の間でどの程度の相互性を確保しているのだろうか。相互依存関係の中で心の落ち着き(アイデンティティ)、許容の範囲と程度、ツールの使い分けはどうなっているのだろうか。

⑩「隠しておきたいこと」や「恥ずかしいこと」を打ち明けるといって「自己開示」(千石保『「まじ」の哲学』角川書店、1996)を高校生はどこまでしているだろうか。

## 2 調査対象校および調査対象者の属性

### 1) 調査対象校について

今回の調査対象校は6校である。学校の所在地は北海道4校（A校、B校、C校、D校）福岡1校（E校）埼玉1校（F校）である。埼玉1校は私立高校で、残り5校は公立高校である。公立高校は、全体的に進学状況が4年制大学、短大をはじめ、専修学校、看護系にわたり、幅広い学力の生徒が在籍している。北海道4校は、大都市の比較的近くにあつて、高校の入学難易度のレベルはほぼ等しいと考

えてよい。埼玉の私立1校は国際感覚を育てることをモットーとし、「ふれあい」や「体験」を重視する高校で、サークル数も多く、「個性」を大切にする学校である。進学先も国公立大学入学が20名近くおり、大学進学（短大を含む）も幅広い、比較的進学校といえる。

### 2) サンプル構成

今回のサンプル構成を学校別に示すと、表1-1のようになる。

表1-1 サンプル構成

(%)

	全 体	性 別		学 年		
		男 子	女 子	1 年	2 年	3 年
A 校	24.7	20.1	29.0	15.6	22.9	51.0
B 校	4.7	5.7	3.8	0.0	14.5	0.0
C 校	1.7	1.7	1.8	0.0	0.0	9.0
D 校	14.2	11.2	16.9	13.7	0.0	39.7
E 校	20.5	19.7	21.2	0.3	62.7	0.3
F 校	34.1	41.6	27.3	70.5	0.0	0.0

(不明は省略)

### 3) 調査対象者の属性

#### ①部活動

部活動の状況は表1 - 2の通りである。1年の24.9%、2年の30.1%が運動部に熱心に参加しており、これに文化部に熱心に参加している生徒を含めると、1年は35.4%、2年は42.8%である。全体では、「以前入っていた」「入ったことがない」が合わせて45.8%に達する。

なお、部活動の週あたりの回数は以下の通りである。

- 1回 ( 11.2% )
- 2回 ( 7.9% )
- 3回 ( 6.2% )
- 4回 ( 7.0% )
- 5回 ( 11.6% )
- 6回 ( 27.4% )
- 7回 ( 28.7% )

部活動は週6～7回が多く、男子生徒の方が女子生徒より多くやっている。

#### ②きょうだい数

- 1人 ( 8.6% )
- 2人 ( 53.7% )
- 3人 ( 31.7% )
- 4人以上 ( 5.9% )

#### ③出生順位

- 1番目 ( 46.7% )
- 2番目 ( 40.1% )
- 3番目 ( 11.9% )
- 4番目以降 ( 1.3% )

#### ④アルバイト

現在アルバイトをしているかをたずねた結果は以下の通りで、89.5%の高校生はアルバイトをしていない。

- アルバイトをしている = 10.5%  
(男子8.1%、女子12.7%)
- アルバイトをしていない = 89.5%  
(男子91.9%、女子87.3%)

アルバイトは、女子の方が比較的経験している。

- アルバイトの経験あり = 36.8%  
(男子34.2%、女子39.1%)
- アルバイトの経験なし = 63.2%  
(男子65.8%、女子60.9%)

#### ⑤希望する卒業後の進路

- 就職 ( 5.2% )
- 家業・家の手伝い ( 0.1% )
- 各種・専修学校 ( 10.8% )
- 短大 ( 6.0% )
- ふつうの4年制大学 ( 47.5% )
- むずかしい4年制大学 ( 15.7% )
- 決めていない ( 12.0% )  
(その他除く)

卒業後の進路希望は「ふつうの4年制大学」が47.5%と高く、性別にみると、男子生徒の5割以上が希望している。「むずかしい4年制大学」も男子が17.9%で、女子より比較的高い割合である。

表1 - 2 部活動

(%)

	全 体	学 年			性 別	
		1 年	2 年	3 年	男 子	女 子
運動部・熱心	24.9	24.9	30.1	16.2	34.5	16.1
運動部・不熱心	8.2	11.1	6.1	4.5	8.9	7.6
文化部・熱心	10.8	10.5	12.7	8.3	4.3	16.8
文化部・不熱心	8.1	5.1	13.5	6.6	2.8	12.9
以前入っていた	23.6	19.9	20.0	39.0	23.7	23.5
入ったことがない	22.2	27.1	16.2	20.0	23.9	20.7
その他	2.2	1.4	1.4	5.5	1.9	2.4

## 第2章 ||||

# 高校生にとっての友人・さまざまな他者・コミュニケーションの技法

私たちは社会生活を送る中で、多くの人間（自分以外の人）と関係している。自分以外の人と関係することで、自分の人生が送れているといってもいい。それでは、今の高校生

たちは、人とのかかわり方をどのように意識し、実際に関係をもっているのだろうか。

本章では、高校生の他者との関係に対する実態と意識を中心にみたい。

## 1 「友人」とのつきあい

### 1) 「友人」の数

彼らには現在、何人の「友人」がいるのだろうか。表2-1がその割合を示している。

この結果では、多くの高校生にとって「友人」と考える人数が10人以上いる。この10人以上の「友人」をどのように考えるかはむずかしいが、少なくとも複数の相手とのコミュニケーションは行われている。これらの相手との共有する何かによって、彼らの生活は支えられているといえよう。

この「友人」の数が、現在所属している部活動によって差があるかどうかをみたのが表2-2である。この結果から、運動部に熱心である生徒に「50人以上（39.0%）」とする回答が目立ち、部活動にあまり熱心ではない

生徒に「10～19人（運動部熱心でない29.5%、文化部熱心でない37.1%）」とする回答が目立った。ただし、部活動に不参加であっても、「友人」の数に大きな差はない。

### 2) 「仲のよい友人グループ」

「友人」の数だけでは、現在の実態はよくつかめない。そこで、現在彼らが高校生活の中心においている集団を「仲のよい友人グループ」として、その状況をたずねてみた。表2-3は、「仲のよい友人グループ」の有無について示した表である。全体の90.8%が「ある」と回答し、自らが「仲のよい友人グループ」に属していることを意識している。男子に「ない（14.9%）」という割合が高い。

それでは「仲のよい友人グループ」が「あ

表 2 - 1 友人の数 × 学年・性

(%)

	全 体	学 年			性 別	
		1 年	2 年	3 年	男 子	女 子
いない	1.8	2.3	1.7	0.7	3.3	0.4
1～9人	17.2	16.2	15.7	21.9	17.0	17.4
10～19人	24.0	21.8	25.5	26.9	22.9	25.0
20～49人	27.0	26.2	28.0	27.6	25.9	28.1
50人以上	30.0	33.5	29.2	22.7	30.9	29.2

表 2 - 2 友人の数 × 部活動

(%)

	運動部 ・熱心	運動部 ・不熱心	文化部 ・熱心	文化部 ・不熱心	以前 入っていた	入った ことがない	その他
いない	2.4	0.0	0.7	1.7	3.5	1.3	0.0
1～9人	14.7	18.6	17.0	18.1	18.4	18.8	9.7
10～19人	18.2	29.5	28.1	37.1	24.8	26.2	25.8
20～49人	25.7	24.8	32.0	25.9	26.2	25.9	19.4
50人以上	39.0	27.1	22.1	17.2	27.1	27.8	45.2

表 2 - 3 仲のよい友人グループの有無 × 学年・性

(%)

	全 体	学 年			性 別	
		1 年	2 年	3 年	男 子	女 子
ある	90.8	91.1	89.1	92.7	85.1	95.9
ない	9.2	8.9	10.9	7.3	14.9	4.1

不等号は10%以上の差を表す

る」ことを表明した彼らは、いくつのグループに所属しているのだろうか。それが表2 - 4である。この結果をみてもわかるように、必ずしも「仲のよい友人グループ」は1つだけではない。むしろ、複数所属していることがわかる。所属集団が2つ以上と回答する割合は全体で80%を占める。どうやら、彼らは状況(場面)の異なった複数の「仲のよい友人グループ」の中で、関係を続けているようである。

グループの形態についてももう少し詳しくみ

てみたい。表2 - 5は、「仲のよい友人グループ」の属性について質問した結果である。2つ以上「仲のよい友人グループ」がある者には、一番「仲のよい友人グループ」について回答してもらった。

全体的に「クラスの友人(46.5%)」が多い。他にも、「部・課外活動の友人(12.4%)」「同じ学校(上記以外)の友人(17.7%)」と、現在通う学校内でのグループが80%近くを占めている。このことから、彼らが重要視する集団は在学中から始まったものであるといえ

表2 - 4 仲のよい友人グループの数

(%)		
1つ	2つ	3つ以上
20.8	43.3	36.0

表2 - 5 仲のよい友人グループの属性 × 学年・性

	全 体	学 年			性 別	
		1 年	2 年	3 年	男 子	女 子
クラスの友人	46.5	51.1	44.5	38.3	36.5	54.8
部・課外活動の友人	12.4	9.1	20.5	7.4	14.6	10.6
同じ学校(上記以外)の友人	17.7	9.8	17.6	37.5	17.4	18.0
以前の学校の友人	19.7	27.1	14.4	9.7	26.8	13.8
その他	3.7	2.8	3.0	7.1	4.7	2.9

不等号は10%以上の差を表す

よう。

その傾向は、学年差をみるとより顕著になる。1年生では「以前の学校(中学校)」の割合(27.1%)が高く、学年の上昇とともにその割合は減少し、3年生になると「同じ学校の友人(37.5%)」の割合が増加する。推測するに、2年生まで同じクラスで「仲のよかった友人グループ」が、クラス替えなどの事情でグループの属性が変化したのではないか。在学中に固定化した「仲のよい友人グループ」は、同じクラス内にいなくとも存続す

る。女子に「クラスの友人(54.8%)」関係が多く、男子に「以前の学校の友人(26.8%)」が多い。

次に、「仲のよい友人グループ」が何人で構成されているか、その状態をみたのが表2-6である。構成人数は3~9人が、全体で85.0%を占めている。「友人」の数が10人以上いても、一番「仲のよい友人グループ」となると、その数は少なくなる。お互いの顔がはっきり見える小集団が「仲のよい友人グループ」の特徴であるといえる。

表2-6 仲のよい友人グループの構成人数 × 属性

(%)

		全 体	グループの属性				
			クラス の友人	部・課外 活動の友人	同じ学校 (左記以外) の友人	以前の学校 の友人	その他
構 成 人 数	2人	4.3	3.8	2.4	3.9	6.8	6.7
	3~5人	55.7	58.7	48.2	57.1	57.2	35.6
	6~9人	29.3	30.7	35.1	26.6	25.0	26.7
	10人以上	4.9	2.8	4.8	7.3	4.2	17.8
	決まっていない	5.9	4.1	9.5	5.2	6.8	13.3

表2 - 7は「仲のよい友人グループ」の属性と構成人数を所属数でみたものである。この表から、友人グループ数によって、一番「仲のよい友人グループ」の構成人数に差があるのかを判断してみる。「仲のよい友人グループ」に1つ所属か、2つ以上の所属かによって、部分的にはあるが、一番「仲のよい友人グループ」の構成人数の位置づけ方に特徴がみられる。

「部・課外活動の友人」「同じ学校の友人」「以前の学校の友人」をみていると、「仲のよい友人グループ」が1つという者は構成人数が多く、2つ以上の複数グループ所属を意識している者は、構成人数が少ない傾向にある。これは複数所属を感じる者ほど、少人数でのグループ形成を意識しているものと考えられる。

表2 - 7 仲のよい友人グループの属性・数 × 構成人数

(%)

グループの属性	グループ数	グループの構成人数				
		2人	3～5人	6～9人	10人以上	決まっていない
クラスの友人	1つ	6.8	56.8	30.3	4.5	1.5
	2つ	3.1	58.4	33.5	1.9	3.1
	3つ以上	2.4	60.2	28.2	2.4	6.8
部・課外活動の友人	1つ	3.8	38.5	50.0	0.0	7.7
	2つ	1.4	52.9	37.1	4.3	4.3
	3つ以上	2.9	47.1	27.1	7.1	15.7
同じ学校 (上記以外)の友人	1つ	3.6	38.2	40.0	12.7	5.5
	2つ	3.9	60.2	24.3	6.8	4.9
	3つ以上	4.0	66.7	20.0	4.0	5.3
以前の学校の友人	1つ	4.5	54.5	29.5	4.5	6.8
	2つ	8.0	63.7	20.4	2.7	5.3
	3つ以上	6.8	53.4	28.2	4.9	6.8
その他	1つ	18.2	27.3	9.1	36.4	9.1
	2つ	10.0	10.0	50.0	30.0	0.0
	3つ以上	0.0	52.4	28.6	4.8	14.3

### 3) 話題

「友人」「仲のよい友人グループ」のつきあいの中で、どのような話をするのだろうか。その結果が表2 - 8である。

全体では、「テレビの話(78.5%)」「マンガ・雑誌の話(73.6%)」「趣味の話(71.0%)」「異性の話(78.5%)」が70%を超える。マスメディアを中心とした彼らのコミュニケーション

ョン形態がみてとれる。

学年別では、3年生に「勉強の話(70.8%)」「将来や進路の話(90.0%)」「個人的な悩み(65.3%)」が多くなる。彼らが直面している進学や就職に関して、不安が強くなるのだろう。男子に「趣味の話(75.1%)」をする割合が高く、女子に「異性の話(82.8%)」「将来や進路の話(69.1%)」「個人的な悩み(73.9%)」「お互いの家族の話(56.7%)」を

表2 - 8 話題 × 学年・性

(%)

	全 体	学 年			性 別	
		1 年	2 年	3 年	男 子	女 子
勉強の話	60.4	54.7	62.6	70.8	51.7	68.1
テレビの話	78.5	77.0	78.8	81.6	77.1	79.7
社会問題の話	33.1	32.5	28.6	42.4	36.2	30.4
マンガ・雑誌の話	73.6	76.2	73.9	66.7	74.6	72.7
趣味の話	71.0	72.6	71.2	66.6	75.1	67.3
異性の話	78.5	76.2	78.4	84.4	73.7	82.8
将来や進路の話	60.6	48.0	62.2	90.0	51.2	69.1
個人的な悩み	59.5	58.8	57.2	65.3	43.4	73.9
お互いの家族の話	38.3	34.7	38.7	46.9	17.8	56.7

「かなり」+「ときどき」する割合  
不等号は10%以上の差を表す

する割合が高い。

話題の頻度が「仲のよい友人グループ」の属性、構成人数によって、どのようになっているのかをみると、表2 - 9のようになる。

所属が「以前の学校の友人グループ」では「勉強の話（51.3%）」はあまりしないが、「趣味の話（75.8%）」をする傾向がある。一方、「クラスの友人」では、「勉強の話（63.0%）」と、「趣味の話（66.0%）」は同じである。

構成人数が少ないほど「勉強の話」「進路の話」「個人的な悩み」「お互いの家族の話」をする頻度が多い。一方、多人数グループではあまり個人的な話はされない。

#### 4) つきあいの中味

彼らの「仲のよい友人グループ」の大半は、学校で形成されたものである。彼らは学校空間の中で時間・話題を共有している。それでは、学校以外の空間ではどういうつきあいが

行われているのだろうか。このつきあいの中味を聞いたのが、表2 - 10である。

全体の「放課後や休日にも会う（79.8%）」、「お互いの家を行き来する（61.1%）」という結果から、彼らは友人と学校以外の空間でも会っていることがわかる。「お互いの家を行き来する」のは、学年別では3年生（67.7%）が多く、性別では男子（65.5%）に多い。「ポケベルや電話で話す」のは、女子（80.5%）に多い。

つきあいの中味として、「お金」と「ノートやCDなどの物」の貸し借りについてたずねたところ、「物（86.3%）」の貸し借りは頻繁に行いつつも、「お金（51.8%）」に関しては厳しい。これを「仲のよい友人グループ」の属性、構成人数でみたものが表2 - 11である。

「クラスの友人」は他のグループに比べて、学校外での交友が低い。また、「お金」の貸し借りは、集まりの人数が多くなるほど、許

表2 - 9 話題 × 仲のよい友人グループの属性・構成人数

(%)

	グループの属性					グループの構成人数				
	クラスの友人	部・課外活動の友人	同じ学校の友人	以前の学校の友人	その他	2人	3~5人	6~9人	10人以上	決まっていない
勉強の話	63.0	65.3	64.2	51.3	55.3	68.4	64.9	58.1	44.3	45.5
テレビの話	81.3	79.0	83.2	74.7	68.1	75.4	79.6	81.3	75.4	77.9
社会問題の話	31.5	37.3	32.9	37.0	38.3	36.8	34.4	32.2	31.1	36.4
マンガ・雑誌の話	74.3	72.6	76.8	75.8	61.7	70.2	74.5	75.5	68.9	73.7
趣味の話	66.0	72.9	75.9	75.8	72.3	66.7	71.1	72.8	61.7	67.5
異性の話	80.0	81.0	84.5	76.6	87.0	73.7	79.8	82.8	83.6	77.9
将来や進路の話	60.2	68.1	69.4	53.2	72.3	73.7	62.7	63.2	50.8	46.8
個人的な悩み	61.6	62.7	63.4	59.6	63.8	78.9	63.7	59.3	57.4	44.2
お互いの家族の話	42.6	34.9	46.3	31.6	38.3	59.6	42.4	37.5	29.5	23.7

「かなり」+「ときどき」する割合

容する傾向がある。

5) 高校生にとって友人とは

彼らは多くの友人をもち、複数の「仲のよい友人グループ」に所属している。その属性の半数は「クラスの友人」で占められ、グループの構成人数は、3～9人の間に集中する。「友人」の数に比べて、「仲のよい友人グループ」の構成人数の少なさは、彼らが「友人」の中で、誰を重視しているか「区別」してい

ることがみてとれよう。

話題は「テレビの話」「マンガ・雑誌の話」「趣味の話」「異性の話」をよくする。3年生は「進路の話」をお互いに相談しあう。女子は、男子よりも「勉強の話」「個人的な悩み」「お互いの家族の話」「将来や進路の話」をよくする。彼らのつきあいは、「物」の貸し借りを許容しても、「お金」には厳しい。彼らは自分の内面を「友人」に語ることはあまりしない。それが、日常の関係であるといえよう。

表2 - 10 つきあいの中味 × 学年・性

(%)

	全 体	学 年			性 別	
		1 年	2 年	3 年	男 子	女 子
放課後や休日にも会う	79.8	80.6	76.4	83.4	80.2	79.5
お互いの家を行き来する	61.1	60.2	58.5	67.7	65.5	57.1
ポケベル・電話で話す	68.4	68.9	65.2	72.3	54.8	80.5
お金の貸し借りを する	51.8	49.6	50.4	59.7	55.5	48.5
ノートやCDなど、 物の貸し借りを する	86.3	87.3	84.8	86.2	81.4	90.8
ケンカや仲間割れを する	16.7	20.1	12.1	15.5	14.8	18.2

「よく」+「ときどき」ある割合  
不等号は10%以上の差を表す

表2 - 11 つきあいの中味 × 仲のよい友人グループの属性・構成人数

(%)

	グ ル ー プ の 属 性					グ ル ー プ の 構 成 人 数				
	クラス の友人	部・課外 活動の友人	同じ 学校の友人	以前の 学校の友人	その他	2人	3～5人	6～9人	10人 以上	決まっ ていない
放課後や休日にも 会う	75.1	85.1	88.9	87.2	89.4	77.2	81.4	81.6	85.2	85.7
お互いの家を行き来 する	51.5	57.1	75.6	79.6	71.7	56.1	63.3	60.6	73.8	66.2
ポケベル・電話で 話す	66.8	63.7	73.1	79.6	78.7	89.5	70.1	68.5	73.8	67.5
お金の貸し借りを する	55.4	57.5	58.1	40.4	57.4	47.4	50.9	54.5	61.7	64.9
ノートやCDなど、 物の貸し借りを する	88.2	91.0	88.9	86.8	83.0	87.7	88.5	87.8	90.2	85.7
ケンカや仲間割れを する	18.3	19.0	14.5	14.4	19.1	17.5	16.0	16.8	24.6	23.7

「よく」+「ときどき」ある割合

## 2 今の親しみと今後の関係

(「重要な他者」・「身近な他者」・「距離をもった他者」)——●

### 1) 自分を理解してくれる存在

表2 - 12は「具体的な他者」と提示した人々から、自分のことをわかってくれていると思う割合(全サンプル数)である。「友人グループ(85.7%)」「お母さん(77.5%)」「同級生(72.7%)」「きょうだい(65.5%)」の順で、彼らは自分のことを理解されていると思っている。逆に、「担任の先生(39.9%)」「近所の知り合い(19.9%)」といった人たちからは、あまり理解されていないと思っている。

### 2) 親しみを感じる存在

表2 - 13が、彼らの「具体的な他者」に対

する、現在親しみを感じている割合である。これを表2 - 12と比べてみると、全体的に親しみを感じる割合が高い。

### 3) 理解と親しみ

彼らが理解されていると思う相手に対して、現在、どの程度親しみを感じているのか。この関係をあらわしたのが表2 - 14である。この表は、自分が理解されていると思う相手に対して、親しみを感じている人の割合と、各対応項目の相関係数である。この結果から、相手に理解されていると思えば、親しみを感じやすくなるといえよう。

表2 - 12 自分への理解 × 性

(%)

		全 体	性 別	
			男 子	女 子
具 体 的 な 他 者	お母さん	77.5	76.1	78.9
	お父さん	58.6	64.2	53.7
	きょうだい	65.5	63.6	67.5
	同級生	72.7	69.1	75.9
	友人グループ	85.7	79.9	90.9
	担任の先生	39.9	40.8	39.2
	近所の知り合い	19.9	22.1	18.1

「非常に」+「まあ」わかっている割合  
不等号は10%以上の差を表す

表2 - 13 親しみがある相手 × 性

(%)

		全 体	性 別	
			男 子	女 子
具 体 的 な 他 者	お母さん	89.4	85.4	92.9
	お父さん	69.3	72.5	66.5
	きょうだい	76.6	73.5	79.3
	同級生	87.5	88.5	86.6
	友人グループ	93.6	90.6	96.3
	担任の先生	39.3	38.4	40.1
	近所の知り合い	30.0	28.9	30.8

「とても」+「やや」親しみがある割合

表2 - 14 「理解されている」から「親しみがある」人の割合と  
全サンプルの相関係数

(%)

		全 体	相関係数(すべてP [有意水準確率]<0.01)
具 体 的 な 他 者	お母さん×お母さん	97.2	0.562
	お父さん×お父さん	89.8	0.653
	きょうだい×きょうだい	94.2	0.750
	同級生×同級生	97.1	0.467
	友人グループ×友人グループ	98.8	0.698
	担任の先生×担任の先生	66.9	0.466
	近所の知り合い×近所の知り合い	69.8	0.592

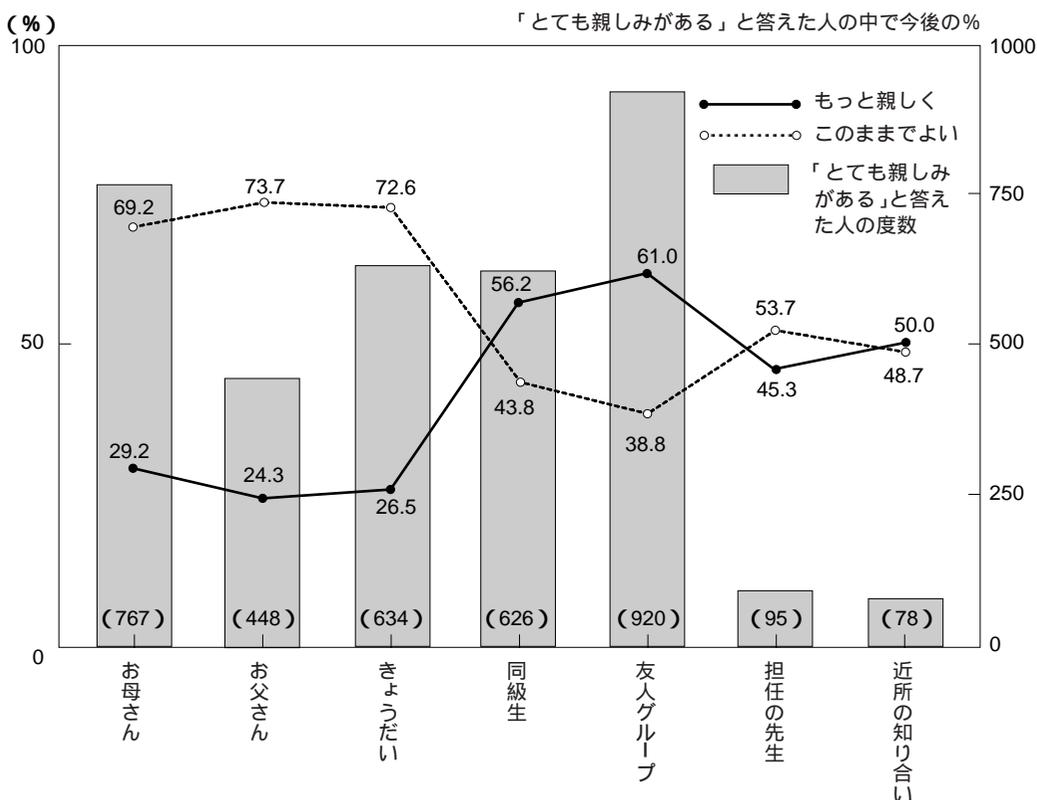
#### 4) 親しみと今後

それでは、現在彼らが「具体的な他者」に感じる親しみと、今後の関係意識についてはどのような傾向が示されるのだろうか。距離感の開きは、親しみを感じている人たちの間でも大きい。「とても」と「やや」の親しみが、今後への意識を変える。図2 - 1がそれである。「とても」親しいと感じる人ほど、今後も「もっと」親しくと思い、「やや」親

しいと感じる人ほど、「このままでよい」と感じている。これは親しみが強いほど関係を強くしたいと願い、あまりそう感じない人にとっては現状維持で満足しているものと考えられる。相手との関係に上限を設けている場合とそうでない場合とで、関係のあり方がはっきりとしている。

「同級生(56.2%)」や「友人グループ(61.0%)」とは、今後は(今後もといった方がいいかもしれない)親しくありたいと感じ

図2 - 1 とても親しいと感じている人 × 今後の関係



ている。つまり同世代の仲間を意味する他者との関係を重視した意識を反映している。したがって、両親（「お母さん」29.2%、「お父さん」24.3%）や「きょうだい（26.5%）」などの身内に対しては、同世代の仲間に対するよりも弱い。昼夜顔を合わせる存在に対してはあまりにも当然のことすぎて、親しくしたいと感じることも少ないのであろうか。「担任の先生」や「近所の知り合い」に対しては、「とても」親しみを感じている者自体が少ない。

彼らには今後も親しくしたい相手と、（できれば）このままの親しさでいい相手がいるようである。今後も親しくしたい相手は、学校で接する同世代の友人たちであり、（できれば）このままの親しさでいい相手とは、それ以外の人々である。

### 5)まとめ 「さめた」関係・「熱い」関係

彼らは「具体的な他者」に対して、自分が理解されていると受け止めれば、その相手への親しみを増している。「担任の先生」からの理解（39.9%）と親しみ（39.3%）が低いのは、校内での頻度の多い接触が、必ずしも親しみを感じさせるものとはなっていないからだろう。

今後の「具体的な他者」との関係は、現在の親しみの状態によって分離していくと思われる。現在、それほど親しみを感じていない相手には、今後も現状維持の関係、または距離をおいた関係を考えている。これは、彼らに「さめた」関係が意識されているからだろう。

一方、現在強い親しみを感じている相手には、今後「もっと」親しい関係になることを求めている。相手に親しみを感じれば感じるほど、「もっと」親しい関係を望む。距離を感知する「さめた」関係とは逆に、彼らは距

離感を縮めようと「熱い」関係を意識する。

この傾向はおもしろい。「具体的な他者」とのかかわり意識は、全体的には「さめた」関係を求めている。「さめた」関係では、今の関係が維持されれば、それで満足である。彼らは、知らず知らずのうちに、現在の関係の有り様を上限とした維持方法を展開している。

ここでの「熱い」関係はむしろ特殊である。この関係を求めだすと、満足の上限はなくなる。現在「とても」親しい関係を意識していても、今後は「もっと」親しくと感じ、他の「具体的な他者」相手で見せた「さめた」関係が、同世代の人々には弱くなる。

しかしよくよく考えてみると、「さめた」関係は大変都合がいい。これは相手に対して一定の距離をもって接することができるし、相手に過剰な期待を抱く必要もなく、将来の関係を予想できる。期待と報酬が確実に一致する堅実な関係のあり方でもある。「熱い」関係は時として、相手との関係を壊すことに発展しかねない。「もっと」親しくが示す、距離を見失った関係が、彼らに相手への過剰な期待を生ませ、また報酬の少なさに落胆を与える。

では、なぜ「熱い」関係を、あえて一部の相手に求めるのか。そこまでの価値や魅力が「同級生」「友人」にあるといえるのか。「さめた」関係でもいいはずなのに。

ともあれ、彼らの「具体的な他者」に対する意識をタイプ分けしてみる。

- ①同世代の人々は、彼らに「熱い」関係を意識させる「重要な他者」である。
- ②身内の人々は、彼らに「さめた」関係を意識させる「身近な他者」である。
- ③身内以外の人々は、彼らに親しみ自体が薄い「距離をもった他者」である。

### 3 人とかかわる自己（自身の性格から）

#### 1) 対人コミュニケーション技術の獲得

ここで、関係を行う高校生自身の性格についてみてみよう。相手と自分との基本的なスタンス（暗黙のルール・願望・要望）がいくつかある。相手とのかかわりが「上手に」なされる技術はコミュニケーションとなる。彼らの内面を通して、「他者」意識を考えてみよう。

表2 - 15は、彼らに内面化されたコミュニケーション技術についての結果である。彼らは関係を「上手に」するために、「人助けが

躊躇なくできる（61.2%）」「人のいいところはほめる（84.5%）」「人の親切を喜んで受け入れる（88.3%）」「人に言ったら悪いと思うことは言わない（70.5%）」といった技術を身につける。

このような技術は、学年が上がるにしたがって強くなる。また、女子にこれらの技術が多く獲得されている。一方、男子の中には「人の失敗を笑ってしまう」（61.7%）「人に言ったら悪いと思うことは言わない（あまり+まったくそうでない）」（35.5%）者がいる。

表2 - 15 コミュニケーション技術 × 学年・性

(%)

	全 体	学 年			性 別	
		1 年	2 年	3 年	男 子	女 子
人助けが躊躇なくできる	61.2	57.5	60.2	72.3	59.1	63.1
人の非難をしだすと止まらなくなる	44.2	41.9	46.0	47.1	43.1	45.2
人が失敗すると、つい笑ってしまう	55.8	53.2	61.0	53.4	61.7	50.5
人に言ったら悪いと思うことは言わない	70.5	70.0	70.1	72.4	64.5	75.9
人のいいところはほめる	84.5	81.3	87.4	87.3	78.9	89.5
人の親切を喜んで受け入れる	88.3	87.9	87.1	91.1	84.4	91.7
自分より立場の弱い人を助けたい	68.0	64.4	67.5	77.6	63.4	72.1
人に自分の短所を直接言われたくない	63.5	63.6	64.2	62.0	64.4	62.7

「とても」+「やや」その割合  
不等号は10%以上の差を表す

## 2) 人を「思いやりたい」 私を「思いやってほしい」

コミュニケーション技術に、相手を「思いやる」ことがある。これを使用して、彼らのコミュニケーション感覚タイプをみたい。Q18-4「人に言ったら悪いと思うことは言わない」意識をもった関係は、自分が相手に与える「思いやり」と考えられる。

またQ18-8「人に自分の短所を直接言われたくない」意識は、自分への「思いやり」を望んだ関係意識と考えられる。自分への口撃を「かげぐち」ならば許容する関係維持の技術である。これについて、奥村隆は他者とのコミュニケーションの体系として「思いやり」と「かげぐち」の2つが機能するという（奥村隆『他者という技法』日本評論社、

1998）。ただし、お互いに「思いやり」があるのならば、「かげぐち」は不要である。なぜなら、人の批判に耳を傾ける技術が彼らに備わっているのだから。

しかし、データにあるように、高校生の大半が「かげぐち」のない「思いやり」を否定する。できれば、短所は「直接言われたくない」と思っている（63.5%）。この限りにおいて、「かげぐち」は許容されているとみていいだろう。これが表面的な「思いやり」であるとはいえ、彼らがそれを望んでいる以上、人から受ける「思いやり」なのである。ともかく、彼らの意図する2つの「思いやり」に関する回答結果を組み合わせ、類型化（図2-2）すると、今の「思いやり」関係の姿と同じく、それを用意する社会の姿をみてとれる。

図2-2 「思いやり」意識タイプ

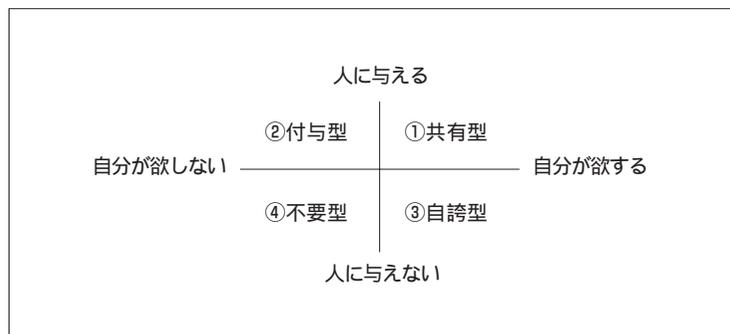


表2 - 16は人に与える「思いやり」と、自分が受け取る「思いやり」意識の割合である。「思いやり」を人に与え、自分も望む意識を「共有型」。「思いやり」を人に与え、自分は望まない意識を「付与型」。「思いやり」を人に与えず、自分は望む意識を「自誇型」。「思いやり」を人に与えず、自分も望まない意識を「不要型」と名づけた。

「共有型」が最も多く（45.5%）、自他ともに「思いやり」が重要だと考えている。一番「仲のよい友人グループ」の構成人数で見ると、2人のグループに多く考えられている（54.4%）。全体で見ると、「付与型」は2番目に多い（24.9%）。「自誇型」は、男子に多く（21.9%）、グループの構成人数の多さと比例する。「不要型」は「思いやり」自体を

表2 - 16 「思いやり」意識 × 性・仲のよい友人グループの構成人数

(%)

	全 体	性 別		グループの構成人数				
		男 子	女 子	2人	3～5人	6～9人	10人以上	決まってい ない
共有型	45.5	42.1	48.8	54.4	46.5	43.5	44.3	43.4
付与型	24.9	22.2	27.2	22.8	24.9	25.4	19.7	28.9
自誇型	17.6	21.9	13.7	14.0	17.7	16.3	18.0	21.1
不要型	12.0	13.8	10.3	8.8	10.9	14.8	18.0	6.6

意識しないと考えられ、その比率は4つのタイプの中で最も低い(12.0%)。この志向は10人以上のグループに所属している者に考えられている(18.0%)

この「思いやり」意識の型の状態によって、他のコミュニケーション技術の獲得に差があるかどうかをみたのが表2-17である。「思いやり」の「共有型」「付与型」の者ほど、

他のコミュニケーション技術も備わっている。「自誇型」の者は、あまり技術を獲得できていないようで、不器用な関係意識を感じさせる。「不要型」は、コミュニケーション概念そのものを揺るがしかねない意識を感じさせる。「思いやり」で示されるコミュニケーション技術獲得の開きが注目されよう。

表2-17 「思いやり」意識 × コミュニケーション技術

(%)

	人助けが躊躇なくできる		人の非難をしだすと止まらなくなる		人が失敗すると、つい笑ってしまう		人のいいところはほめる		人の親切を喜んで受け入れる		自分より立場の弱い人を助けたい	
	そう	そうでない	そう	そうでない	そう	そうでない	そう	そうでない	そう	そうでない	そう	そうでない
共有型	63.6	36.4	43.3	56.7	54.5	45.5	87.9	12.1	91.4	8.6	73.0	27.0
付与型	63.9	36.1	34.2	65.8	48.8	51.2	87.0	13.0	91.4	8.6	70.8	29.2
自誇型	51.6	48.4	60.2	39.8	68.0	32.0	75.0	25.0	80.9	19.1	55.5	44.5
不要型	58.4	41.6	40.8	59.2	55.7	44.3	78.7	21.3	80.3	19.7	61.5	38.5

そう = 「とても」 + 「やや」 割合

そうでない = 「あまり」 + 「まったく」 割合

## 第3章 ||||

# 友人関係の現在

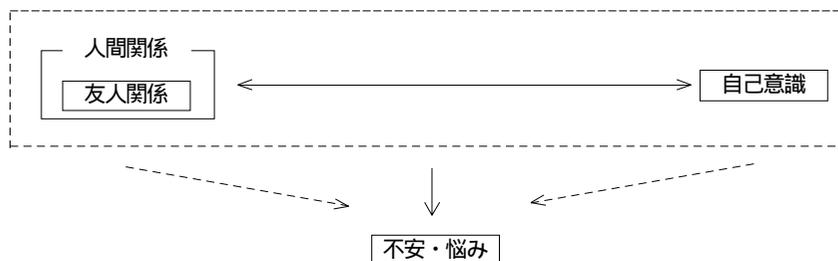
## - 友人関係・自己意識・不安 -

今日の若者たちの友人関係（あるいは人間関係）は「浅く」「表層的」であり、親密さへの欲求を十分に満たすことができず、「孤独」や「むなしさ」という感情を生みだしている。このような指摘は、多くのマスメディアのみならず研究者の言説にも見いだされる。確かに、このような見方にも一定の妥当性はある。しかしながらそこには、広く浅い 狭く深い という軸によって、人間関係あるいは友人関係をとらえようとする我々おとなの側の固定的なまなざしがあるように思われる。本章の目的は、こうした若者の他者との関係の取り方（そして、おとなの側のまなざし）を問うことにある。

ただし本章では、高校生の人間関係全般に

検討を加えるのではなく、友人関係に限定して分析を行っている。また、社会学的な視点に立てば、他者との関係性は自己のあり方と密接に関連していると考えられる。そこで、自己意識という観点を導入し、「友人関係」「自己意識」「不安・悩み」という三者の関係性から検討を加えている（図3-1）。具体的には、まず高校生の友人とのつきあい方を検討する。次に、友人とのつきあい方と自己に対する意識、および孤独や、不安、虚無感などの意識との関連について分析を行う。最後に、その三者の関係をふまえ、友人関係の類型化を行う。第1節から第3節では、はじめに「友人関係」「自己意識」「不安・悩み」に関するデータを中心に概要を明らかにす

図3-1 分析図式



る。その後、グループ化などを行い、より詳細な分析を加える。

なお、本章では、本調査のサンプル（調査対象者）を、高校生を代表するものと仮定して、分析を行っている。しかし、第1章でみ

たように、サンプルは無作為に抽出されたものではなく、代表性を備えているとは言い難い。したがって、分析はあくまでも試験的なものであり、統計的な検定も参考程度のものであることに十分注意していただきたい。

## 1 友人とのつきあい方

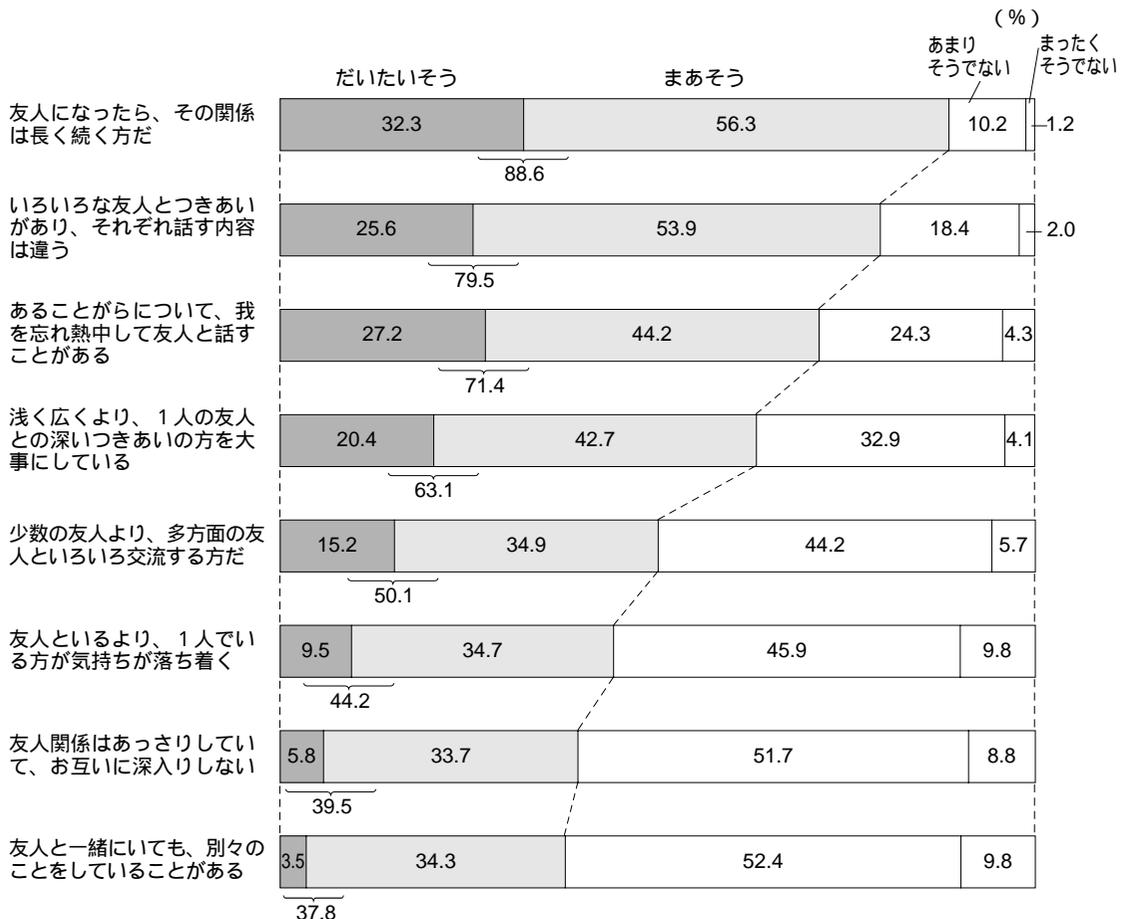
### 1) 友人とのつきあい方の実態

前章においては、友人の数などの基本的な側面から高校生の友人関係の実態が検討された。また、友人以外の他者との関係の中での位置づけの一端も明らかにされた。本章では

友人との「関係の取り方」に着目し、前章とは異なる観点から高校生の友人関係についてみてみることにしよう。

本調査では、友人とのつきあい方に関して図3-2のような8つの質問をしている。全

図3-2 友人とのつきあい方



体でみると、8問中5問で「だいたいそう」「まあそう」を合わせた肯定的な回答が5割を超えている。特に、「友人になったら、その関係は長く続く方だ」が88.6%、「いろいろな友人とつきあいがあり、それぞれ話す内容は違う」が79.5%と高くなっている。

また、逆に肯定的な回答の割合が少ないものとしては、「友人と一緒にいても、別々のことをしていることがある」が37.8%、「友人関係はあっさりしていて、お互いに深入りしない」が39.5%となっている。このことからすれば、現在の若者の友人関係が表層的であるという批判は、必ずしも的を射たものとはいえないようである。

そこで次に、広く浅い 狭く深い という二分法的な関係のあり方に着目してみよう。「少数の友人より、多方面の友人といる交流する方だ」に肯定的な回答は50.1%である。約半数が、広く浅い 友人関係を志向しているようである。しかしながら、「浅く広くより、1人の友人との深いつきあいの方を大事にしている」に肯定的な回答が63.1%となっており、狭く深い 関係も6割を超えていることになる。そこで、2つの質問をクロス表にまとめてみた。表3 - 1を

みると、広く浅い 関係が全体の25.2%、狭く深い 関係が38.0%となっている。両者を合わせると63.2%となる。そして、24.9%は 広く浅い かつ 狭く深い 関係であり、11.9%はどちらでもない。また、「友人というより、1人である方が気持ちが落ち着く」に肯定的な回答も4割を超え、関係を回避する傾向もかなり強いようにみえる。すなわち、高校生の友人関係に関して、広く浅い 狭く深い という二分法では、必ずしも割り切れない側面があることがわかる。

次に、これらの質問に対する回答の男女別・学年別の差異をみてみることにしよう(表3 - 2)。まず男女別で統計的に有意な差がみられたのは、5つの質問であった。「だいたいそう」と「まあそう」を合わせた肯定的な回答で男子の方が高いのは、「友人というより、1人である方が気持ちが落ち着く」「友人関係はあっさりしていて、お互いに深入りしない」の2つである。また女子の方が高いのは、「あることならについて、我を忘れ熱中して友人と話すことがある」「浅く広くより、1人の友人との深いつきあいの方を大事にしている」「友人と一緒にいても、別々のことをしていることがある」の3つである。

表3 - 1 狭く深い 友人関係 × 広く浅い 友人関係

		少数の友人より、多方面の友人と いろいろ交流する方だ				合 計	
		そう		そうでない			
		実 数	総和 の%	実 数	総和 の%	実 数	総和 の%
浅く広くより、1人の友人との深い つきあいの方を大事にしている	そう	374	24.9%	571	38.0%	945	63.0%
	そうでない	378	25.2%	178	11.9%	556	37.0%
合 計		752	50.1%	749	49.9%	1501	100.0%

そう = 「だいたい」 + 「まあ」そうの合計  
 そうでない = 「あまり」 + 「まったく」そうでないの合計

学年別では、ほとんど統計的に有意な差がみられる項目はなかった。唯一差がみられたのが、「あることがらについて、我を忘れ熱中して友人と話すことがある」である。学年が上がるにつれ、肯定的な回答の割合が増えている。

さらに男女を学年別に、学年を男女別にしてみた(表3-2)。すると、分割してもすべてに有意な差がみられるのは、「友人というより、1人である方が気持ちが落ち着く」における男女差のみであることがわかった。これらのことからすると、女子の方が友人との関係を構築することに積極的であり、学年が上がるにつれ男子のコミュニケーション能力が向上し、女子との差異が減少していると考えられる。女子の方が関係を重視することは、従来からの指摘とも符合する。また、男子と女子の差異の減少は、友人関係におけるユニセックス化という近年の指摘に沿

うものと言える[浅野1995:56]

ここまで、現在の高校生の友人関係の実態をみてきた。次項においては、これらの質問をさらに検討し、友人とのつきあい方を分析する軸を取り出してみることにしよう。

## 2) 友人関係の構造的把握

前項では、友人とのつきあい方を質問ごとに検討した。本項では、友人関係に関する意識を構造的に把握することを試みる。そのために、因子分析という手法を用いる。因子分析は、質問項目(変数)の相互関係を分析することによって、質問項目(変数)の潜在的な関係を明らかにし、背後にある成分(因子)を取り出す手法である。これによって、情報をコンパクトにまとめ、データの解釈を明快にすることができる。

先にみた友人とのつきあい方に関する8つ

表3-2 友人とのつきあい方 × 性・学年

	全 体	性 別		学 年		
		男 子	女 子	1 年	2 年	3 年
		(%)				
友人になったら、その関係は長く続く方だ	88.6	89.9	87.4	89.6	85.8	90.7
いろいろな友人とつきあいがあり、それぞれ話す内容は違う	79.5	78.9	80.1	80.7	79.6	76.7
あることがらについて、我を忘れ熱中して友人と話すことがある	71.4	66.8	75.6	68.1	男子 72.1	男子 78.5
浅く広くより、1人の友人との深いつきあいの方を大事にしている	63.1	59.3	66.5	61.5	64.7	64.1
少数の友人より、多方面の友人といろいろな交流する方だ	50.1	52.1	48.3	53.1	46.4	49.1
友人というより、1人である方が気持ちが落ち着く	44.2	52.0	37.1	43.9	44.4	45.0
友人関係はあっさりしていて、お互いに深入りしない	39.5	43.2	36.0	40.0	40.5	36.3
友人と一緒にいても、別々のことをしていることがある	37.8	34.5	40.8	38.7	34.8	40.7

注)「だいたいそう」+「まあそう」の割合。》と《、と は、「だいたいそう」と「まあそう」を合計した後の検定において、5%水準で統計的に有意な差があることを示す。また、学年については、3学年で合わせて検定を行った結果。《は男女別をさらに学年ごとにみた場合でも5%水準で統計的に有意な差があることを示す。・と添え字は、男女別をさらに学年ごとにみた場合、あるいは学年をさらに男女別にみた場合に、特定の学年、男子女子どちらかのみ、5%水準で統計的に有意な差があることを示す。

の質問に、友人の数と親友の数についてたずねた質問を加え、因子分析を行った<sup>2)</sup>。その結果、表3 - 3のような3つの因子が得られた。それぞれの因子の特徴をよく示す質問項目を取り出すと以下ようになる。

第1因子 ( 社交志向)

- ・少数の友人より、多方面の友人といろいろな交流する方だ
- ・浅く広くより、1人の友人との深いつきあいの方を大事にしている ( 負の関係)

第2因子 ( 関係回避)

- ・友人関係はあっさりしていて、お互いに深入りしない
- ・友人というより、1人である方が気持ちが落ち着く
- ・親友の数 ( 負の関係)
- ・友人と一緒にいても、別々のことをしていることがある

ることがある

第3因子 ( 状況適応)

- ・あることがらについて、我を忘れ熱中して友人と話すことがある
- ・いろいろな友人とつきあいがあり、それぞれ話す内容は違う
- ・友人になったら、その関係は長く続く方だ

これによって、各因子を名づけてみよう。まず、第1因子は、広く多様な人間関係を求め、友人関係も多いということから、「社交志向」と呼ぶことができる。第2因子は、友人関係を取り結ぶこと自体に消極的であるから、「関係回避」と名づけることができる。問題は第3因子である。一見限定された友人との深い関係を求める志向のようにもみえる。しかし、いろいろな友人とつきあいがあり、「少数の友人より、多方面の友人といろいろな交流する方だ」という項目とも正の関係

表3 - 3 友人関係における志向の構造

	因 子		
	1	2	3
友人になったら、その関係は長く続く方だ	0.059	-0.314	<u>0.432</u>
いろいろな友人とつきあいがあり、それぞれ話す内容は違う	0.317	0.170	<u>0.483</u>
あることがらについて、我を忘れ熱中して友人と話すことがある	0.038	-0.061	<u>0.499</u>
浅く広くより、1人の友人との深いつきあいの方を大事にしている	<u>-0.480</u>	-0.023	0.358
少数の友人より、多方面の友人といろいろな交流する方だ	<u>0.679</u>	-0.045	0.193
友人というより、1人である方が気持ちが落ち着く	-0.164	<u>0.460</u>	-0.054
友人関係はあっさりしていて、お互いに深入りしない	0.093	<u>0.542</u>	-0.144
友人と一緒にいても、別々のことをしていることがある	0.024	<u>0.364</u>	0.134
友人の数	<u>0.439</u>	-0.244	0.240
親友の数	0.206	<u>-0.379</u>	0.173

注) 数値は、バリマックス回転後の因子負荷量であり、各質問項目(変数)がどの程度その因子の特性と関連があるかを示している。絶対値が大きいほど、質問項目(変数)と因子の関係が強いことを表している。プラスは正の関係、マイナスは負の関係を意味している。また \_\_\_\_\_ は、各因子に大きな因子負荷をもつ変数であること、すなわち各因子の特徴をよく示す項目であることを表している。

にある。必ずしも狭い限定された関係を志向するものではない。その場の状況に応じて、広く浅い 関係も 狭く深い 関係も取り結ぶことができるようである。そこで、この因子を「状況適応」と名づけることにする。

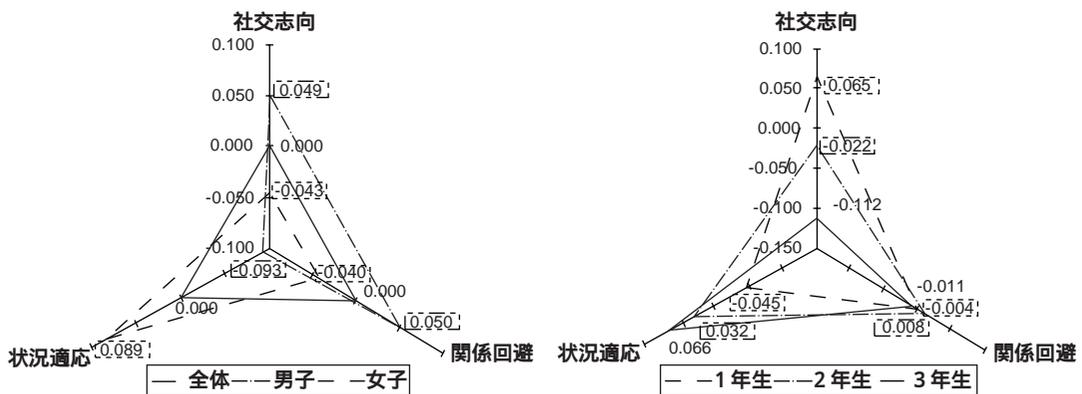
この3つの因子は、3つのグループが存在していることを意味しているのではない。友人とのつきあい方のこれらの傾向(因子)は、強弱の差こそあれ個人の中に共存していると考えられる。つまり、グループを意味するのではなく、この3つの軸によって、高校生の友人とのつきあい方を構造的に把握することができるということである。「社交志向」は、関係の<広さ 狭さ>を弁別する軸とすることができる。「関係回避」は、関係を構築することを<望む 望まない>という軸である。また、「状況適応」は、関係性が状況に応じた柔軟さを<もつ もたない>という軸

である。

それでは、このような友人関係の取り方の傾向が、男女や学年で異なっているかをみてみよう。そこで各回答者が因子の特性をどのくらい備えているかを示す因子得点を求め、その得点の各属性における平均をみてみた。<sup>3)</sup> 数値の高い方が、その傾向が強いことを示している。

男女別にみると、男子は社交志向と関係回避の因子が同じように強いことがわかる(図3-3)。つまり、広い関係性を求める一方、関係を回避する傾向も強い。それに対し、女子は状況に柔軟に対応して関係性を構築する傾向を強くもっていることがわかる。先にも述べたように、各因子が、個人の中で共有されているのか、グループに分かれるのかは、この分析からは明らかではない。この点については、第4節で検討する。

図3-3 友人関係における各志向の強さ × 性・学年



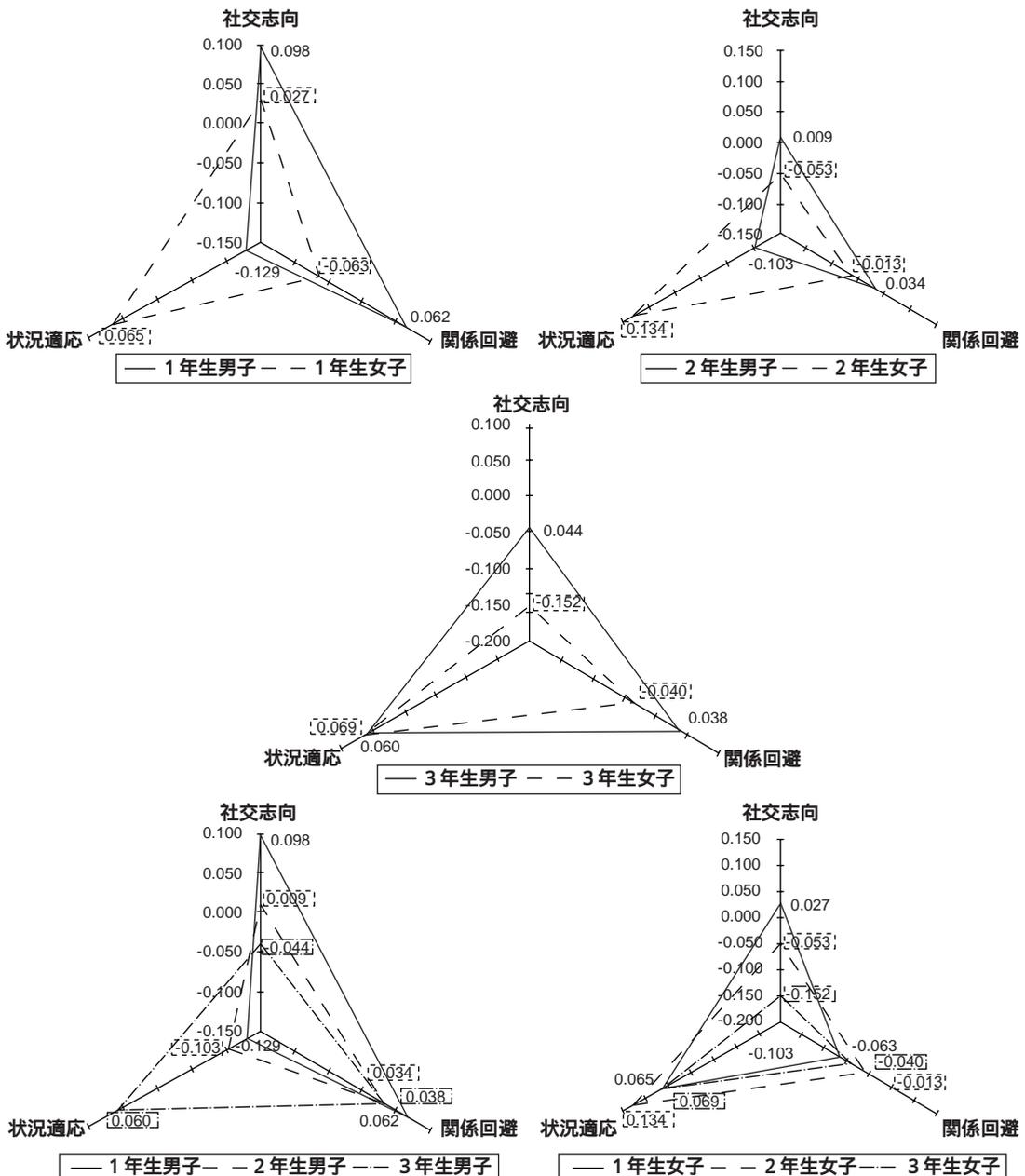
注) 数値は、各回答者が因子の特性をどのくらい備えているかを示す因子得点の属性ごとの平均値。数値が大きくなほど、その因子が強いことを示す。

次に学年別でみると、関係回避の因子は、あまり差がないことがわかる(図3-3)。その一方、学年が上がるにつれ、社交志向が弱まり、状況適応が高くなることがわかる。

さらに、男女を学年別に、学年を男女別にしてみた(図3-4)。すると、男女差は、

3年になるとかなり縮小していることがわかる。また、学年別にみられた傾向は、男子についてのみ、あてはまることわかる。このことは、前項の分析と符合しており、学年が上がるにつれ男子のコミュニケーション能力が高まり、男女差が減少すると解釈できよう。

図3-4 友人関係における各志向の強さ×性×学年・×学年×性



注) 数値は、各回答者が因子の特性をどのくらい備えているかを示す因子得点の属性ごとの平均値。数値が大きくなほど、その因子が強いことを示す。

## 2 友人関係と自己意識

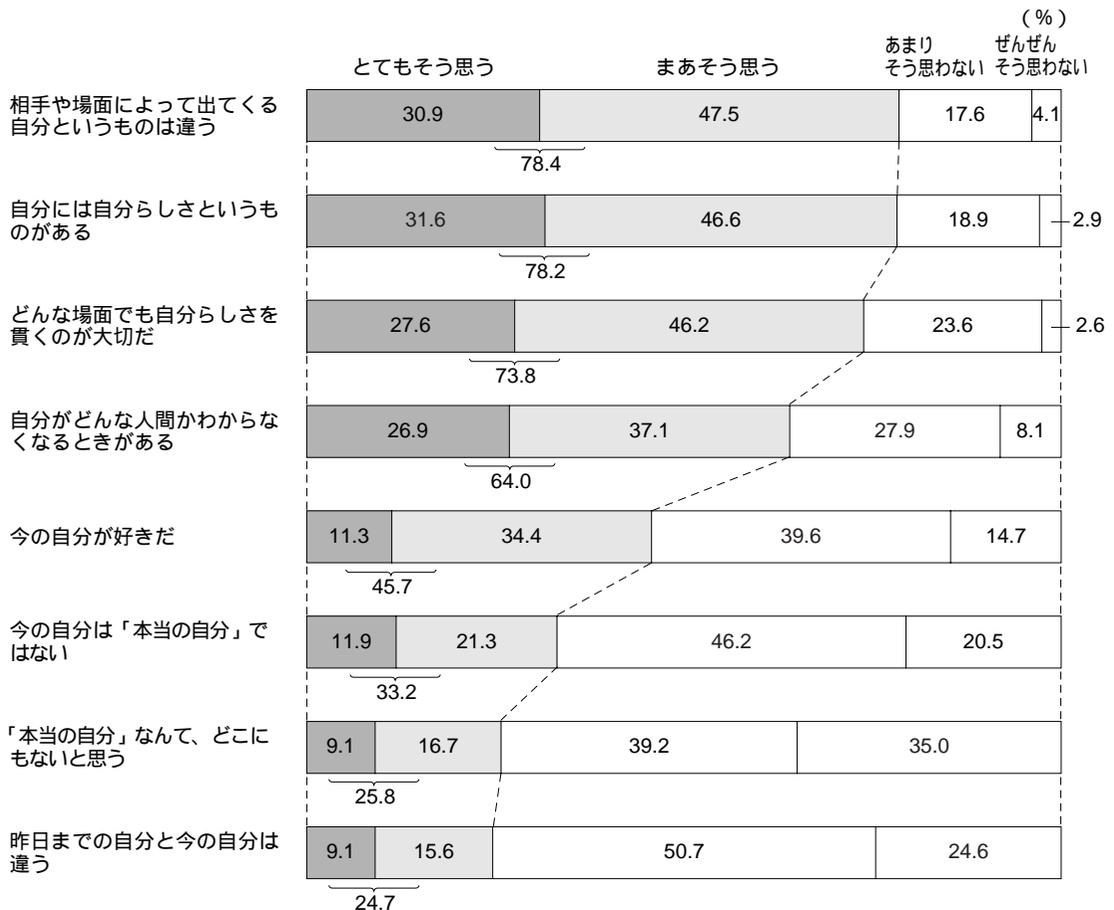
前節では、友人関係を「つきあい方」「関係の取り方」という側面からみてきた。社会学の基本的な見方に立てば、他者との関係の取り方は、自己の有り様と深く関係していると考えられる。そこで本節では、友人との関係の取り方と自己に対する意識との関係を探ることにしたい。

### 1) 自己に対する意識

友人関係と自己に対する意識との関係のみ

る前に、まず高校生たちの自己に対する意識自体に目を向けてみることにしよう。ここでは、本調査で行った自己に関する8つの質問を検討する(図3-5)。「自分には自分らしさ」というものがある」という質問に対し、8割近くの高校生が「とてもそう思う」「まあそう思う」という肯定的な回答をしている。しかしながら他方で、「相手や場面によって出てくる自分というものは違う」という質問にも約8割が肯定的な回答をしている。つま

図3-5 自己に対する意識



り、高校生にとって、自分らしさが必ずしも確固としたものではないことを示している。このことは、高校生が自らのアイデンティティを確立するモラトリウムにあるという観点から解釈することも可能である。しかし、「『本当の自分』なんて、どこにもないと思う」という質問に対して、4分の1もの高校生が肯定的な回答をしている。本当の自分、一貫した自己を確立することに対する自明さ自体に懐疑が投げかけられているのかもしれない。

このことを考える上で、自己のあり方に関する社会学的な議論が参考になる。人生の至るところにモラトリウムが存在する豊かな現代社会においては、アイデンティティを拡散させる傾向は強まっている。しかし、それは拡散という否定的側面からとらえられるだけでなく、状況に応じた自分らしさをもつ多元的な自己という現代的な自己をも生み出すという。例えば三上剛史は、「場合の数に応じた多様で可変的な自己という現代社会の時代的要請に従うならばアイデンティティという概念の時代的不適合こそが問題となる」と主

張している[三上 1995:104]。

## 2) 自己意識の構造的把握

そこで、さらに自己意識について検討してみるために、先ほどと同様、因子分析を行うことにしよう。前項でみた自己に対する意識の8つの質問を用いて因子分析を行った結果、表3 - 4のような2つの因子が得られた。それぞれの因子の特徴をよく示す質問項目を取り出すと以下ようになる。

### 第1因子(自己拡散)

- ・自分がどんな人間かわからなくなるときがある
- ・今の自分は「本当の自分」ではない
- ・相手や場面によって出てくる自分というものは違う

### 第2因子(自己肯定)

- ・自分には自分らしさというものがある
- ・今の自分が好きだ
- ・どんな場面でも自分らしさを貫くのが大切だ

表3 - 4 自己に対する意識の構造

	因 子	
	1	2
相手や場面によって出てくる自分というものは違う	<u>0.454</u>	0.002
自分には自分らしさというものがある	-0.045	<u>0.571</u>
どんな場面でも自分らしさを貫くのが大切だ	0.051	<u>0.438</u>
自分がどんな人間かわからなくなるときがある	<u>0.636</u>	-0.124
今の自分が好きだ	-0.252	<u>0.561</u>
今の自分は「本当の自分」ではない	<u>0.583</u>	-0.174
「本当の自分」なんて、どこにもないと思う	0.285	-0.317
昨日までの自分と今の自分は違う	0.345	0.275

注) 数値は、バリマックス回転後の因子負荷量であり、各質問項目(変数)がどの程度その因子の特性と関連があるかを示している。絶対値が大きいほど、質問項目(変数)と因子の関係が強いことを表している。プラスは正の関係、マイナスは負の関係を意味している。また、          は各因子に大きな因子負荷をもつ変数であること、すなわち各因子の特徴をよく示す項目であることを表している。

第1因子は、自己の不確かさということを示しているようなので、「自己拡散」と呼ぶことにしよう。第2因子は、一貫性ということを示している側面も強いが、それだけでなく自己に対する肯定感を読みとることができる。したがって、「自己肯定」と名づけることにする。この因子分析の結果からは、高校生の自己意識を 拡散 同一 肯定 否定 という2軸で構造的に把握できることがわかる。したがって、拡散 同一 という軸も、この分析からは必ずしも問題になるということはないようである。

### 3) 友人関係と自己意識の関係

それでは次に、前節で検討した友人とのつきあい方との関係をみてみることにしよう。まず、前節の分析と同様、各回答者が因子の特性をどのくらい備えているかを示す因子得点を使用する。表3-5は、友人との関係の取り方における3因子の各得点と自己の2因子の各得点との関係を相関係数で示している。数値は、絶対値が大きいほど関係が強く、

小さいほど関係が弱いことを示している。また、プラスは正の関係、マイナスは負の関係である。これをみると、社交志向は、自己拡散と自己肯定の双方ともほとんど関係(相関)はないが、どちらかといえば自己肯定と非常に弱いながらも正の関係にあるようである。また、関係回避は、自己拡散と弱い正の関係があり、自己肯定とは弱い負の関係にあることがわかる。状況適応は、自己肯定と弱い正の関係があるようである。社交志向と状況適応は、ともに広く多様な関係を志向するものであったが、それらはともに自己肯定と関係するようである。しかし、社交志向と状況適応では、自己拡散に対する関係の正負が逆になっている。非常に相関係数の値が低いため、問題にならないということもできるが、なぜなのだろうか。

そこで、自己に対する意識の各質問を使用して、同じように相関係数をみてみた。肯定的な回答から順に4点から1点を配点しているため、数値が高いほど正の関係が強いことになる。

表3-5 友人関係の3因子と自己意識の2因子の相関関係

	自己拡散	自己肯定
社交志向	-0.006	0.081
関係回避	<u>0.185</u> **	<u>-0.192</u> **
状況適応	0.072 **	<u>0.260</u> **

注) 数値は相関係数で、絶対値が大きいほど関係が強いことを示している。プラスは正の関係、マイナスは負の関係を意味している。また、      は弱い相関があることを示している。\*\*は1%水準で有意であることを表し、関係の強弱ではない。

表3 - 6からわかるように、社交志向は、前述の分析と同様、どの質問ともほとんど関係(相関)はみられない。関係回避は自己の不確かさと正の関係があり、自己肯定感や同一性とは負の関係があることがこれからも確認される。興味深いのは状況適応である。社交志向や関係回避とは異なり、「自分には自分らしさというものがある」と「相手や場面によって出てくる自分というものは違う」と、ともに正の関係を示している。すなわち、自己の同一性と拡散の双方と正の関係を示しているのである。これはどのように解釈すべきであろうか。さらに他の項目をみてみると、「どんな場面でも自分らしさを貫くのが大切だ」とも正の関係があることがわかる。すなわち、自分というものは変わるが、自分らし

さというものがなければ、状況ごとに肯定しうる自分らしさを貫くことが大切と感じられているのである。このことは、先に言及した「自己の多元化」と適合している。すなわち、自分らしさというものはあるが、それは個々の状況に応じて異なり、一貫性や同一性が必ずしも保たれているわけではない。しかし、最初にこのことに目を向けさせた「『本当の自分』なんて、どこにもないと思う」という意識は、自己の多元化よりも拡散的な意識のあらわれとみる方が妥当なようである。

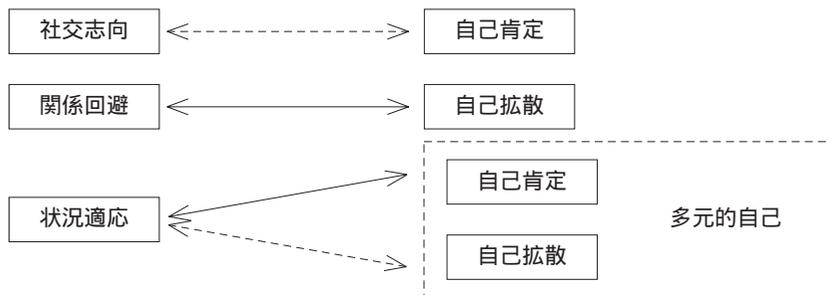
これまでみてきた友人とのつきあい方と自己に対する意識の関係を簡単にまとめると、図3 - 6のようになる。

表3 - 6 友人関係の3因子と自己に対する意識の相関関係

	相手や場面によって出てくる自分というものは違う	自分には自分らしさというものがある	どんな場面でも自分らしさを貫くのが大切だ	自分がどんな人間かわからなくなるときがある	今の自分が好きだ	今の自分は「本当の自分」ではない	「本当の自分」なんて、どこにもないと思う	昨日までの自分と今の自分は違う
社交志向	-0.031	0.075 **	0.045	-0.010	0.069 **	-0.010	0.027	0.034
関係回避	0.166 **	-0.155 **	-0.071 **	0.124 **	-0.158 **	0.163 **	0.167 **	-0.028
状況適応	0.101 **	0.237 **	0.181 **	0.050	0.125 **	-0.014	-0.082 **	0.102 **

注) 数値は相関係数で、絶対値が大きいほど関係が強いことを示している。プラスは正の関係、マイナスは負の関係を意味している。また、\_\_\_\_\_は弱い相関があることを示している。\*\*は1%水準で有意であることを表し、関係の強弱ではない。

図3 - 6 友人関係と自己意識との関係



### 3 友人関係、自己意識、不安・悩み

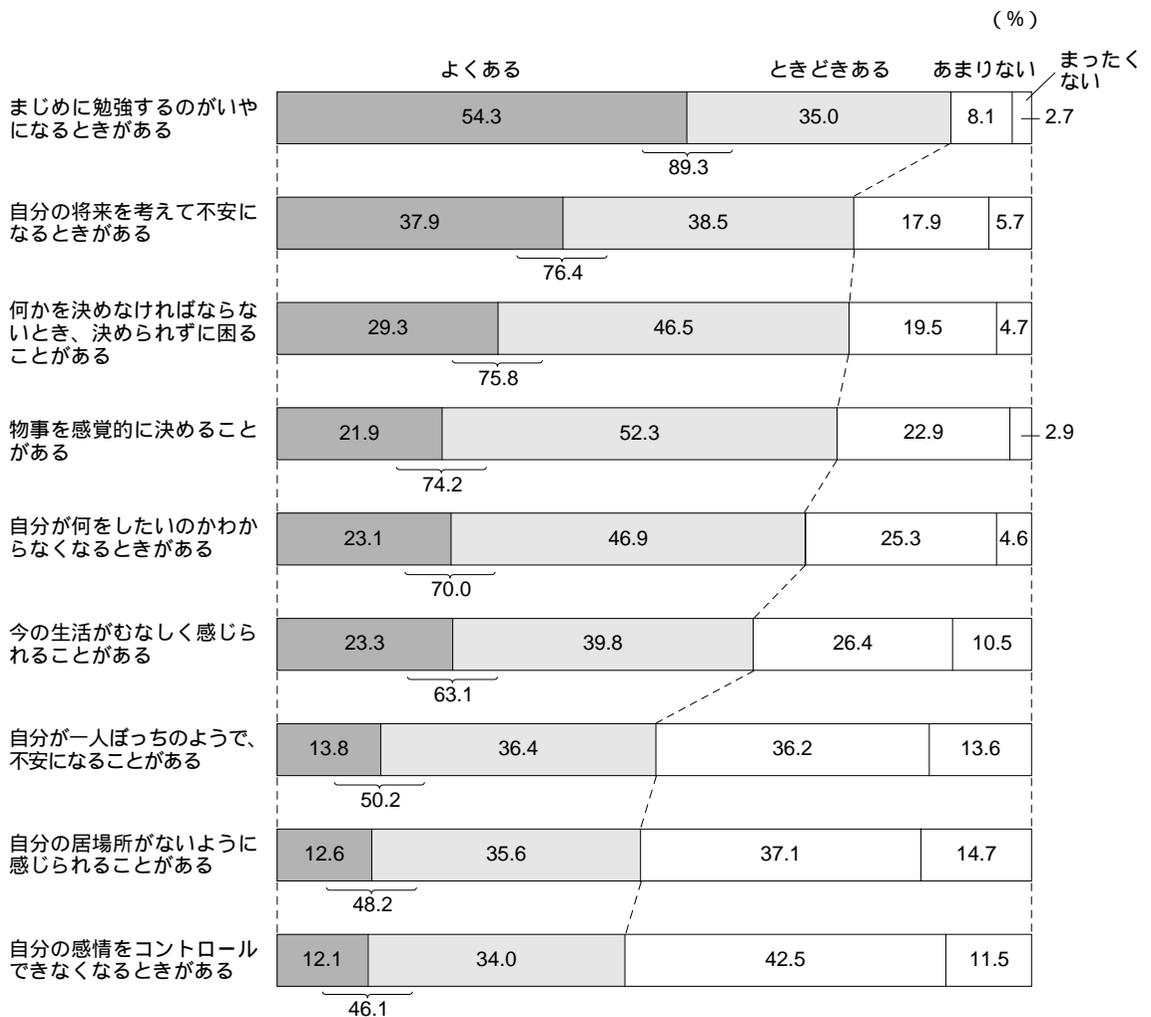
#### 1) 高校生の不安・悩み

本節では、高校生の友人関係あるいは自己意識と「不安・悩み」との関係を見ていくことにしよう。「不安・悩み」は、包括的な名称としては適切ではないかもしれないが、図3-7に示した質問を意味する。

まず、「よくある」と「ときどきある」を

合わせた「ある」が、9問中7問で5割以上になっていることがわかる。「ある」の割合が最も高いのは、「まじめに勉強するのがいやになるときがある」で、89.3%となっている。次に、「自分の将来を考えて不安になるときがある」が76.4%、「何かを決めなければならないとき、決められずに困ることがある」が75.8%、「物事を感覚的に決めることがある」が74.2%、「自分が何をしたいのかわからなくなるときがある」が70.0%、「今の生活がむなしく感じられることがある」が63.1%、「自分が一人ぼっちのようで、不安になることがある」が50.2%、「自分の居場所がないように感じられることがある」が48.2%、「自分の感情をコントロールできなくなるときがある」が46.1%

図3-7 不安・悩みなどに関する意識



がある」が74.2%と、約4分の3の生徒から回答されている。友人関係と直接関連しそうな「自分が一人ぼっちのようで、不安になることがある」や「自分の居場所がないように感じられることがある」は約5割と、他の項目と比較すると「ある」という回答は低い。しかし、5割もの生徒が、「孤独」や「居場所のなさ」を感じているということは、高校生の人間関係、そして友人関係に「問題」が存在している可能性を示唆しているといえるかもしれない。

## 2) 友人関係と不安・悩みとの関係

それでは、友人とのつきあい方との関係をみてみることにしよう。ここでは、先に求め

た友人関係の3因子と不安・悩みとの関係を相関係数によってみている<sup>6)</sup>。表3-7の数値は、絶対値が大きいほど関係が強く、小さいほど関係が弱いことを示している。また、プラスは正の関係、マイナスは負の関係を意味する。全体として、強い相関関係はみられない。特に社交志向は、どの項目ともほとんど関係(相関)がみられない。関係回避は、「自分の居場所がないように感じられることがある」や「今の生活がむなしく感じられることがある」との間に弱い正の関係があるようである。状況適応は、「物事を感覚的に決めることがある」や「自分の感情をコントロールできなくなる時がある」などと、非常に弱いながらも正の関係にある。これらを見ると、友人

表3-7 友人関係と不安・悩みとの相関関係

	まじめに勉強するのがいやになる時がある	自分の将来を考えて不安になるところがある	何かを決めなければならぬとき、決められずに困ることがある	物事を感覚的に決めることがある	自分が何をしたいのかわからなくなるときがある	今の生活がむなしく感じられることがある	自分が一人ぼっちのようで、不安になることがある	自分の居場所がないように感じられることがある	自分の感情をコントロールできなくなるときがある
社交志向	-0.009	0.044	-0.029	-0.006	0.019	-0.056	-0.046	-0.099 **	0.016
関係回避	-0.001	0.067 *	0.079 **	0.08 **	0.121 **	<u>0.176 **</u>	0.092 **	<u>0.192 **</u>	0.094 **
状況適応	0.146	0.048	0.02	0.132 **	0.042	0.001	0.066 *	0.002	0.127 **

注) 数値は相関係数で、絶対値が大きいほど関係が強いことを示している。プラスは正の関係、マイナスは負の関係を意味している。また、      は弱い相関があることを示している。\*\*は1%水準で、\*は5%水準で有意であることを表し、関係の強弱ではない。

関係と不安・悩みとの関係は非常に弱いことがわかる。ただ、広い関係性を志向する社交志向や状況適応よりも、関係自体を構築できない関係回避の方が、不安・悩みと関連が強いといえる。

### 3) 自己意識と不安・悩みとの関係

それでは、自己意識と不安・悩みとの関係はどうなっているのだろうか。前項と同様、相関係数を使用して自己の2因子との関係をみてみた(表3-8)。全体として、友人関係の各因子と比べ強い関係があることがわかる。特に、自己拡散は、「自分の居場所がないように感じられることがある」「今の生活がむなしく感じられることがある」「自分が何をしたいのかわからなくなるときがある」

「自分が一人ぼっちのようで、不安になることがある」と正の相関がかなりあることがわかる。「自分の感情をコントロールできなくなるときがある」「何かを決めなければならないとき、決められずに困ることがある」などとも弱い正の関係がある。また、自己肯定は、「今の生活がむなしく感じられることがある」「自分の居場所がないように感じられることがある」「自分が何をしたいのかわからなくなるときがある」などと弱い負の関係にある。

この節では、不安・悩みと友人関係および自己意識の関係をみてきた。しかし、三者の関係については、明らかにされていない。この点については、次節とまとめにおいて考察することとしよう。

表3-8 自己意識と不安・悩みとの相関関係

	まじめに勉強するのがいやになる ときがある	自分の将来を 考えて不安になる ときがある	何かを決め なければなら ないとき、 決められず に困ることが ある	物事を感覚 的に決める ことがある	自分が何を したいのかわ からなくな るときがあ る	今の生活が むなしく感 じられるこ とがある	自分が一人 ぼっちのよ うで、不安 になること がある	自分の居場 所がないよ うに感じら れることが ある	自分の感情 をコントロ ールできな くなるとき がある
自己拡散	0.122 **	<u>0.220 **</u>	<u>0.273 **</u>	<u>0.241 **</u>	<u>0.422 **</u>	<u>0.454 **</u>	<u>0.398 **</u>	<u>0.467 **</u>	<u>0.326 *</u>
自己肯定	-0.053 *	-0.078 *	<u>-0.156 **</u>	0.023	<u>-0.182 **</u>	<u>-0.238 **</u>	-0.09 **	<u>-0.186 **</u>	-0.001

注) 数値は相関係数で、絶対値が大きいほど関係が強いことを示している。プラスは正の関係、マイナスは負の関係を意味している。また、      は相関がかなりあることを、      は弱い相関があることを示している。\*\*は1%水準で、\*は5%水準で有意であることを表し、関係の強弱ではない。

## 4 友人関係のタイプ

第1節でも述べたように、友人とのつきあい方の各傾向（因子）は、強弱の差こそあれ個人の中に共存しているわけである。そこで、その強弱のパターンによって、友人関係をグループ化してみた<sup>7)</sup>。すると、図3-8のように7つの類型に分けることができた。各タイプの人数や割合は、表3-9のようになっている。また、各タイプと友人関係、自己意識不安・悩みの各質問をクロス集計した。ここでは紙幅の関係から、友人関係と自己意識の各因子は因子得点の平均値を示した。また、友人と親友の数は、「いない」に0点を、その他は回答番号と同じ点数を配点して求めた平均点を示した。その他は、「だいたいそう」と「まあそう」などを合わせた肯定的な回答の割合である（表3-10）。これらをもとに、各タイプの特徴を簡単にみてみることにしよう。

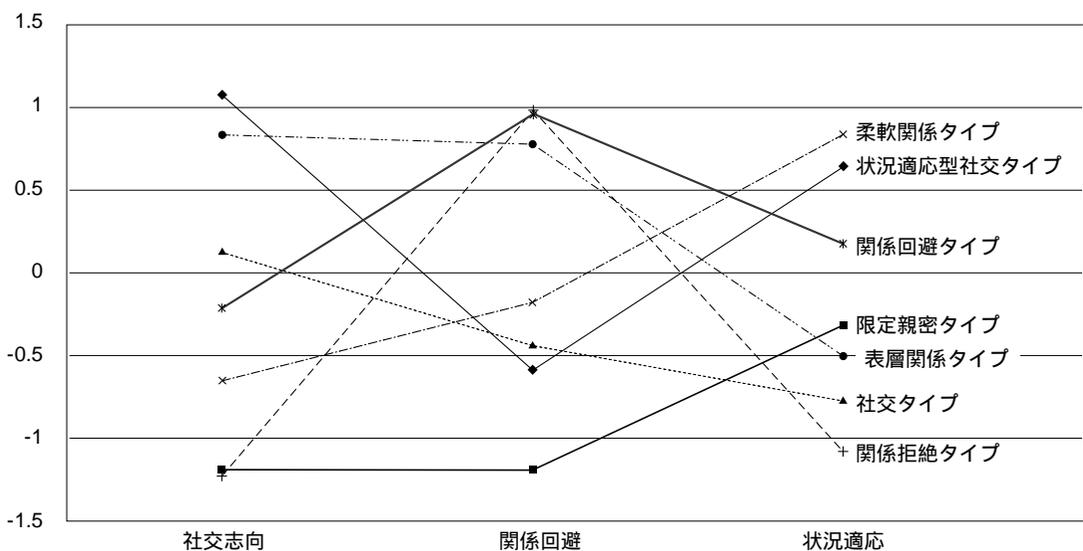
う。

まず、「状況適応型社交タイプ」は、全体の2割程度であり、社交志向と状況適応の各因子を強くもつタイプである。友人も非常に多く広い友人関係をもつが、親友の数も多く、それぞれの関係も表層的ではなくかなり深い。また、状況に応じた自分らしさを持ち、自己肯定感が強い。そして、「孤独感」「居場所のなさ」「虚無感」を最も感じていない。

「社交タイプ」は、全体の1割強で、社交志向因子が比較的高いタイプである。「状況適応型社交タイプ」ほどではないが、友人も多く広い友人関係を好む。

「表層関係タイプ」は、全体の2割弱で、女子よりも男子に多く、社交志向と関係回避の因子が高いタイプである。友人の数は多いが親友は少なく、広く浅い友人関係をもって

図3-8 友人関係のタイプ



いる。「関係回避」「関係拒絶」タイプとならんで、「孤独感」「居場所のなさ」「虚無感」を感じている。

「柔軟関係タイプ」は、全体の約2割で、男子よりも女子に多く、状況適応因子が非常に強いタイプである。「状況適応型社交タイプ」と比べれば狭いものの、広い友人関係をもっている。差異は、広さよりも状況に応じた親密さを重視していることにある。また、「状況適応型社交タイプ」よりも明らかに多面的と言いうる自己を有している。そして、物事を決めることができず、感覚を重視している点も特徴的である。

「限定親密タイプ」は、全体の8%程度で最も少ない。全体に友人関係のどの因子も低いタイプである。友人の数のわりに親友の数が多く、限定された友人との親密な関係を好む。「本当の自分」があると信じ、今の自分を「本当の自分」と確信している。不安・悩みも全般的に感じていない。

「関係回避タイプ」は、全体の1割強で、関係回避因子が他の因子に比べ高いタイプで

ある。

「関係拒絶タイプ」は、全体の8%程度で2番目に少ない。他の因子に比べ関係回避因子が非常に強いタイプであり、友人の数も親友の数も極端に少ない。「関係回避」「関係拒絶」の両タイプは、深いつきあいを大事にしているものの、1人であることを好み、希薄で短命な関係しかもっていないようである。また、今の自分を「本当の自分」ではないと感じ、自分らしさを実感することができず、まさに自己拡散的な状況にある。そして、「孤独感」「居場所のなさ」「虚無感」を最も感じている。

これらの類型からも、広い友人関係でもいくつかのタイプがあることがわかる。「状況適応型社交タイプ」や「柔軟関係タイプ」の存在が明らかにしているように、広い友人関係が即、表層的な関係という見方は問題である。そのような見方では、現在の高校生の友人関係のあり方の実態をうまくとらえることはできないといえよう。

表3-9 友人関係のタイプ × 性・学年

	全 体		性 別				学 年					
			男 子		女 子		1 年 生		2 年 生		3 年 生	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
状況適応型社交タイプ	280	19.5%	131	19.1%	149	19.8%	126	18.3%	99	21.1%	55	19.5%
社交タイプ	196	13.6%	99	14.4%	97	12.9%	114	16.6%	53	11.3%	29	10.3%
表層関係タイプ	246	17.1%	127	18.5%	119	15.8%	123	17.9%	77	16.4%	46	16.3%
柔軟関係タイプ	299	20.8%	127	18.5%	172	22.9%	131	19.0%	104	22.2%	64	22.7%
限定親密タイプ	119	8.3%	57	8.3%	62	8.2%	53	7.7%	33	7.0%	33	11.7%
関係回避タイプ	175	12.2%	82	11.9%	93	12.4%	87	12.6%	55	11.7%	33	11.7%
関係拒絶タイプ	124	8.6%	64	9.3%	60	8.0%	54	7.8%	48	10.2%	22	7.8%
合 計	1439	100.0%	687	100.0%	752	100.0%	688	100.0%	469	100.0%	282	100.0%

表3-10 友人関係のタイプごとの特徴

	社交志向因子	関係回避因子	状況適応因子	自己拡散因子	自己肯定因子	友人の数	親友の数	友人になった ら、その関係 は長く続く方 だ	いろいろな友 人つきあい があり、それ ぞれ話す内容 は違う	あることがら について、我 を忘れ熱中し て友人と話す ことがある	浅く広くよ り、1人の友 人とのつきあ いの方を大事 にしている
状況適応型社交タイプ	[1.09]	-0.64	0.63	-0.03	[0.34]	[7.55]	[4.34]	[97.9]	94.3	86.8	42.9
社交タイプ	0.10	-0.46	-0.79	-0.12	-0.24	6.69	3.58	89.8	60.7	46.4	40.3
表層関係タイプ	0.80	0.76	-0.49	0.09	-0.18	6.76	2.57	77.2	89.4	59.8	28.0
柔軟関係タイプ	-0.62	-0.22	[0.80]	0.08	0.22	6.46	3.39	97.3	94.0	[91.3]	[96.0]
限定親密タイプ	-1.16	-1.18	-0.29	-0.38	0.15	5.89	3.41	95.0	31.1	74.8	89.9
関係回避タイプ	-0.27	0.97	0.20	[0.14]	-0.12	6.17	2.70	89.1	[97.1]	77.1	85.7
関係拒絶タイプ	-1.23	[0.98]	-1.10	[0.14]	-0.42	4.30	1.72	64.5	41.9	41.9	81.5
合計	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	6.49	3.23	89.0	79.4	71.6	63.4
	少数の友人よ り、多方面の 友人といろい ろ交流する方 だ	友人といるよ り、1人でい る方が気持ち が落ち着く	友人関係はあ っさりしてい て、お互いに 深入りしない	友人と一緒 にいても、別 々のことをし ていることが ある	相手や場面 によって出て くる自分とい うものは違 う	自分には自分 らしさという ものがある	どんな場 面でも自分 らしさを貫 くのが大切 だ	自分がどん な人間か わからなくな るとき がある	今の自分が 好きだ	今の自分 は「本当の 自分」では ない	「本当の自 分」なんて、 どこにも ないと思 う
状況適応型社交タイプ	[98.2]	23.6	20.0	30.0	75.0	[87.1]	[80.9]	62.7	[58.2]	30.8	25.0
社交タイプ	48.0	27.6	21.4	20.9	77.3	84.9	72.3	48.7	51.3	22.2	14.3
表層関係タイプ	83.3	58.9	[78.9]	52.8	81.7	71.6	69.8	63.9	38.0	29.2	21.4
柔軟関係タイプ	24.7	39.1	19.4	37.5	81.8	83.2	77.5	68.1	48.7	33.6	19.1
限定親密タイプ	5.9	21.8	2.5	9.2	65.5	75.3	73.0	66.7	45.1	37.6	35.1
関係回避タイプ	30.3	75.4	78.3	[66.3]	[82.1]	75.9	71.1	66.1	40.4	37.1	28.0
関係拒絶タイプ	6.5	[76.6]	64.5	41.9	79.7	61.5	66.7	[68.9]	31.4	[43.3]	[41.0]
合計	49.8	44.1	39.6	37.9	78.4	78.5	74.1	64.4	46.0	33.4	25.5
	昨日までの自 分と今の自分 は違う	まじめに勉強 するのがいや になるとき がある	自分の将来を 考えて不安に なるととき がある	何かを決め なければなら ないとき、決 められずに 困ることが ある	物事を感覚 的に決める ことがある	自分が何を したいのかわ らなくなる ときがある	今の生活が むなししく 感じられる ことがある	自分が1人 ぼっちのよ うで、不安 になること がある	自分の居場 所がないよ うに感じら れること がある	自分の感情 をコントロール できなくな るととき がある	
状況適応型社交タイプ	[31.8]	90.0	78.2	72.5	74.9	69.3	54.3	42.9	36.1	45.7	
社交タイプ	18.8	87.0	75.6	76.6	72.0	65.6	56.0	44.8	41.8	42.0	
表層関係タイプ	21.2	88.6	[78.9]	[79.2]	72.4	[76.8]	70.2	51.2	53.3	[50.0]	
柔軟関係タイプ	29.2	90.9	77.1	77.9	78.2	70.4	63.4	56.0	52.3	47.1	
限定親密タイプ	21.8	89.9	72.3	70.6	69.7	64.7	58.8	49.6	45.4	38.7	
関係回避タイプ	25.9	88.0	74.3	75.3	[79.3]	69.1	[71.8]	[56.3]	56.3	49.1	
関係拒絶タイプ	20.7	[91.1]	74.8	78.0	68.3	74.8	71.5	54.5	[59.3]	44.7	
合計	25.2	89.4	76.5	76.0	74.3	70.4	63.1	50.5	48.4	46.0	

注) 因子は各因子得点の平均値。友人と親友の数は、「いない」に0点、その他は回答番号と同じ点を配点し求めた平均値であり、友人や親友の数の平均ではない。その他は、「だいたいそう」+「まあそう」、「とてもそう思う」+「まあそう思う」、「よくある」+「ときどきある」の割合(%)、 は最大値、は最小値。なお、この表における合計とは、タイプ分けされた1439名を指し、サンプル全体ではない。

## 5 まとめ - 友人関係の現在と未来 -

最後に本章の分析結果をまとめることにしよう。ただし、はじめにも述べたように、サンプルの代表性という観点から、試験的な分析の結果であることをお断りしておく。

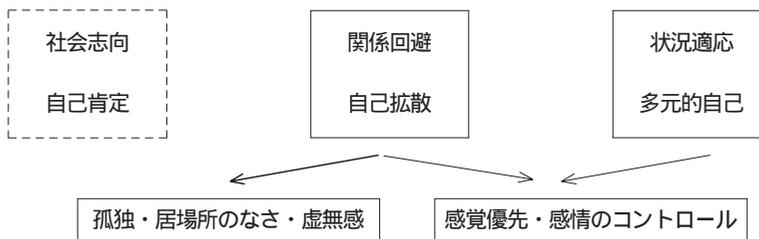
まず、高校生の友人とのつきあい方は、「社交志向」「関係回避」「状況適応」の3つの成分（因子）からなることがわかった。さらに、これらの成分の結びつきのパターンから7つの友人関係のタイプを取り出すことができた。そこでは、広くかつ深い関係を構築している「状況適応型社交タイプ」や「柔軟関係タイプ」が見いだされた（合計で全体の約4割）。このことから、一般的な見方とは異なり、広い関係性が「表層的」な関係とは必ずしもいえないということがわかる。また、表層的な関係と結びつくのは、「関係回避」因子が強い、「関係拒絶タイプ」「関係回避タイプ」「表層関係タイプ」であることも明らかとなった（合計で4割弱）。

また、友人関係と自己意識の関係については、結びつきはそれほど明確ではなかった。しかし、「社交志向」因子は、自らの自分らしさに肯定的で、一貫した自己と非常に弱くではあるが関連していた。また、「関係回避」因子は、確かな自分らしさをもてない拡散的

な自己と関連していた。「状況適応」因子は、自己肯定と自己拡散の双方の側面をもっている。すなわち、自分らしさというものはあるが、それが個々の状況に応じて異なるというような多元化した自己と関連していた。

次に、「友人関係」「自己意識」「不安・悩み」の三者の関係を単純化すると、図3-9のようにまとめることができる。社交志向・自己肯定 や 状況適応・多元的自己は、「孤独」「居場所のなさ」「虚無感」とは結びついていない。それらの意識と関連があるのは 関係回避・自己拡散 であった。一方、「感覚優先」や「感情のコントロール」は、関係回避・自己拡散 状況適応・多元的自己 と関連をもっていた。我々おとなからみた場合、広く表層的に思われるような友人関係が、自己肯定感と関連する可能性があり、「孤独」「居場所のなさ」「虚無感」というものを、直接導き出すものではないことがわかる。むしろ直接的には、関係を構築できないような「関係回避」因子が、「孤独」「居場所のなさ」「虚無感」と関連がある。それは、それらの感情と強く結びつく「自己拡散」因子が「関係回避」因子と関連があることからわかる。一方、「感覚優先」や「感情のク

図3-9 友人関係、自己意識、不安・悩みの関係



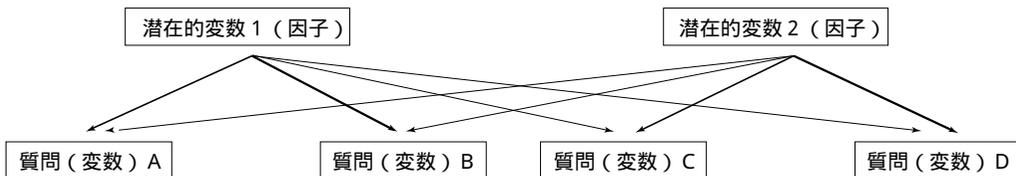
ントロール」は、もう少し複雑な関係にある。これらは、「関係回避」因子のみならず、「状況適応」因子とも関連をもっている。このことは、多元的な自己が自分らしさを保持しながらも状況に応じて変化するという点から解釈可能であろう。

上記のような分析結果からすると、非常に常識的ではあるが、友人と関係をうまく構築できないようなタイプが最も「問題」を抱えているということがわかる。逆にみると、広い友人関係は、必ずしも「問題」的な意識につながらないということを示している。広いと浅いという類型は、実際の高校生の友人関係においては、単純に一連のものとしてとらえるべきではない。広く深くとも言い得る関係の存在は、広く浅く狭く深いという二分法の限界を示しているとい

えよう。複雑化した社会に住む高校生たちのかなりの部分が、さまざまな状況に応じて、関係性を使い分ける能力を身につけているようである。「離脱の困難な関係から離脱の自由を保障された関係へ」「<包括的なコミットメント>から<選択的なコミットメント>へ」と友人関係も変化しつつあるのだろうか[浅野 1999]。それと対応し、強固に一貫した自己というものも、「ゆるやかにほどけはじめている」のかもしれない[浅野 1999]。それは、単に拡散した自己というのではなく、多元的な自分らしさをもった「流動的な自己」の姿である[三上 1993,1995]。しかしながら、その一方で、自分らしさをもてず、複雑な関係性を構築することができない「関係回避」型の高校生が少なからず存在していることも忘れてはならないだろう。

#### 〔注〕

- 1) 詳細は専門書にゆずるが、イメージとしては以下ようになる。因子は、潜在的な未知の変数であり、実際に測定された変数間の相互関係から抽出される。



- 2) 因子抽出には主因子法を用い、回転法はkaiserの正規化を伴うバリマックス回転による。また、友人と親友の数は、「いない」に0点、その他は回答番号と同じ点数を与えている。友人と親友の数以外は、質問紙とは逆に、肯定的な回答から順に4点から1点の点数を与えている。
- 3) 因子得点は、各得点間での比較を可能にするため、ほぼ平均値0、標準偏差1に標準化している。
- 4) 因子抽出には主因子法を用い、回転法はkaiserの正規化を伴うバリマックス回転による。また、質問紙とは逆に、肯定的な回答から順に4点から1点の点数を与えている。なお、上記注1も参照。
- 5) 相関関係は、あくまでも直線的な関係の強さを表している。したがって、相関係数が低いからといって、関係がないということを意味しているわけではない。相関係数がどの程度かによって関係の強弱を判断する絶対的な基準はないが、一応の目安をあげておく。

0.0	$ r  < 0.2$	0.2	$ r  < 0.4$	0.4	$ r  < 0.7$	0.7	$ r $	1.0
ほとんど相関がない		低い(弱い)相関がある		相関がかなりある		高い(強い)相関がある		

(  $|$  は絶対値であり、 $r$  がマイナスの場合に負の相関があるという)

- 6) 上記、注5を参照。

7)ここでは、グループ化するために階層的方法によるクラスター分析を行った。平方ユークリッド距離を用い、ウォード法を適用した。なお、クラスター(グループ)の数を決定する絶対的な基準はない(疑似F統計量など参考となる指標はある)ここでは主に、7つというクラスターの数は、クラスター数ごとに表3-10のようなクロス表を作成し、類型としての妥当性という観点から決定した。

〔主要参考・引用文献〕

- 浅野智彦 1995 「友人関係における男性と女性」代表研究者藤村正之『都市と世代文化に関する実証研究』平成4-6年度科学研究助成金(総合研究A)研究成果報告書  
1999 「親密性の新しい形へ」藤村正之他編『みんなぼっちの世界』恒星社厚生閣(近刊予定)
- 三上剛史 1993 『ポスト近代の社会学』世界思想社  
1995 「現代人のアイデンティティと自己意識」荻野昌弘他著『社会学の世界』八千代出版
- 大澤真幸 1995 『電子メディア論-身体のメディア的変容』新曜社

## 第4章 |||||

# これが私の生きる道

## 1 頼ること・頼られること、 干渉すること・干渉されること

近ごろ私達は いい感じ  
 悪いわね ありがとね これからも よろしくね  
 もぎたての果実の いいところ  
 そういう事にしておけば これから先も イイ感じ

もしも誰かが 不安だったら 助けてあげられなくはない  
 うまくいっても ダメになっても それがあなたの生きる道

もえてる私達は いい感じ  
 生きている あかしたね 世の中が すこし見えたね  
 もぎたての果実の いいところ  
 そういう事にしておきな 角度変えれば またイイ感じ

少くくは 不安だってば これが私の生きる道  
 近ごろ私達は いい感じ  
 悪いわね ありがとね これからも よろしくね  
 まだまだここからがいいところ  
 最後までみていてね くれぐれもじゃましないでね  
 もぎたての果実の いいところ  
 そういう事にしておけば これから先も イイ感じ

それでは さようなら

JASRAC 出9905108-901

これは、しばらく前にPUFFYが歌った「これが私の生きる道」の歌詞である。この歌詞からは、近年の若者にみられる、人づきあいに関して相手の立ち上がったことには干渉しないし、自分のことに関しても深く干渉されたくないという「無干渉主義」が読みとれる。

「もしも誰かが 不安だったら 助けてあげられなくはない」と、相手を助けることに消極的な態度を示しているし、助けるには助けても、「うまくいっても ダメになってもそれがあなたの生きる道」と、自分が干渉することで生じるはずの責任を回避している。また、自分が干渉されることについても、「くれぐれもじゃましないでね」というように、自分の行動に深く干渉されることを嫌がっている。

このように、干渉したくない/されたくないという一見冷たい人間関係が描かれている

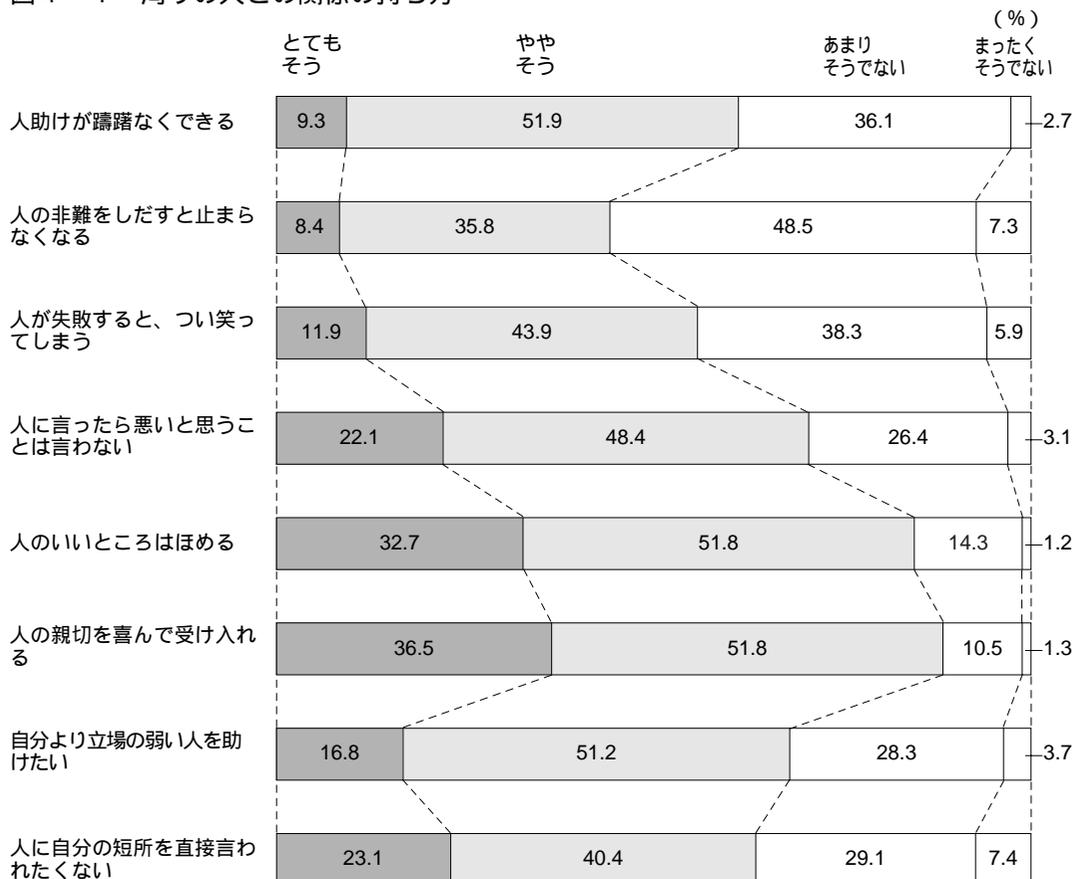
一方で、「悪いわね ありがとね これからも よろしくね」「最後までみていてね」というように、常に誰かと一緒にいたい、誰かに見ていてほしいという欲求をもっていたり、「少しくらいは 不安だってば」と、自分が不安であることはしっかり訴えたりしている。

この歌では、必要以上には干渉したくない/されたくないけれど、まったく放っておかれるのはいやだという、若者の微妙な人間関係の持ち方が描かれているといえよう<sup>1)</sup>。

では、実際に高校生は、頼ったり頼られたりすること、干渉したり干渉されたりすることをどのように思っているのだろうか。

図4-1は、頼ったり頼られたりすること、干渉したり干渉されたりすることについてどう感じているか、またはどんな態度を示すか

図4-1 周りの人との関係の持ち方



を、一般論的にたずねた結果である。

まず頼ったり頼られたりすることについて  
 みてみよう。「人の親切を喜んで受け入れる」  
 について、「とてもそう」と回答した割合は  
 36.5%で、「ややそう」も合わせると88.3%  
 と、ほとんどの高校生が周りの人に頼ること  
 については肯定的な態度を示している。また  
 「人助けが躊躇なくできる」と「自分より立  
 場の弱い人を助けたい」に肯定的に回答した  
 割合は、いずれも6割台だが、「とてもそう」  
 という回答は、前者が9.3%、後者が16.8%  
 にすぎず、頼られることを厭うわけではない  
 ものの、あまり深くかかわりあいたくない様  
 子がうかがえる。

次に干渉したり干渉されたりすることにつ  
 いてみてみよう。「人に自分の短所を直接言  
 われたくない」と思っている割合は、「とて  
 も」と「やや」を合わせると63.5%で、3人  
 に2人が干渉されることへの抵抗感を示して  
 いる。「人のいいところはほめる」割合は  
 84.5%にも上るが、「人の非難をしだすと止  
 まらなくなる」に否定的な回答をした割合が  
 55.8%、「人に言ったら悪いと思うことは言  
 わない」に肯定的な回答をした割合が70.5%

と、干渉することについては、内容に応じた  
 それなりの節度があるようだ。

以上をまとめると、頼りたいときは頼るけ  
 れど、そこで必要以上に干渉されるのは嫌だ  
 し、頼ってくるのはかまわないけれど、あま  
 り深くはかかわりあいたくなくて、自分に責  
 任がおよんだり、相手の非を責めたりしてま  
 で干渉するのはちょっとね、というのが、高  
 校生の人間関係の持ち方ということになる  
 うか。

以下の節では、高校生が、彼ら/彼女らを  
 とりまくさまざまな人のうち、どのような人  
 なら、頼ったり頼られたりしたいと思うのか、  
 干渉したり干渉されたりしてもかまわないと  
 思っているのかということを検討していく。

- 1) 本章は、筆者が非常勤講師として担当している国  
 際基督教大学の社会調査法を、'96年から'97年にか  
 けて受講した岩寄博論君が言説分析のレポートと  
 して提出した「PUFFY『これが私の生きる道』  
 にみる若者の無干渉主義」に触発されて、調査を  
 設計したものである。レポートの内容をモチーフ  
 に調査することを了解してくれた岩寄君に深く感  
 謝したい。なお、本稿の歌詞の考察部分は、岩寄  
 君のレポートの該当部分を筆者が再構成した。

## 2 頼ったり頼られたりしたい人間関係

高校生は、どのような人と頼ったり頼られたりしたいと考えているのだろうか。本節では、頼りたい人間関係について焦点をあてて検討していく。

まず表4 - 1は、Q21でいくつかの場面を想定して、誰と話したいかをたずねた結果である。

「学校での出来事について」一番話したい人は、親友の48.4%が最も多く、以下両親(20.5%)、つきあっている人(15.3%)、同級生(9.8%)と続いている。一番話したい人と二番目に話したい人とを合わせると、親友(70.7%)、両親(44.3%)、同級生(31.8%)、つきあっている人(27.9%)とい

う順になる。

「クラブ活動について」話したい人も、「学校での出来事について」と似た傾向を示しているが、同級生に一番話したいという割合が、つきあっている人と一番話したい割合よりも高い点、高校の先輩や後輩と話したいという割合が他の項目に比べると高い点が目立つ。

「つきあっている人や好きな人について」一番話したい人は、8割ほどの高校生が親友を挙げている。一番話したい人と二番目に話したい人とを合わせると、親友(92.8%)、同級生(67.2%)、きょうだい(12.7%)、両親(6.8%)という順になっており、他の項

表4 - 1 さまざまなことがらについて誰と話したいか

(%)

	学校での出来事について		クラブ活動について		つきあっている人や好きな人について		自分の成績や進路について		社会の出来事について	
	一番	二番目	一番	二番目	一番	二番目	一番	二番目	一番	二番目
両親	20.5	23.8	17.7	21.7	1.1	5.7	41.2	23.6	42.7	18.6
きょうだい	5.0	15.5	4.2	11.6	2.3	10.4	4.2	9.2	3.4	12.9
つきあっている人	15.3	12.6	10.7	9.4	5.1	4.6	7.3	6.2	5.1	5.0
親友	48.4	22.3	48.1	19.8	82.8	10.0	31.0	25.6	30.3	22.2
同級生	9.8	22.0	14.4	28.9	7.5	59.7	6.3	14.0	13.4	28.9
高校の先輩や後輩	0.3	1.5	3.4	6.1	0.4	7.4	1.7	2.8	0.9	2.4
学校の先生	0.1	0.7	0.8	1.5	0.1	0.7	6.3	14.0	2.4	6.0
保健室の先生やカウンセラー	0.2	0.6	0.2	0.6	0.3	0.9	0.2	1.8	0.6	1.5
塾や予備校の先生	0.3	1.0	0.4	0.5	0.2	0.7	1.7	2.9	1.1	2.4

一番=一番話したい人  
二番目=二番目に話したい人

目では上位にくる両親には、つきあっている人や好きな人のことはほとんど話しくなく、むしろ家族の中では両親よりもきょうだいに話したいと思っているのが特徴的だ。

「自分の成績や進路について」一番話したい人は、両親の41.2%が最も多く、以下親友(31.0%)、つきあっている人(7.3%)、学校の先生(6.3%)、同級生(6.3%)と続いている。一番話したい人と二番目に話したい人とを合わせると、両親(64.8%)、親友(56.6%)、学校の先生(20.3%)、同級生(20.3%)という順になっている。自分の将来について、経済的な面や成績の面でかわ

りのある問題だけに、話したい相手として両親が最も多いのは当然だろうが、学校の先生も他の項目と比べて格段に多くなっている。一方、塾や予備校の先生が4.6%しか話したい相手として挙がらなかったのは意外だった。

「社会の出来事について」一番話したい人は、両親の42.7%が最も多く、以下、親友の30.3%、同級生の13.4%と続いている。一番話したい人と二番目に話したい人とを合わせると、両親(61.3%)、親友(52.5%)、同級生(42.3%)、きょうだい(16.3%)という順になっている。

図4-2 誰と一番話したいか(数値は表4-1)

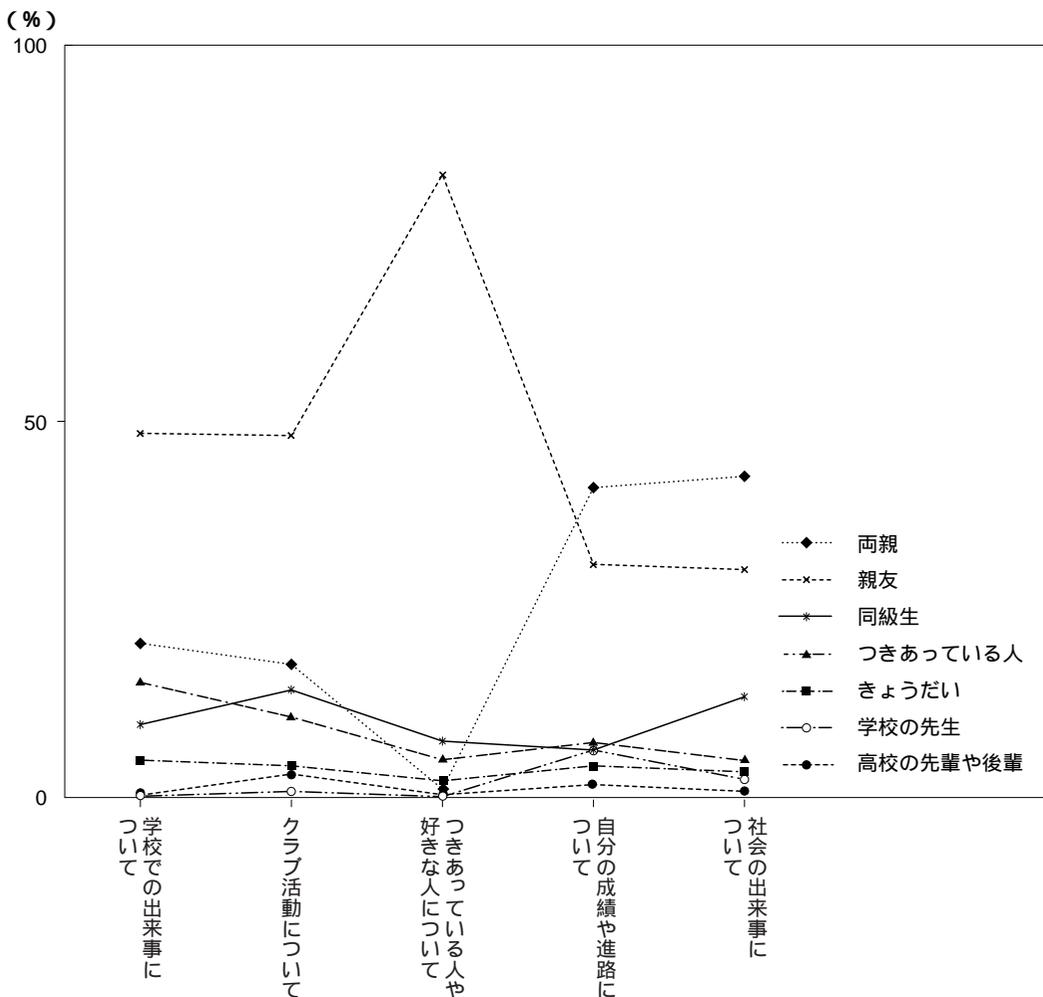


図4 - 2から全体の特徴をまとめてみると、学校のことやクラブ活動といった身のまわりの出来事は、親友と最も話したいが、進路や社会の出来事といった世の中のしくみにかかわることは両親と最も話したいと思っており、つきあっている人や好きな人とは学校での出来事は話したいけれど、社会の出来事のようなお堅い話はしたいとは思っていないし、クラブ活動については高校の先輩や後輩とも話したいし、好きな人のことは両親には内緒でもきょうだいからはこっそり知恵を拝借したいし、進路については学校の先生とも話したい、というように、内容によって話した

い相手を使い分けている様子が見えてくる。

なお、具体的な数値は巻末の集計表を参照してもらいたいが、話したい相手には男女差がみられ、両親やきょうだいといった家族と話したい割合は男子よりも女子の方が高く、つきあっている人や同級生といった同世代の人と話したい割合は、女子よりも男子の方が高かった。

次に表4 - 2は、Q22でいくつかの場面を想定して、誰を頼りにしたいかをたずねた結果である。

「気軽におしゃべりをしたり、気晴らしをしたりする」ときに一番頼りにしたい人は、

表4 - 2 さまざまなことならについて誰を頼りにしたいか

(%)

	気軽におしゃべりをしたり、気晴らしをしたりする		個人的な悩み事を相談する		勉強や進路のことを相談する		好きな人のことについて相談する	
	一番	二番目	一番	二番目	一番	二番目	一番	二番目
両親	3.3	10.7	9.8	19.6	33.3	24.1	1.2	5.5
きょうだい	4.0	13.2	4.0	8.9	5.8	7.8	2.5	10.9
つきあっている人	11.2	14.1	10.0	13.5	5.9	5.0	2.7	4.0
親友	66.0	20.3	70.4	18.1	32.4	22.2	86.0	7.4
同級生	14.4	37.6	3.7	32.3	6.5	13.7	6.6	63.0
高校の先輩や後輩	0.3	2.6	0.3	3.0	2.1	3.2	0.3	6.6
学校の先生	0.1	0.8	0.5	1.8	10.9	18.9	0.4	0.6
保健室の先生やカウンセラー	0.2	0.5	1.0	2.3	0.4	1.2	0.1	1.5
塾や予備校の先生	0.3	0.2	0.3	0.4	2.7	3.9	0.2	0.4

一番=一番頼りにしたい人  
二番目=二番目に頼りにしたい人

親友が66.0%で群を抜いて多く、親友に続くのが同級生とつきあっている人だが10%台にすぎなかった。一番頼りにしたい人と二番目に頼りにしたい人とを合わせると、親友(86.3%)、同級生(52.0%)、つきあっている人(25.3%)、きょうだい(17.2%)、両親(14.0%)の順になる。「おしゃべりをしたり、気晴らしをしたりする」相手としては、親友、同級生、つきあっている人といった同世代が最も頼りになるようだ。

「個人的な悩み事を相談する」ときに一番頼りにしたい人は、やはり親友の70.4%だが、そのあとに続く頼りにしたい人は「気軽におしゃべりをしたり、気晴らしをしたりする」場合とやや異なり、つきあっている人(10.0%)、両親(9.8%)となっている。一番頼りにしたい人と二番目に頼りにしたい人とを合わせると、親友(88.5%)、同級生(36.0%)、両親(29.4%)、つきあっている人(23.5%)、きょうだい(12.9%)の順になっており、きょうだいやつきあっている人よりも両親の存在が大きくなっている。

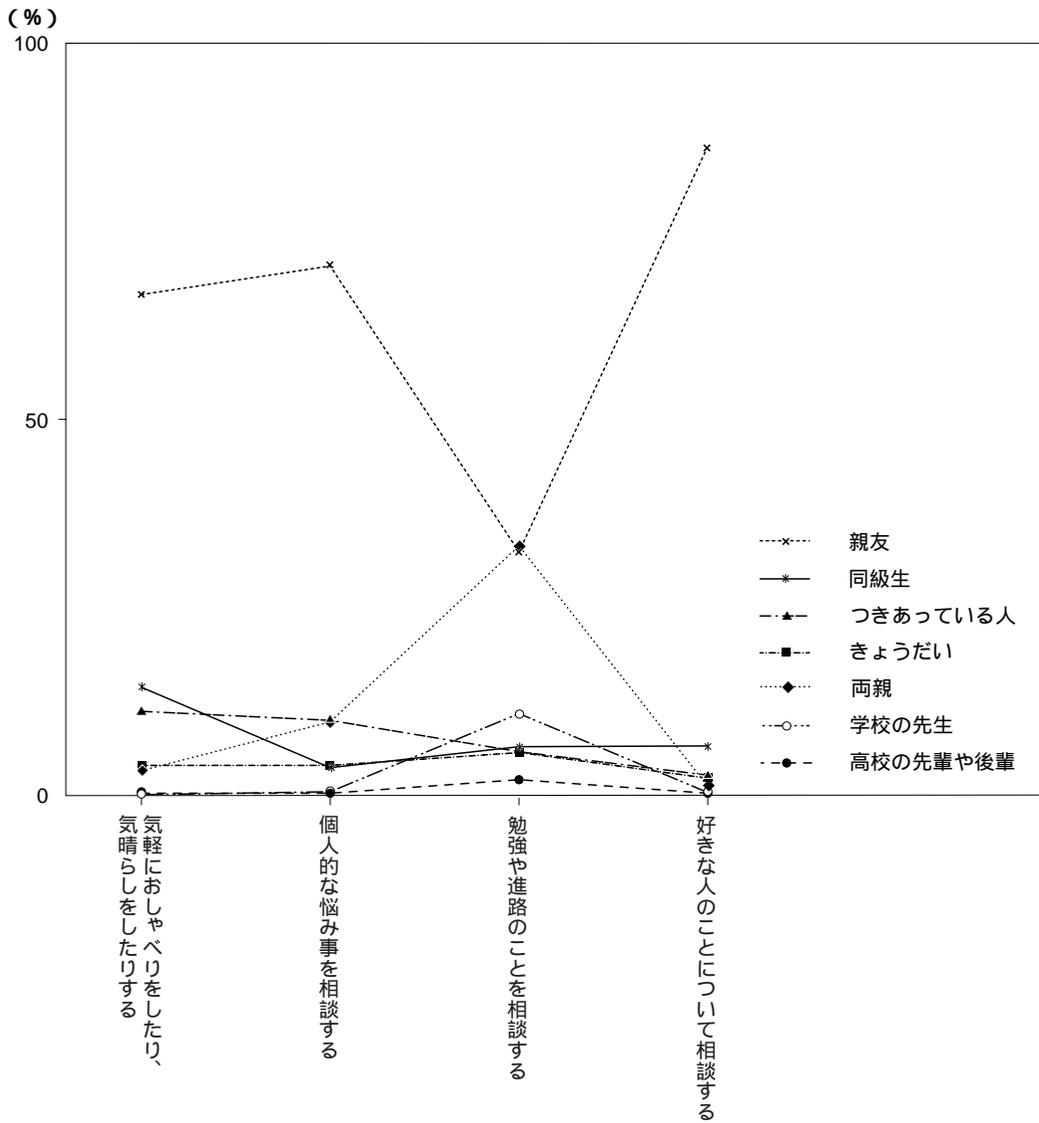
「勉強や進路のことを相談する」ときに一番頼りにしたい人は、両親と親友がいずれも30%台前半で、その次に学校の先生が10.9%で続いている。一番頼りにしたい人と二番目に頼りにしたい人とを合わせると、両親(57.4%)、親友(54.6%)、学校の先生(29.8%)、同級生(20.2%)、きょうだい(13.6%)、つき

あっている人(10.9%)の順になっている。先にみた話したい人のときにも、進路関係では両親や学校の先生が上位に挙がってきていたが、頼りたい人として、学校の先生がより上位にきている点に注目できよう。

「好きな人のことについて相談する」ときに一番頼りにしたい人は、親友が86.0%にも上り、続くのが同級生だが、わずか6.6%にすぎない。一番頼りにしたい人と二番目に頼りにしたい人とを合わせると、親友(93.4%)、同級生(69.6%)、きょうだい(13.4%)、両親(6.7%)という順になっていて、これは先にみた「つきあっている人や好きな人について」話したい人のときと割合もほとんど同じである。

図4-3から全体の特徴をまとめてみると、話したい人のときと同様に、身のまわりのことは親友や同級生を頼りにし、世の中のしくみにかかわることになると両親や学校の先生も頼りにするという構図がみてとれる。親友がどの項目でも上位に挙げられているのに比べると、つきあっている人には好きな人も含んでおり、実際に頼っているかではなく、頼りたいかをたずねているにもかかわらず、どの項目でも思ったほど上位に挙げられていない。つきあっている人や好きな人にはかっこ悪いところを見せたくないからなのか、親友とつきあっている人とでは関係の築き方に違いがあるからなのか、興味深い特徴である。

図4 - 3 誰を一番頼りにしたいか（数値は表4 - 2）



### 3 干渉したり干渉されたりしても かまわない人間関係

本節では、高校生がどのような人となら干渉したり干渉されたりしてもかまわないと考えているのかを検討していく。

まず干渉されることについて、Q23とQ24で、高校生の同世代のさまざまなかわり方をしている人を取りあげて、それぞれについて「成績や将来の進路について口出ししてきたとしたらどう感じるか」と「顔つきや体つきについて口出ししてきたとしたらどう感じるか」の2つをたずねた。

表4-3は「成績や将来の進路について口出ししてきたとしたらどう感じるか」をまとめたものである。きょうだいの場合、「素直に聞き入れるだろう」が18.1%で、「聞くだけは聞いておくらう」が45.6%で、「そのような人がいない」を除いた3分の2が干渉

されることを許容しているが、他の関係の人に比べると、最も許容度が低い。

つきあっている人では、「そのような人はいない」を除くと、ほとんどが「素直に聞き入れるだろう」と「聞くだけは聞いておくらう」を選んでおり、つきあっている人に干渉されることにはほとんど抵抗はないようだ。なお、「素直に聞き入れるだろう」と「聞くだけは聞いておくらう」をほぼ半数ずつが選択している。

同様の傾向が親友に干渉された場合にもみられるが、つきあっている人の場合にはみられなかった男女差があり、男子は「素直に聞き入れるだろう」の方が少なく、女子は「聞くだけは聞いておくらう」の方がやや少なくなっており、女子の方が親友からの干渉に

表4-3 成績や進路について干渉されたらどう感じるか

(%)

	素直に聞き入れるだろう	聞くだけは聞いておくらう	聞きたくないと感じるだろう	まったく気にしないだろう	そのような人はいない
きょうだい	18.1	45.6	13.1	15.4	7.8
つきあっている人	26.9	26.9	1.8	1.9	42.5
親友	42.8	48.7	2.3	2.7	3.4
同級生	18.6	65.6	9.2	6.5	—
高校の先輩や後輩	20.9	45.2	7.9	7.4	18.6
高校以外の友人	14.5	51.3	6.3	6.0	21.9
中学時代の友人	26.3	61.1	5.0	5.3	2.3

対する許容度が高いようだ。

同級生、高校の先輩や後輩、高校以外の友人、中学時代の友人になると、いずれも「素直に聞き入れるだろう」が20%前後、「聞くだけは聞いておくだろう」がほぼ半数から3分の2程度、抵抗を示している高校生が10%台となっており、つきあっている人や親友に比べるとやや許容度が下がる。その中でも、「素直に聞き入れるだろう」だけを見ると、同級生や高校以外の友人より中学時代の友人が高くなっているのは、調査対象者の約半数が1年生だからだろうが、高校の先輩や後輩も高いのは、将来にむけての重要な情報源として先輩の意見を参考にしようという考えのあらわれだろうか。

表4 - 4は「顔つきや体つきについて口出ししてきたとしたらどう感じるか」をまとめたものである。成績や進路に比べると干渉されることへの抵抗が全般に高くなっている。

きょうだいの場合、「素直に聞き入れるだろう」が14.1%で、「聞くだけは聞いておくだろう」が35.1%だが、「そのような人はい

ない」を除いて考えると、半数弱の高校生がきょうだいに干渉されることに抵抗を示している。

つきあっている人については、成績や進路のときはほとんどの人が抵抗を示さなかったが、顔つきや体つきについてはやや許容度が下がり、「そのような人はいない」を除くと5人に1人が抵抗を示している。

成績や進路のときと同様、親友に干渉される場合もつきあっている人に干渉される場合と似たような感じ方をしている、5人に1人が抵抗を示しているが、先ほどみられた男女差はみられない。

同級生、高校の先輩や後輩、高校以外の友人、中学時代の友人に対してとなると、いずれも「素直に聞き入れるだろう」が10%前後、「聞くだけは聞いておくだろう」が30%台から50%台で、抵抗を示している高校生が10%台から20%台となっており、つきあっている人や親友に比べるとやや許容度が下がる。その中でも「素直に聞き入れるだろう」だけを見ると、中学時代の友人が高いのは相

表4 - 4 顔つきや体つきについて干渉されたらどう感じるか

(%)

	素直に聞き入れるだろう	聞くだけは聞いておくだろう	聞きたくないと感じるだろう	まったく気にしないだろう	そのような人はいない
きょうだい	14.1	35.1	24.4	19.1	7.3
つきあっている人	24.6	21.8	10.0	3.0	40.6
親友	30.9	45.9	13.0	7.3	3.0
同級生	13.4	51.6	26.1	8.9	—
高校の先輩や後輩	7.3	35.7	26.5	12.0	18.5
高校以外の友人	7.1	38.9	21.3	10.3	22.3
中学時代の友人	16.9	51.3	19.4	10.0	2.4

変わらずだが、先ほどは同級生より高かった高校の先輩や後輩が、今度は低くなっているのは注目できよう。

次に干渉することについて、Q25で高校生の同世代のさまざまなかわり方をしている人が「お金のかかるようなことで困っているとしたらどう思うか」をそれぞれたずねた。表4-5がその結果をまとめたものである。

きょうだいの場合、約半数が「自分のできる範囲でお金を貸してあげる」と考えており、「そのような人はいない」を除いた場合、この干渉のしかたが最も高かったのがきょうだいだった。続いて「話を聞くだけは聞いてあげる」が残りの半数で、「親身になって相談を受ける」「あまり干渉しないようにする」と続いている。

つきあっている人では、「そのような人は

いない」を除くと、「自分のできる範囲でお金を貸してあげる」が4割強、「親身になって相談を受ける」が4割弱となっており、積極的にかかわろうとしている様子がうかがえる。「あまり干渉しないようにする」は2.8%と非常に少なかった。

親友についても、つきあっている人と同様の傾向がみられた。「あまり干渉しないようにする」が最も少なかったのが親友である。

同級生、高校の先輩や後輩、高校以外の友人、中学時代の友人に対しては、「自分のできる範囲でお金を貸してあげる」かわり方が最も高かったきょうだい、つきあっている人、親友に対してとは多少異なる干渉のしかたをしている。同級生、高校の先輩や後輩、高校以外の友人の場合は、いずれも「話を聞くだけは聞いてあげる」かわり方が最も高くして3割台で、「自分のできる範囲でお金を

表4-5 お金で困っている人にどう干渉するか

(%)

	自分のできる範囲でお金を貸してあげる	親身になって相談を受ける	話を聞くだけは聞いてあげる	あまり干渉しないようにする	そのような人はいない
きょうだい	45.1	13.6	22.6	11.4	7.2
つきあっている人	24.6	22.5	8.5	2.8	41.5
親友	39.0	38.7	15.5	4.0	2.8
同級生	13.9	32.5	39.4	14.2	—
高校の先輩や後輩	6.5	20.3	31.3	22.7	19.2
高校以外の友人	6.0	19.4	33.2	19.1	22.4
中学時代の友人	17.9	34.0	32.5	13.2	2.4

貸してあげる」が最も少なかった。同級生は、「親身になって相談を受ける」も3割台だが、高校の先輩や後輩、高校以外の友人では、「親身になって相談を受ける」と「あまり干渉しないようにする」がそれぞれ2割程度で、「自分のできる範囲でお金を貸してあげる」については、同級生の方が高校の先輩や後輩、高校以外の友人よりも高かった。

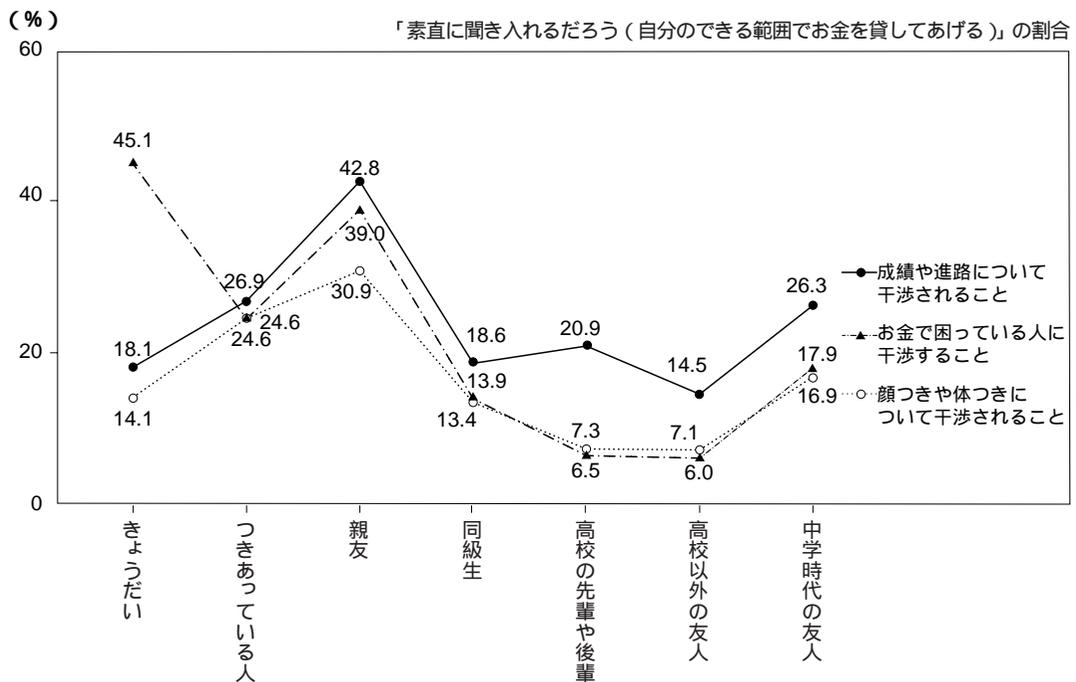
中学時代の友人でも、わずかに「親身になって相談を受ける」方が高いものの、「話を聞くだけは聞いてあげる」も3割で、「あまり干渉しないようにする」よりも、「自分のできる範囲でお金を貸してあげる」方がやや高かった。

全般に男女差がみられ、男子は、きょうだいに対してを除くと、女子よりも「自分のできる範囲でお金を貸してあげる」かかわり方をする傾向があり、女子は、「親身になって

相談を受ける」かかわり方をする傾向がみられた。

図4 - 4から全体の傾向をまとめてみると、きょうだいに対しては干渉されることに対しての許容度が低いのが、干渉することに対しては、積極的にかかわろうとする態度がみられる。つきあっている人や親友に対しては似たような傾向がみられ、干渉されることも干渉することも厭わない関係である。同級生、高校の先輩や後輩、高校以外の友人、中学時代の友人は、干渉されることも干渉することもやや許容度が低いのが、その中でも中学時代の友人に対する許容度が一番高く、また状況に応じて誰に対して許容度が高いか使い分けられている様子が見えてくる。

図4 - 4 干渉すること・干渉されることへの許容度



## 4 「親友」という人間関係

前節までの分析を通して、高校生が頼ったり頼られたりしたい人、干渉したり干渉されたりしてもかまわないと考えている人として、親友が非常に重要な存在であることがうかがえた。そこで本節では、親友とはどういう存在なのかを量的な面と質的な面の双方から検討する。

図4 - 5は、「友人」の数と「親友」と呼べる人の人数を比較したものである。「友人」の数については、1桁台しかいないと答えた高校生は17.2%にすぎず、10人台が24.0%、20人から49人が27.0%、50人以上が30.0%となっている。それに対して、「親友」と呼べる人の人数は、2桁以上いると答えた高校生はわずか8.0%にすぎず、1人が9.3%、2人が17.4%、3人が19.0%、4～5人が26.2%、6～9人が12.9%だった。友人は何十人もいるけれど、親友と呼べる人は数人だけと、高校生をとりまく人々に対する友情は相手によってしっかり区別されているようだ。なお、男女差をみると、「友人」の数にはあまり男女差はみられないが、「親友」と呼べる人の人数は、やや女子の方が少ない。

では、その友情の区別の基準はどのようなところにあるのだろうか。図4 - 6は、Q17で「どんなことができれば『親友』だと思うか」をたずねた結果、「とてもそう思う」という回答の割合の高かった順にまとめたものである。

高かった順に「相手に本当の自分を見せることができること」(71.5%)、「お互いに悩

みを話せること」(69.1%)、「気が合うこと」(68.8%)、「一緒にいて疲れないこと」(62.5%)、「相手の意見や行動を認めてあげること」(43.4%)、「本気でケンカができること」(35.7%)、「相手のために時間を割けること」(28.2%)となっている。

「相手に本当の自分を見せることができること」と「お互いに悩みを話せること」が高いのは、頼ったり頼られたりする関係として、親友が重要な存在であることをあらわしており、自分が見ていてほしい人にこそ見ていてほしいという気持ちのあらわれといえよう。一方で、「相手の意見や行動を認めてあげること」「本気でケンカができること」「相手のために時間を割けること」が「親友」の条件として高くなかったのは興味深い。相手に干渉したり干渉されたりするのは、「親友」の条件として重要でないと思われたというより、あくまで相対的な問題だが、頼ったり頼られたりすることと比べて、抵抗感が高い、許容度が低いということなのではないだろうか。

最後に男女差をみておこう。「親友」の条件は、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を足すと男女ほぼ同程度の割合になるが、図4 - 6でも明らかのように、「とてもそう思う」だけをみると男女差がはっきりしており、ほとんどの項目で女子の方が10ないし20ポイントほど高い。しかし、「相手のために時間を割けること」だけがわずかに男子の方が高くなっているのはどうしてだろうか。

図4 - 5 友人と親友の数

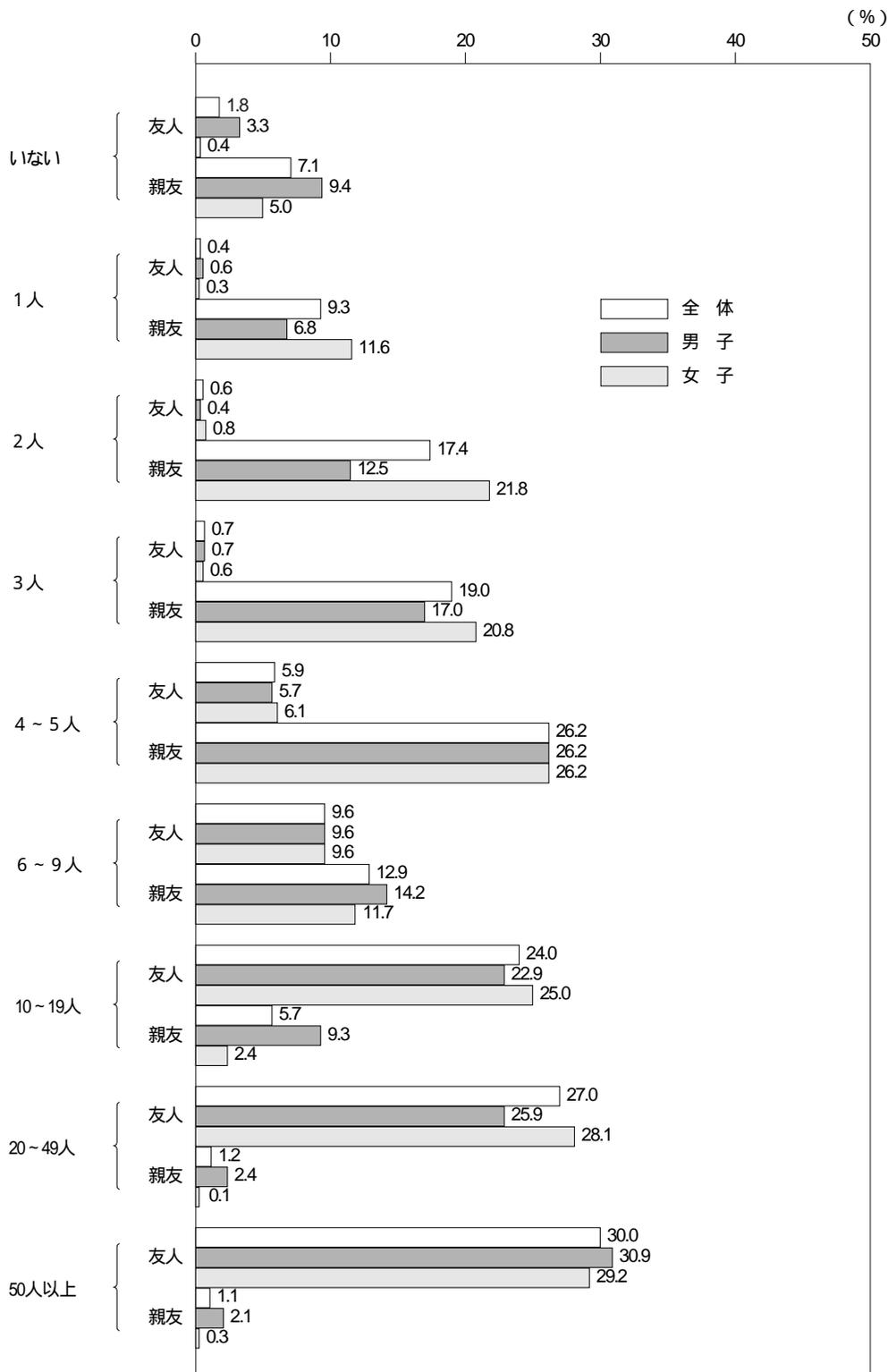
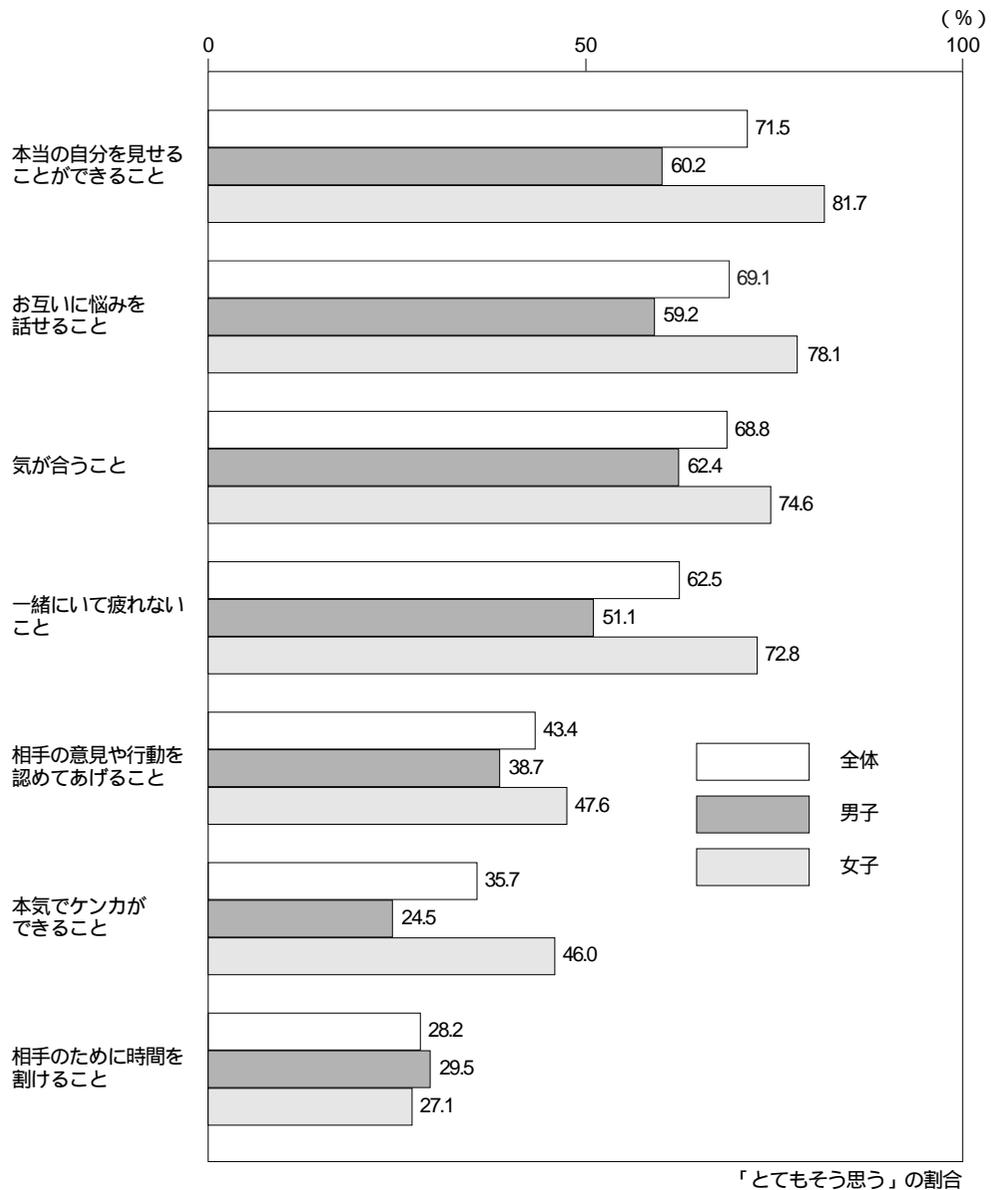


図4-6 どんなことができれば「親友」か



## 5 まとめ

---

以上、頼ったり頼られたりすること、干渉したり干渉されたりすることに焦点をあてて、高校生の人間関係について検討してきた。その結果、高校生をとりまくさまざまな人とは、その人との関係に応じて、場面場面で、頼ったり頼られたりしたいかどうか、干渉したり干渉されたりしてもかまわないかどうかを使い分けていることがわかった。また、親友についてより詳しく関係の持ち方をみたところ、頼ったり頼られたりすることより干渉したり干渉されたりすることへの抵抗感の方が高く、許容度が低いのではないかという考察結果を得た。

高校生の人間関係観は、相手に深く干渉することによって生じる面倒や責任と、孤独との間で揺れ動いているのではないだろうか。学校では優等生としての役割が、家庭ではよい子としての役割が求められ、高校生たちは器用にその役割を演じている。しかしそれにとどまらず、本来インフォーマルな関係であるはずの同世代の人との間でさえ役割を徹底し、相互にそれを要求しあっているのではないだろうか。相手に深く干渉したりされたりすることは役割の範疇を超えているし、そうしなくても、きっと彼らは十分うまく「イイ感じ」にやっていけるのだろう。

## 第5章 ||||

# 高校生の人との距離感

## 1 高校生と恥の文化

かつて日本の文化は「恥の文化」といわれ、他者からの視線が人々の行動を律するものとして重視されていた。しかしまたここ数年は、若者たちは他者とのコミュニケーションを欠くようになったともいわれ、ストリート、電車の中などで座ったり、ものを食べたりする若者たちが見られるようになった。このような現象は、若者のカルチャーの変化を示しているのだろうか？ この点について、高校生にさまざまな場面における恥意識について聞いてみた。

その結果が表5-1である。表にみられるように、現代の高校生にもそれなりに「恥の文化」が存在し、それは「場」でみると、全体的にほぼ「電車の中」>「道や広場」>「教室」の順で恥意識があるといえるだろう。この場合、「電車の中」の方が「道や広場」よりも恥意識がわくのは、人の密集度の違いではないかと思われる。また教室内は高校生同士なので、あまり恥意識がわかないようである。

次にそれぞれの場での「行動」についてみると、「とても恥ずかしい」のベストスリーが、

- ・電車の中では、①「座る」(51.2%)>②「靴下をはきかえる」(49.7%)>③「化粧をする」(42.3%)
- ・道や広場では、①「靴下をはきかえる」(38.6%)>②「化粧をする」(36.3%)>③「座る」(22.1%)
- ・教室では、①「化粧をする」(26.4%)>②「靴下をはきかえる」(10.7%)>③「座る」(7.8%)

の順になっており、それぞれの場での行動について、高校生なりの恥意識の違いがみられた。この場合、電車の床は「とても恥ずかしい」が51.2%であることにみられるように、「座ってはいけないところ」という意識が強いようである（筆者は部活動の帰りなどで、ジャージ姿で座っている生徒たちを見かけたことがあるが）、また教室で化粧をするのを友だちに見られること(26.4%)は、道や広

表5 - 1 恥の文化

(%)

		とても 恥ずかしい	やや 恥ずかしい	あまり 恥ずかしくない	ぜんぜん 恥ずかしくない
1. 休み時間に教室の床に座る	全 体	7.8	18.9	34.6	38.7
	男 子	7.1	16.1	31.4	45.5
	女 子	8.4	21.5	37.5	32.6
2. 休み時間に教室で靴下をはきかえる	全 体	10.7	30.0	29.8	29.4
	男 子	7.2	23.1	30.4	39.4
	女 子	13.9	36.1	29.3	20.6
3. 休み時間に教室で化粧をする	全 体	26.4	27.6	25.4	20.6
	男 子	28.8	21.1	23.0	27.1
	女 子	24.3	33.2	27.4	15.1
4. 休み時間に教室でものを食べる	全 体	3.2	9.0	26.7	61.1
	男 子	4.1	9.8	24.1	62.0
	女 子	2.4	8.3	29.0	60.3
5. 休み時間に教室でプライベートな話をする	全 体	3.7	21.9	33.2	41.2
	男 子	4.5	21.0	31.3	43.1
	女 子	2.9	22.7	34.9	39.5
6. 電車の床に座る	全 体	51.2	27.3	11.5	10.0
	男 子	41.1	28.8	14.4	15.7
	女 子	60.4	25.9	8.8	4.9
7. 電車の中で靴下をはきかえる	全 体	49.7	29.9	10.5	9.8
	男 子	40.3	33.1	12.4	14.1
	女 子	58.2	27.0	8.8	6.0
8. 電車の中で化粧をする	全 体	42.3	29.2	15.8	12.6
	男 子	42.7	25.0	15.7	16.6
	女 子	42.0	32.8	15.9	9.3
9. 電車の中でものを食べる	全 体	15.3	32.5	28.1	24.1
	男 子	17.3	28.5	25.4	28.9
	女 子	13.5	36.1	30.6	19.9
10. 電車の中でプライベートな話をする	全 体	10.1	25.7	35.5	28.7
	男 子	11.6	25.1	31.0	32.3
	女 子	8.7	26.3	39.5	25.5
11. 道や駅前の広場に座る	全 体	22.1	25.1	25.8	27.1
	男 子	19.0	23.5	22.0	35.5
	女 子	24.9	26.4	29.2	19.5
12. 道や駅前の広場で靴下をはきかえる	全 体	38.6	30.3	15.2	15.8
	男 子	31.1	30.6	16.5	21.8
	女 子	45.3	30.1	14.1	10.5
13. 道や駅前の広場で化粧をする	全 体	36.3	29.5	18.3	15.9
	男 子	35.0	26.5	17.0	21.4
	女 子	37.4	32.0	19.4	11.2
14. 道や駅前の広場でものを食べる	全 体	6.5	16.4	32.5	44.5
	男 子	6.4	12.7	29.7	51.2
	女 子	6.6	19.8	35.1	38.5
15. 道や駅前の広場でプライベートな話をする	全 体	6.8	17.3	35.9	40.0
	男 子	7.5	16.7	32.3	43.5
	女 子	6.1	17.8	39.2	36.8

場で座ること(22.1%)よりも恥ずかしいこと  
 のようである。なお、ものを食べたり(電車  
 の中15.3%、道や広場6.5%、教室3.2%)  
 プライベートな話をする(電車の中  
 10.1%、道や広場6.8%、教室3.7%)は、ど  
 のような場でも「とても恥ずかしい」と考  
 える高校生は少ないようであった。

また、これを性別でみると、やはり表5-  
 1にみられるように、ほとんどすべての項目

について、男子より女子の方が恥意識がある  
 ようであった。ただし、「休み時間の教室で  
 化粧をする」は女子より男子の方が恥意識が  
 ある(「とても恥ずかしい」が、男子  
 28.8% > 女子24.3%)。このことは、最近  
 はさまざまな化粧をする男子もみられるよ  
 うになったが、やはり化粧をするところを友だ  
 ちに見られることは相当に恥ずかしいことを示  
 しているといえるだろう。

## 2 高校生の許容する他者の行為

それでは次に、高校生がどのような他人の  
 行為を許容するのか、あるいはしないのかを  
 みることにしたい。

ここではゆるやかな許容も含めて、幅広く  
 「とてもそう」+「ややそう」についてみると、  
 表5-2に示されるように、逸脱的な『援助  
 交際』を本人の自由だと思う者は6割近く  
 (57.2%)いた。しかしまた、「万引きをしよ  
 うと(人のものを盗ろうと)思ったことがあ  
 る」(38.1%)、「通り魔などをする人の気持ち  
 が、わかるような気がする」(10.6%)など  
 への許容度はそれほど大きくない。また同性  
 愛の友だちを「いてもかまわない」とするの  
 は、47.5%であった。

また、外で一般的に接する他者に対する許  
 容については、「前の人々が切符を買うのにもた  
 もたしている、いらいらしてくる」(70.4%)  
 「子どもが道などで騒いでいるとムカつく」  
 (48.0%)など、場面によってはかなり他者  
 を許容しない傾向もみられた。

しかしまた、「お年寄りや身体の不自由な人  
 に席をゆずる」(76.2%)、「いじめられている

友だちを助けたことがある」(40.8%)など、  
 社会的弱者へ保護的にコミットしていく傾向  
 もみられる。

このように現代の高校生たちも、他者との  
 関係をまったく絶っているわけではなく、さ  
 まざまな人の行為を許容しなかったり、寛容  
 でなかったり、また人に保護的にコミットし  
 ていくなどの傾向もみられた。

また、これを性別にみると、「援助交際」  
 (男子60.9% > 女子54.0%)、万引き(男子  
 48.9% > 女子28.4%)、通り魔(男子16.9% >  
 女子5.0%)などについては男子の方が許容的  
 であったが、同性愛については女子の方が許  
 容的であった(男子37.4% < 女子56.5%)。

ところで高校生の他者への許容 不許容の  
 態度は、どのように形成されていくのだろうか？  
 E・H・エリクソンのアイデンティティ形成の理  
 論においては、「個人が他者との相互行為を通  
 じ、価値観や他者の役割(立場)を内面化し、  
 アイデンティティを形成する」とされている。

それではこのような点について、まず部活

表5 - 2 他者の行為への許容—不許容

(%)

		とても そう	やや そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. 前の人が切符を買うのにもたもたしている、いらいらしてくる	全 体	25.4	45.0	22.4	7.2
	男 子	30.0	39.1	22.4	8.5
	女 子	21.2	50.4	22.5	6.0
2. 子どもが道などで騒いでいるとムカつく	全 体	22.0	26.0	36.9	15.1
	男 子	26.9	22.8	36.3	14.0
	女 子	17.5	28.9	37.6	16.0
3. 通り魔などをする人の気持ちが、わかるような気がする	全 体	4.5	6.1	21.8	67.6
	男 子	7.5	9.4	28.1	55.0
	女 子	1.8	3.2	16.3	78.8
4. 「援助交際」をするのは本人の自由だと思う	全 体	21.8	35.4	23.7	19.1
	男 子	26.3	34.6	21.3	17.8
	女 子	17.8	36.2	25.8	20.3
5. 友だちに同性愛の人がいてもかまわない	全 体	19.8	27.7	28.1	24.4
	男 子	15.6	21.8	28.9	33.6
	女 子	23.5	33.0	27.4	16.1
6. お年寄りや身体の不自由な人に席をゆずる	全 体	29.1	47.1	20.2	3.6
	男 子	27.6	47.2	20.0	5.3
	女 子	30.5	47.1	20.3	2.2
7. いじめられている友だちを助けたことがある	全 体	14.0	26.8	40.3	19.0
	男 子	13.7	27.9	40.1	18.3
	女 子	14.2	25.8	40.4	19.6
8. 万引きをしようと(人のものを盗ろうと)思ったことがある	全 体	16.6	21.5	23.5	38.4
	男 子	22.7	26.2	23.4	27.7
	女 子	11.1	17.3	23.6	48.0

動との関係のみてみよう。表5 - 3にみられるように、他者の逸脱的な行為について、「援助交際」は、運動部で「あまり熱心に活動していない」者(62.6%)は許容するが、文化部で「あまり熱心に活動していない」者(52.0%)は許容しないというように、あまり部活動との関係がはっきりとみられない。しかし万引きについては、部活動に「以前入っていた」者(45.4%)が比較的許容するのに対し、文化部に入っている、特に「熱心に活動している」者(19.8%)は許容していない。また、「あまり熱心に活動していない」者(31.7%)も、許容する者が少なかった。また通り魔についても、「その他」の者(18.2%)が比較的許容するのに対し、文化部に入っている高校生は、「熱心に活動している」者(6.2%)、「あまり熱心に活動していない」者(6.5%)とともに、許容する者が少なかった。このように、逸脱的な行為について、特に文化部の活動において、許容しない態度を形成する傾向がみられた。

なお同性愛については、文化部の「熱心に活動している」者(56.8%)、「あまり熱心に活動していない」者(62.6%)、「その他」(63.6%)で許容する者が多かったが、運動部は「熱心に活動している」者(38.6%)、「あまり熱心に活動していない」者(37.4%)とも、許容しない者の方が多かった。このような同性愛に対する態度の違いは、文化部と運動部における相互行為によって、いわゆる文化部的、運動部(体育会)的な態度が形成されていったためと思われる。

次に、外で一般的に接する他者に対する寛容については、「前の人が切符を買うのにもたもたしていると、いらいらしてくる」は、「文化部に入って熱心に活動している」者

(58.0%)に少なかった。また「子どもが道などで騒いでいるとムカつく」については、部活動に「入ったことがない」者(57.0%)は多かったが、「運動部に入って熱心に活動している」者(43.8%)、「文化部に入って熱心に活動している」者(42.0%)、そして「その他」(39.4%)に少なかった。このように、外で一般的に接する他者に対する寛容は、やはり部活動による相互行為により形成される側面があるようであった。

最後に人へ保護的にコミットしていく傾向については、「お年寄りや身体の不自由な人に席をゆずる」は、「文化部に入って熱心に活動している」者(81.3%)に多く、部活動に「入ったことがない」者(70.3%)に少なかった。また、「いじめられている友だちを助けたことがある」は、「運動部に入って熱心に活動している」者(45.2%)が最も多かったが、運動部で「あまり熱心に活動していない」者(35.8%)、文化部で「あまり熱心に活動していない」者(35.0%)、「その他」(36.4%)に少なかった。

このように、高校生は部活動の体験によって、他者の逸脱的な行為に対する不許容、一般的に接する他者への寛容、そして他者への保護的なコミットメントを形成していく側面があるようであった。

また友人関係については、「仲のよい友人グループ」がある場合、特に人へ保護的にコミットしていく傾向について、「お年寄りや身体の不自由な人に席をゆずる」(友人グループある77.1% > ない67.6%)、「いじめられている友だちを助けたことがある」(友人グループある41.5% > ない30.5%)が増加する傾向がみられた。

表5 - 3 部活動体験と他者への許容

(%)

	運動部 熱心	運動部 不熱心	文化部 熱心	文化部 不熱心	以前 入っていた	入ったこと がない	その他
1. 前の人切符を買うのにもたもたしていると、いらいらしてくる	70.8	74.0	58.0	68.3	71.8	73.5	69.7
2. 子どもが道などで騒いでいるとムカつく	43.8	47.2	42.0	50.4	46.4	57.0	39.4
3. 通り魔などをする人の気持ちが、わかるような気がする	12.5	7.3	6.2	6.5	10.4	12.2	18.2
4. 「援助交際」をするのは本人の自由だと思う	57.6	62.6	53.7	52.0	57.7	57.4	57.4
5. 友だちに同性愛の人がいてもかまわない	38.6	37.4	56.8	62.6	48.6	48.2	63.6
6. お年寄りや身体の不自由な人に席をゆずる	79.3	73.0	81.3	77.9	75.9	70.3	78.8
7. いじめられている友だちを助けたことがある	45.2	35.8	40.4	35.0	42.0	38.5	36.4
8. 万引きをしようと(人のものを盗ろうと)思ったことがある	42.2	42.3	19.8	31.7	45.4	35.2	39.4

「とても」+「やや」その割合  
は平均との比較で、多い( ) 少ない( ) を表す

### 3 現代のコミュニケーションツール

ここ数年、高校生たちがポケベル、PHS、携帯電話などを使うようになり、このようなコミュニケーションツールが彼らの人間関係に影響を与えたといわれている。

この点について、今回の調査で高校生のコミュニケーションツールの所持率をみると、PHSが27.9%、ポケベルが9.7%、携帯電話が6.6%となっていた。

次に、これらのコミュニケーションツール

による人間関係の変化をみると、表5 - 4に示されるように、「とてもそう」+「ややそう」をみると、「これらを持って友だちとの関係が深まった」が79.7%もあり、また「これらを持って友だちが増えた」も73.8%あった。「用もないのに連絡をする」(58.0%)、「誰にでも気軽に番号を教える」(56.3%)もそれぞれ6割近くあった。このようにこれらのコミュニケーションツールは、かなり多様

表5 - 4 コミュニケーションツール(携帯電話・PHS・ポケベル)の使われ方

(%)

		とても そう	やや そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. これらを持って友だちが増えた	全 体	32.1	41.7	18.9	7.3
	男 子	30.5	41.7	17.3	10.5
	女 子	33.3	41.6	20.0	5.1
2. これらを持って友だちとの関係が深まった	全 体	38.7	41.0	15.3	5.0
	男 子	34.6	42.1	16.9	6.4
	女 子	41.6	40.3	14.1	4.0
3. 用もないのに連絡をする	全 体	23.2	34.8	29.3	12.6
	男 子	16.5	35.0	33.1	15.4
	女 子	28.0	34.7	26.7	10.7
4. 誰にでも気軽に番号を教える	全 体	20.7	35.6	31.0	12.6
	男 子	22.6	34.2	29.3	13.9
	女 子	19.5	36.5	32.3	11.7

な使われ方をされているようであった。

次に、これらの多様な使われ方の関係をみると、それは表5 - 5のようになる(表に示される数値は相関係数といい、-1から1までの範囲で、数値が大きいほど関係が強いことを示す)。この表に示されるように、コミュニケーションツールによって「友だちが増えた」高校生は、友だちとの関係も深まった傾向が強くみられた(相関係数0.716) また「友だちとの関係が深まった」高校生は、コミュニケーションツールにより「用もないのに連絡をする」傾向がみられた(相関係数0.364)。そして「用もないのに連絡をする」高校生は、「誰にでも気軽に番号を教える」

傾向がみられた(相関係数0.393)。このようにコミュニケーションツールの使われ方にはそれぞれ関係がみられたが、「友だちが増えた」ことと「用もないのに連絡をする」「誰にでも気軽に番号を教える」こと、また「友だちとの関係が深まった」ことと「誰にでも気軽に番号を教える」こととの間には、強い関係はみられなかった。

また性別にみると、「友だちとの関係が深まった」(男子76.7% < 女子81.9%) 「用もないのに連絡をする」(男子51.5% < 女子62.7%) と女子の方が多く、やはり女子の方がコミュニケーションツールを活用しているようであった。

表5 - 5 コミュニケーションツール(携帯電話・PHS・ポケベル)の使われ方

	これらを持って友だちが増えた	これらを持って友だちとの関係が深まった	用もないのに連絡をする	誰にでも気軽に番号を教える
1. これらを持って友だちが増えた				
2. これらを持って友だちとの関係が深まった	0.716			
3. 用もないのに連絡をする	0.260	0.364		
4. 誰にでも気軽に番号を教える	0.295	0.299	0.393	

(すべて、1%水準で有意)

○でかこんだ数値は、0.3以上のもの

## 4 高校生の落ち着くところ

最後に高校生に一番落ち着くところを聞くと、表5 - 6にみられるように、「部屋で1人有的时候き」が51.9%と約5割で、続いて「外で友だちといるとき」(18.8%)、「家で家族といるとき」(16.1%)という結果が得ら

れている。このように、高校生たちにとって何よりも落ち着くところは「部屋で1人有的时候き」で、次に友だち、家族志向が続いていた。そして、「外で1人有的时候き」(2.6%)、「外で人込みなどにいるとき」

表5 - 6 一番落ち着くところ

(%)

	全 体	性 別	
		男 子	女 子
1. 部屋で1人有的时候き	51.9	53.2	50.8
2. 家で家族といるとき	16.1	10.3	21.3
3. 外で1人有的时候き	2.6	3.6	1.7
4. 外で人込みなどにいるとき	0.7	1.3	0.1
5. 外で友だちといるとき	18.8	20.6	17.2
6. その他	9.9	11.0	8.9

表5 - 7 自己拡散因子と落ち着くところ(1)

(%)

	「自分がどんな人間かわからなくなるときがある」			
	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
1. 部屋で1人有的时候き	26.8	37.7	27.6	7.9
2. 家で家族といるとき	20.0	38.8	31.7	9.6
3. 外で1人有的时候き	43.6	38.5	17.9	0.0
4. 外で人込みなどにいるとき	10.0	50.0	30.0	10.0
5. 外で友だちといるとき	28.5	35.4	29.2	6.9
6. その他	34.2	32.9	23.3	9.6

(0.7%) など、外で人と交わらないところでは非常に少なかった。

ところでこのような志向は、アイデンティティとどのような関係があるのだろうか？  
アイデンティティが形成されていないと人と交わることを躊躇し、友だち志向や家族志向が弱まるのだろうか、あるいはそれらには特に関係がないのだろうか？ この点について、第3章でみた自己拡散因子と関係をもつ質問(Q19の「3.自分がどんな人間かわからな

くなるときがある」「4.相手や場面によって出てくる自分というものは違う」「9.今の自分は『本当の自分』ではない)を用いて、調べてみることにしたい。

アイデンティティの自己拡散因子と一番落ち着くところとの関係をみると、それは表5-7、表5-8、表5-9のようになる。「とてもそう思う」+「まあそう思う」でみると、「自分がどんな人間かわからなくなるときがある」という高校生は、表5-7にみ

表5-8 自己拡散因子と落ち着くところ(2)

(%)

	「相手や場面によって出てくる自分というものは違う」			
	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
1. 部屋で1人有的时候	32.9	47.8	15.2	4.2
2. 家で家族といるとき	24.7	51.5	21.3	2.5
3. 外で1人有的时候	39.5	39.5	15.8	5.3
4. 外で人込みなどにいるとき	50.0	40.0	10.0	0.0
5. 外で友だちといるとき	30.0	44.0	22.0	4.0
6. その他	30.8	43.8	18.5	6.8

表5-9 自己拡散因子と落ち着くところ(3)

(%)

	「今の自分は『本当の自分』ではない」			
	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
1. 部屋で1人有的时候	11.5	22.4	46.3	19.8
2. 家で家族といるとき	10.4	18.8	49.6	21.3
3. 外で1人有的时候	20.5	25.6	48.7	5.1
4. 外で人込みなどにいるとき	11.1	22.2	44.4	22.2
5. 外で友だちといるとき	11.3	18.5	47.6	22.5
6. その他	17.8	23.3	33.6	25.3

られるように、一番落ち着くところが「外で1人にいるとき」(82.1%)という者が多く、「外で人込みなどにいるとき」(60.0%)、「家で家族といるとき」(58.8%)に少なかった。また「相手や場面によって出てくる自分というものは違う」という高校生は、表5-8にみられるように、一番落ち着くところが「人込みなどにいるとき」(90.0%)という者が多く、「外で友だちといるとき」(74.0%)が少なかった。そして「今の自分は『本当の自分』ではない」という高校生は、表5-9にみられるように、一番落ち着くところが「外で1人にいるとき」(46.1%)、「その他」(41.1%)の者が多く、「家で家族といるとき」

(29.2%)が少なかった。

このようにアイデンティティが自己拡散的な高校生は、人と交わることを好まず、「外で1人にいるとき」などが一番心が落ち着く傾向がみられた。また、逆に自己拡散的でない高校生は、家族志向など、人と交わろうとする傾向がみられた。そして「部屋で1人にいるとき」が最も落ち着く高校生は、特に自己拡散との関係はみられなかった。

なお、一番落ち着くところを性別にみると(表5-6)「家で家族といるとき」が女子に多く(男子10.3% < 女子21.3%)、女子に家族志向が強かった。

# まとめ

## 高校生という問題

この号では、主に若い20代の筆者たちが、「高校生の他者感覚」についてさまざまな関心から分析している。ところで、高校生に限らないが、若者について人間関係の希薄化がいわれ、またそれはコミュニケーション不全、摩擦回避、山アラシジレンマなどと否定的にとらえられることが多い。また希薄化による影響として、アイデンティティの未発達、規範意識の低下などもあげられている。

確かにある枠組みをもって対象をみるのが分析の基本であり、現在の高校生をたとえば過去と比較して、「人間関係が希薄である」などと明らかにすることはそれなりに意味があることである。しかし、一人一人の高校生は一回限りの高校生活を生きているのであり、なによりも彼・彼女らには希薄といわれるときに比較の対象となるような、希薄でない人間関係の体験がないのである。

したがって、この調査では大きな枠組みで対象を「批判」することよりも、「友人」関係に「熱い」関係を求める傾向（2章）、状況適応型社交タイプ、柔軟関係タイプという、広くかつ必ずしも表層的でない友人関係の存在（3章）、頼ったり頼られたりする関係や、干渉したり干渉されたりする関係における使い分け（4章）、そして現在の高校生なりの

恥の文化、他者の行為への許容 不許容などの、一人一人の高校生がそれぞれの人間関係のネットワークの中で自分の居場所を模索している実体を明らかにしようとしている。

さまざまなコミュニケーションツールの存在にも示されるように、根本的には工業社会から脱工業社会への進展の中で、今後は人間関係が希薄化しても生活できる社会になっていくと思われる。そして、それに伴う若者現象は、前述したようにしばしば批判的に扱われるが、しかしそれは、

<強い人間関係 強いアイデンティティ 共通の目標・価値があり、人と人とのきずなど人への強制が求められる社会>

から、

<弱い人間関係 やわらかいアイデンティティ 目標・価値の多様化があり、さびしさと自由が求められる社会>

への移行の問題であり、両方によい面があり、また極端になると問題が出てくるのではないかと思う。青少年にかかわる言説は、しばしば極端な新しい現象ばかりが目される傾向があるが、<広い 狭い> <よい 悪い>などの枠組みでは必ずしもとらえきれない現在の高校生なりの他者感覚の存在に、まずつきあう必要があるのではないかと思う。

---

## アンケートのお願い

---

このアンケートは、高校生の皆さんが人間関係についてどのように考えているかをお聞きするために作成したものです。あなたの大切な時間をいただいて申しわけありませんが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

(お名前は入りませんので、ありのままをお答えください)

高校教育研究会

尚美学園短期大学教授 深谷 昌志

上智大学教授 武内 清

明治学院大学教授 望月 重信

((回答のしかた)) 特にことわりのない場合は、あてはまる数字に1つだけ をつけてください。

## 資料1 調査票見本

① まず、あなたの学校・学年・性別についておたずねします。

- 1) 学校名……………(                    )高等学校  
 2) 学 年……………( 1 . 1年      2 . 2年      3 . 3年 ) < でかこむ >  
 3) 性 別……………( 1 . 男子      2 . 女子 ) < でかこむ >

② あなたは部活動をしていますか。

- 1 . 運動部に入って熱心に活動している  
 2 . 運動部に入っているが、あまり熱心に活動していない  
 3 . 文化部に入って熱心に活動している  
 4 . 文化部に入っているが、あまり熱心に活動していない  
 5 . 以前入っていたが、今は参加していない  
 6 . 入ったことがない  
 7 . その他

③ あなたは、部活動を週に何回やっていますか。

(        )回

④ きょうだいについておたずねします。

- 1) あなたのきょうだいは(自分を入れて)何人いますか。  
 (        )人  
 2) そのうち、あなたは上から何番目ですか。  
 (        )番目

⑤ あなたは現在、アルバイトをしていますか。

- 1 . はい      2 . いいえ

⑥ それでは、現在までにアルバイトをしたことがありますか。

- 1 . ある      2 . ない

- 7 あなたが希望する卒業後の進路は、次のどれですか。  
1つだけ選んで をつけてください。

1. 就職
2. 家業・家の手伝い
3. 各種学校・専修学校
4. 短期大学
5. ふつうの4年制大学
6. むずかしい4年制大学
7. その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )
8. まだ決めていない

これから、あなたの人間関係についておたずねします。

- 8 あなたの「友人」についておたずねします。  
あなたには「友人」が何人いますか。あてはまる番号1つに をつけてください。

1人	2人	3人	4~5人	6~9人	10~19人	20~49人	50人以上	いない
1	2	3	4	5	6	7	8	9

- 9 あなたの「友人」とのつきあいは、どのようなものですか。

- |  | だいたい<br>そう | まあ<br>そう | あまり<br>そうでない | まったく<br>そうでない |
|--|------------|----------|--------------|---------------|
| 1. 友人というより、1人である方が気持ちが<br>落ち着く……………        | 1          | 2        | 3            | 4             |
| 2. 浅く広くより、1人の友人との深いつきあいの<br>方を大事にしている…………… | 1          | 2        | 3            | 4             |
| 3. 少数の友人より、多方面の友人といろいろ交流<br>する方だ……………      | 1          | 2        | 3            | 4             |
| 4. 友人関係はあっさりしていて、お互いに深入り<br>しない……………       | 1          | 2        | 3            | 4             |
| 5. いろいろな友人とつきあいがあり、それぞれ<br>話す内容は違う……………    | 1          | 2        | 3            | 4             |
| 6. あることがらについて、我を忘れ熱中して友人<br>と話すことがある……………  | 1          | 2        | 3            | 4             |
| 7. 友人と一緒にいても、別々のことをしている<br>ことがある……………      | 1          | 2        | 3            | 4             |
| 8. 友人になったら、その関係は長く続く方だ……………                | 1          | 2        | 3            | 4             |

## 資料1 調査票見本

10) あなたには、よくつきあっている「仲のよい友人グループ」がありますか。

1. ある      2. ない

「ある」と回答した人におたずねします。

S Q 1) その「仲のよい友人グループ」はいくつありますか。

1. 1つ      2. 2つ      3. 3つ以上

S Q 2) あなたの「仲のよい友人グループ」は、どういう人たちの集まりですか。

次の中からあてはまるもの1つに をつけてください。

(2つ以上ある場合は、一番「仲のよい友人グループ」について答えてください)

1. クラスの友人
2. 部・課外活動の友人
3. 同じ学校(クラス・部・課外活動以外)の友人
4. 以前の学校の友人
5. その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

S Q 3) あなたが所属している「仲のよい友人グループ」の人数は、あなたも入れて何人くらいですか。(2つ以上ある場合は、一番「仲のよい友人グループ」について答えてください)

2人	3~5人	6~9人	10人以上	決まっていない
1	2	3	4	5

11) あなたは「仲のよい友人」や「仲のよい友人グループ」と、次のような話題についてどのくらい話しますか。

- |                         | かなり<br>する | ときどき<br>する | あまり<br>しない | まったく<br>しない |
|-------------------------|-----------|------------|------------|-------------|
| 1. 勉強の話 .....           | 1         | 2          | 3          | 4           |
| 2. テレビの話 .....          | 1         | 2          | 3          | 4           |
| 3. 世の中の出来事や社会問題の話 ..... | 1         | 2          | 3          | 4           |
| 4. マンガ・雑誌の話 .....       | 1         | 2          | 3          | 4           |
| 5. 趣味の話 .....           | 1         | 2          | 3          | 4           |
| 6. 異性の話 .....           | 1         | 2          | 3          | 4           |
| 7. 将来や進路の話 .....        | 1         | 2          | 3          | 4           |

- |                                       |   | かなり<br>する |   | ときどき<br>する |   | あまり<br>しない |   | まったく<br>しない |
|---------------------------------------|---|-----------|---|------------|---|------------|---|-------------|
| 8. 個人的な悩み .....                       | 1 | —         | 2 | —          | 3 | —          | 4 |             |
| 9. お互いの家族の話 .....                     | 1 | —         | 2 | —          | 3 | —          | 4 |             |
| 10. その他 ( 1 ~ 9以外でかなり話題になるもの )<br>( ) |   |           |   |            |   |            |   |             |

12 あなたの「仲のよい友人」や「仲のよい友人グループ」でのつきあいについておたずねします。次のようなことはどれくらいありますか。

- |  |   | よく<br>ある |   | ときどき<br>ある |   | あまり<br>ない |   | まったく<br>ない |
|--|---|----------|---|------------|---|-----------|---|------------|
| 1. 放課後や休日にも会う .....                    | 1 | —        | 2 | —          | 3 | —         | 4 |            |
| 2. お互いの家を行き来する .....                   | 1 | —        | 2 | —          | 3 | —         | 4 |            |
| 3. ポケベルで連絡したり、電話で話をしたりする .....         | 1 | —        | 2 | —          | 3 | —         | 4 |            |
| 4. お金の貸し借りをする .....                    | 1 | —        | 2 | —          | 3 | —         | 4 |            |
| 5. ノート、マンガ、雑誌、CDなど、物の貸し借り<br>をする ..... | 1 | —        | 2 | —          | 3 | —         | 4 |            |
| 6. ケンカや仲間割れをする .....                   | 1 | —        | 2 | —          | 3 | —         | 4 |            |

13 あなたの現在の気持ちについておたずねします。  
次の人たちについて、あなたはどの程度親しみを感じていますか。

- |                   |   | とても<br>親しみが<br>ある |   | やや<br>親しみが<br>ある |   | あまり<br>親しみが<br>ない |   | まったく<br>親しみが<br>ない |   | そのよう<br>な人は<br>いない |
|-------------------|---|-------------------|---|------------------|---|-------------------|---|--------------------|---|--------------------|
| 1. お母さん .....     | 1 | —                 | 2 | —                | 3 | —                 | 4 | —                  | 5 |                    |
| 2. お父さん .....     | 1 | —                 | 2 | —                | 3 | —                 | 4 | —                  | 5 |                    |
| 3. きょうだい .....    | 1 | —                 | 2 | —                | 3 | —                 | 4 | —                  | 5 |                    |
| 4. 親戚の人 .....     | 1 | —                 | 2 | —                | 3 | —                 | 4 | —                  | 5 |                    |
| 5. 同級生 .....      | 1 | —                 | 2 | —                | 3 | —                 | 4 |                    |   |                    |
| 6. つきあっている人 ..... | 1 | —                 | 2 | —                | 3 | —                 | 4 | —                  | 5 |                    |
| 7. 友人グループ .....   | 1 | —                 | 2 | —                | 3 | —                 | 4 | —                  | 5 |                    |
| 8. 高校の先輩 .....    | 1 | —                 | 2 | —                | 3 | —                 | 4 | —                  | 5 |                    |
| 9. 高校の後輩 .....    | 1 | —                 | 2 | —                | 3 | —                 | 4 | —                  | 5 |                    |
| 10. 担任の先生 .....   | 1 | —                 | 2 | —                | 3 | —                 | 4 |                    |   |                    |
| 11. 近所の知り合い ..... | 1 | —                 | 2 | —                | 3 | —                 | 4 | —                  | 5 |                    |

## 資料1 調査票見本

14 それでは、あなたは今後、次の人たちとどのようにしたいと考えていますか。

- |             | もっと<br>親しくしたい | このままで<br>よい | もっと距離を<br>おきたい | そのような<br>人はいない |
|-------------|---------------|-------------|----------------|----------------|
| 1. お母さん     | 1             | 2           | 3              | 4              |
| 2. お父さん     | 1             | 2           | 3              | 4              |
| 3. きょうだい    | 1             | 2           | 3              | 4              |
| 4. 親戚の人     | 1             | 2           | 3              | 4              |
| 5. 同級生      | 1             | 2           | 3              |                |
| 6. つきあっている人 | 1             | 2           | 3              | 4              |
| 7. 友人グループ   | 1             | 2           | 3              | 4              |
| 8. 高校の先輩    | 1             | 2           | 3              | 4              |
| 9. 高校の後輩    | 1             | 2           | 3              | 4              |
| 10. 担任の先生   | 1             | 2           | 3              |                |
| 11. 近所の知り合い | 1             | 2           | 3              | 4              |

15 あなたは、次の人たちがあなたのことをどの程度わかっていると思いますか。

- |             | 非常にわかって<br>くれている | まあわかって<br>くれている | あまりわかって<br>くれていない | まったくわかって<br>くれていない | そのような<br>人はいない |
|-------------|------------------|-----------------|-------------------|--------------------|----------------|
| 1. お母さん     | 1                | 2               | 3                 | 4                  | 5              |
| 2. お父さん     | 1                | 2               | 3                 | 4                  | 5              |
| 3. きょうだい    | 1                | 2               | 3                 | 4                  | 5              |
| 4. 親戚の人     | 1                | 2               | 3                 | 4                  | 5              |
| 5. 同級生      | 1                | 2               | 3                 | 4                  |                |
| 6. つきあっている人 | 1                | 2               | 3                 | 4                  | 5              |
| 7. 友人グループ   | 1                | 2               | 3                 | 4                  | 5              |
| 8. 高校の先輩    | 1                | 2               | 3                 | 4                  | 5              |
| 9. 高校の後輩    | 1                | 2               | 3                 | 4                  | 5              |
| 10. 担任の先生   | 1                | 2               | 3                 | 4                  |                |
| 11. 近所の知り合い | 1                | 2               | 3                 | 4                  | 5              |

- 16 あなたの「親友」についておたずねします。  
あなたには「親友」と呼べる人が何人いますか。あてはまる番号1つに をつけてください。

1人          2人          3人          4~5人          6~9人          10~19人          20~49人          50人以上          いない  
1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5 ——— 6 ——— 7 ——— 8 ——— 9

- 17 あなたはどんなことができれば、「親友」だと思いますか。

	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
1. お互いに悩みを話せること .....	1	2	3	4
2. 本気でケンカができること .....	1	2	3	4
3. 気が合うこと .....	1	2	3	4
4. 一緒にいて疲れないこと .....	1	2	3	4
5. 相手のために時間を割けること .....	1	2	3	4
6. 相手の意見や行動を認めてあげること .....	1	2	3	4
7. 相手に本当の自分を見せることができる .....	1	2	3	4
こと				

- 18 あなた自身のことについておたずねします。  
次のようなことがらについて、あてはまる番号に をつけてください。

	とても そう	やや そう	あまり そうでない	まったく そうでない
1. 人助けがちゅうちょなくできる .....	1	2	3	4
2. 人の非難をしだすと止まらなくなる .....	1	2	3	4
3. 人が失敗すると、つい笑ってしまう .....	1	2	3	4
4. 人に言ったら悪いと思うことは言わない .....	1	2	3	4
5. 人のいいところはほめる .....	1	2	3	4
6. 人の親切を喜んで受け入れる .....	1	2	3	4
7. 自分より立場の弱い人を助けたい .....	1	2	3	4
8. 人に自分の短所を直接言われたくない .....	1	2	3	4

## 資料1 調査票見本

## ① 「自分らしさ」などについてお聞きします。

次のようなことがらについて、あなたはどのように思いますか。

- |  | とても<br>そう思う | まあ<br>そう思う | あまり<br>そう思わない | ぜんぜん<br>そう思わない |
|--|-------------|------------|---------------|----------------|
| 1. 自分には自分らしさというものがある ……………               | 1           | — 2        | — 3           | — 4            |
| 2. ファッションは自分らしさを表現するものだ ………              | 1           | — 2        | — 3           | — 4            |
| 3. 自分がどんな人間かわからなくなるときがある ……              | 1           | — 2        | — 3           | — 4            |
| 4. 相手や場面によって出てくる自分というものは違う ……            | 1           | — 2        | — 3           | — 4            |
| 5. 相手や場面によって態度や考え方が変わる人は<br>信用できない …………… | 1           | — 2        | — 3           | — 4            |
| 6. 今の自分が好きだ ……………                        | 1           | — 2        | — 3           | — 4            |
| 7. どんな場面でも自分らしさを貫くのが大切だ ………              | 1           | — 2        | — 3           | — 4            |
| 8. 昨日までの自分と今の自分は違う……………                  | 1           | — 2        | — 3           | — 4            |
| 9. 今の自分は「本当の自分」ではない ……………                | 1           | — 2        | — 3           | — 4            |
| 10. 「本当の自分」なんて、どこにもないと思う……………            | 1           | — 2        | — 3           | — 4            |

## ② あなたは日頃、次のようなことがらがどの程度あてはまりますか。

- |  | よく<br>ある | ときどき<br>ある | あまり<br>ない | まった<br>くない |
|--|----------|------------|-----------|------------|
| 1. 自分が一人ぼっちのようで、不安になること<br>がある ……………       | 1        | — 2        | — 3       | — 4        |
| 2. 自分の居場所がないように感じられることが<br>ある ……………        | 1        | — 2        | — 3       | — 4        |
| 3. 今の生活がむなしく感じられることがある ………                 | 1        | — 2        | — 3       | — 4        |
| 4. 何かを決めなければならないとき、<br>決められずに困ることがある …………… | 1        | — 2        | — 3       | — 4        |
| 5. 物事を感覚的に決めることがある ……………                   | 1        | — 2        | — 3       | — 4        |
| 6. 自分の感情をコントロールできなくなる<br>ときがある ……………       | 1        | — 2        | — 3       | — 4        |
| 7. 自分が何をしたいのかわからなくなるときがある ……               | 1        | — 2        | — 3       | — 4        |
| 8. まじめに勉強するのがいやになるときがある ………                | 1        | — 2        | — 3       | — 4        |
| 9. 自分の将来を考えて不安になるときがある……………                | 1        | — 2        | — 3       | — 4        |
| 10. 自分の体が自分のものでないような気がする……………              | 1        | — 2        | — 3       | — 4        |
| 11. 自分の口臭や体臭が気になる ……………                    | 1        | — 2        | — 3       | — 4        |

21 あなたは次のようなことを誰と話したいですか。□の中の①～⑨のうち、一番話したい人から順に2人選んで( )の中に番号を書いてください。

- |                         |         |           |
|-------------------------|---------|-----------|
|                         | 一番話したい人 | 二番目に話したい人 |
| 1. 学校での出来事について ……………    | ( )     | ( )       |
| 2. クラブ活動について ……………      | ( )     | ( )       |
| 3. つきあっている人や好きな人について …… | ( )     | ( )       |
| 4. 自分の成績や進路について ……………   | ( )     | ( )       |
| 5. 社会の出来事について ……………     | ( )     | ( )       |

- ①両親      ②きょうだい      ③つきあっている人(好きな人)  
 ④親友      ⑤同級生      ⑥高校の先輩や後輩      ⑦学校の先生  
 ⑧保健室の先生やカウンセラー      ⑨塾や予備校の先生

22 それでは、あなたは次のようなことをするとき誰を頼りにしたいと思いますか。□の中の①～⑨のうち、一番頼りにしたい人から順に2人選んで( )の中に番号を書いてください。

- |                                      |           |             |
|--------------------------------------|-----------|-------------|
|                                      | 一番頼りにしたい人 | 二番目に頼りにしたい人 |
| 1. 気軽におしゃべりをしたり、<br>気晴らしをしたりする …………… | ( )       | ( )         |
| 2. 個人的な悩み事を相談する ……………                | ( )       | ( )         |
| 3. 勉強や進路のことを相談する ……………               | ( )       | ( )         |
| 4. 好きな人のことについて相談する ……………             | ( )       | ( )         |

- ①両親      ②きょうだい      ③つきあっている人(好きな人)  
 ④親友      ⑤同級生      ⑥高校の先輩や後輩      ⑦学校の先生  
 ⑧保健室の先生やカウンセラー      ⑨塾や予備校の先生

23 次のような人たちが、あなたの成績や将来の進路について口出ししてきたとしたら、あなたはどのように感じると思いますか。

- |                         |                     |                       |                         |                      |                |
|-------------------------|---------------------|-----------------------|-------------------------|----------------------|----------------|
|                         | 素直に<br>聞き入れる<br>だろう | 聞くだけは<br>聞いておく<br>だろう | 聞きたくない<br>不満を感じる<br>だろう | まったく<br>気にしない<br>だろう | そのような<br>人はいない |
| 1. きょうだい ……………          | 1                   | — 2                   | — 3                     | — 4                  | …… 5           |
| 2. つきあっている人(好きな人) …………… | 1                   | — 2                   | — 3                     | — 4                  | …… 5           |
| 3. 親友 ……………             | 1                   | — 2                   | — 3                     | — 4                  | …… 5           |
| 4. 同級生 ……………            | 1                   | — 2                   | — 3                     | — 4                  |                |

資料1 調査票見本

- |  |                     |                       |                         |                      |                |
|--|---------------------|-----------------------|-------------------------|----------------------|----------------|
|  | 素直に<br>聞き入れる<br>だろう | 聞くだけは<br>聞いておく<br>だろう | 聞きたくない<br>不満を感じる<br>だろう | まったく<br>気にしない<br>だろう | そのような<br>人はいない |
|--|---------------------|-----------------------|-------------------------|----------------------|----------------|
5. 高校の先輩や後輩 ..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5
6. 高校以外の友人（アルバイトや  
塾で知り合った友人）..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5
7. 中学時代の友人 ..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5

24 次のような人たちが、あなたの顔つきや体つきについて口出ししてきたとしたら、あなたはどのように感じますか。

- |  |                     |                       |                         |                      |                |
|--|---------------------|-----------------------|-------------------------|----------------------|----------------|
|  | 素直に<br>聞き入れる<br>だろう | 聞くだけは<br>聞いておく<br>だろう | 聞きたくない<br>不満を感じる<br>だろう | まったく<br>気にしない<br>だろう | そのような<br>人はいない |
|--|---------------------|-----------------------|-------------------------|----------------------|----------------|
1. きょうだい ..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5
2. つきあっている人（好きな人）..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5
3. 親友 ..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5
4. 同級生 ..... 1 — 2 — 3 — 4
5. 高校の先輩や後輩 ..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5
6. 高校以外の友人（アルバイトや  
塾で知り合った友人）..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5
7. 中学時代の友人 ..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5

25 次のような人たちが、今、お金のかかるようなことで困っているとします。そのとき、あなたはどのように思いますか。

- |  |                        |                  |                   |                   |                |
|--|------------------------|------------------|-------------------|-------------------|----------------|
|  | 自分のできる範囲で<br>お金を貸してあげる | 親身になって<br>相談を受ける | 話を聞くだけは<br>聞いてあげる | あまり干渉しない<br>ようにする | そのような<br>人はいない |
|--|------------------------|------------------|-------------------|-------------------|----------------|
1. きょうだい ..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5
2. つきあっている人  
（好きな人）..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5
3. 親友 ..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5
4. 同級生 ..... 1 — 2 — 3 — 4
5. 高校の先輩や後輩 ..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5
6. 高校以外の友人（アルバイトや  
塾で知り合った友人） ..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5
7. 中学時代の友人 ..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5

26 あなたにとって、次のようなことはどれくらい恥ずかしいことですか。

- |                             | とても<br>恥ずかしい | やや<br>恥ずかしい | あまり<br>恥ずかしくない | ぜんぜん<br>恥ずかしくない |
|-----------------------------|--------------|-------------|----------------|-----------------|
| 1. 休み時間に教室の床に座る             | 1            | 2           | 3              | 4               |
| 2. 休み時間に教室で靴下をはきかえる         | 1            | 2           | 3              | 4               |
| 3. 休み時間に教室で化粧をする            | 1            | 2           | 3              | 4               |
| 4. 休み時間に教室でものを食べる           | 1            | 2           | 3              | 4               |
| 5. 休み時間に教室でプライベートな<br>話をする  | 1            | 2           | 3              | 4               |
| 6. 電車の床に座る                  | 1            | 2           | 3              | 4               |
| 7. 電車の中で靴下をはきかえる            | 1            | 2           | 3              | 4               |
| 8. 電車の中で化粧をする               | 1            | 2           | 3              | 4               |
| 9. 電車の中でものを食べる              | 1            | 2           | 3              | 4               |
| 10. 電車の中でプライベートな話をする        | 1            | 2           | 3              | 4               |
| 11. 道や駅前の広場に座る              | 1            | 2           | 3              | 4               |
| 12. 道や駅前の広場で靴下をはきかえる        | 1            | 2           | 3              | 4               |
| 13. 道や駅前の広場で化粧をする           | 1            | 2           | 3              | 4               |
| 14. 道や駅前の広場でものを食べる          | 1            | 2           | 3              | 4               |
| 15. 道や駅前の広場でプライベートな話<br>をする | 1            | 2           | 3              | 4               |

27 次のようなことについて、あなたの気持ちや行動に一番近いところにをつけてください。

- |                                     | とても<br>そう | やや<br>そう | あまり<br>そうでない | ぜんぜん<br>そうでない |
|-------------------------------------|-----------|----------|--------------|---------------|
| 1. 前の人切符を買うのにもたもた<br>していると、いらいらしてくる | 1         | 2        | 3            | 4             |
| 2. 子どもが道などで騒いでいると<br>ムカつく           | 1         | 2        | 3            | 4             |
| 3. 通り魔などをする人の気持ちが、<br>わかるような気がする    | 1         | 2        | 3            | 4             |
| 4. 「援助交際」をするのは本人の自由<br>だと思う         | 1         | 2        | 3            | 4             |
| 5. 友だちに同性愛の人がいても<br>かまわない           | 1         | 2        | 3            | 4             |

## 資料1 調査票見本

- |  | とても<br>そう | やや<br>そう | あまり<br>そうでない | ぜんぜん<br>そうでない |
|--|-----------|----------|--------------|---------------|
| 6. お年寄りや身体の不自由な人に<br>席をゆずる .....           | 1         | 2        | 3            | 4             |
| 7. いじめられている友だちを助けた<br>ことがある .....          | 1         | 2        | 3            | 4             |
| 8. 万引きをしようとして(人のものを<br>盗ろうと)思ったことがある ..... | 1         | 2        | 3            | 4             |

㊸ あなたは、次のものを持っていますか。持っているもの全てに をつけてください。

1. 携帯電話      2. PHS      3. ポケベル

SQ) 上記1～3のいずれかを持っている人におたずねします。

あてはまる番号に をつけてください。

- |                                  | とても<br>そう | やや<br>そう | あまり<br>そうでない | ぜんぜん<br>そうでない |
|----------------------------------|-----------|----------|--------------|---------------|
| 1. これらを持って友だちが増えた .....          | 1         | 2        | 3            | 4             |
| 2. これらを持って友だちとの関係が<br>深まった ..... | 1         | 2        | 3            | 4             |
| 3. 用もないのに連絡をする .....             | 1         | 2        | 3            | 4             |
| 4. 誰にでも気軽に番号を教える .....           | 1         | 2        | 3            | 4             |

㊸ あなたは、どのようなときが一番落ち着きますか。

1. 部屋で1人有的时候き
2. 家で家族といるとき
3. 外で1人有的时候き
4. 外で人込みなどにいるとき
5. 外で友だちといるとき
6. その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

～これで終わりです。ご協力ありがとうございました。～

資料2 学年・性別集計表

単位：サンプル数以外はパーセント

質問項目		全体	性別		学年別					
			男子	女子	1年	2年	3年			
サンプル数		1,512	721	791	732	490	290			
①	性別	1. 男子	47.7		54.2	44.5	36.6			
		2. 女子	52.3		45.8	55.5	63.4			
	学年別	1. 1年	48.4	55.1	42.4					
		2. 2年	32.4	30.2	34.4					
		3. 3年	19.2	14.7	23.3					
	学校別	1. A校	24.7	20.1	29.0	15.6	22.9	51.0		
		2. B校	4.7	5.7	3.8	0.0	14.5	0.0		
		3. C校	1.7	1.7	1.8	0.0	0.0	9.0		
		4. D校	14.2	11.2	16.9	13.7	0.0	39.7		
5. E校		20.5	19.7	21.2	0.3	62.7	0.3			
6. F校		34.1	41.6	27.3	70.5	0.0	0.0			
②	部活動	1. 運動部で熱心に活動している	24.9	34.5	16.1	24.9	30.1	16.2		
		2. 運動部で、あまり熱心ではない	8.2	8.9	7.6	11.1	6.1	4.5		
		3. 文化部で熱心に活動している	10.8	4.3	16.8	10.5	12.7	8.3		
		4. 文化部で、あまり熱心ではない	8.1	2.8	12.9	5.1	13.5	6.6		
		5. 以前入っていたが、今は参加していない	23.6	23.7	23.5	19.9	20.0	39.0		
		6. 入ったことがない	22.2	23.9	20.7	27.1	16.2	20.0		
		7. その他	2.2	1.9	2.4	1.4	1.4	5.5		
③	や部活動を週に何回か	1. 1回	11.2	5.7	16.0	9.6	14.1	8.7		
		2. 2回	7.9	2.4	12.7	8.5	6.6	9.4		
		3. 3回	6.2	4.3	7.8	5.2	6.3	8.7		
		4. 4回	7.0	10.0	4.5	12.4	2.3	3.1		
		5. 5回	11.6	11.6	11.6	15.7	9.2	5.5		
		6. 6回	27.4	31.5	23.8	27.7	26.0	29.9		
		7. 7回	28.7	34.5	23.6	20.9	35.5	34.6		
④	きょうだい（自分も含めた）の数	1. 1人	8.6	7.8	9.4	10.7	5.5	8.7		
		2. 2人	53.7	55.7	51.9	57.8	47.6	53.6		
		3. 3人	31.7	30.8	32.5	27.0	39.5	30.4		
		4. 4人	4.8	4.6	5.1	3.7	6.1	5.5		
		5. 5人	0.7	0.6	0.9	0.7	0.6	1.0		
		6. 6人	0.2	0.1	0.3	0.1	0.4	0.0		
		7. 7人以上	0.2	0.4	0.0	0.0	0.2	0.7		
	から何番目か	1. 1番目	46.7	48.0	45.4	47.0	46.0	47.0		
		2. 2番目	40.1	38.8	41.3	41.8	38.2	39.0		
		3. 3番目	11.9	12.0	11.8	10.0	14.0	13.2		
		4. 4番目	1.1	1.0	1.3	1.1	1.6	0.3		
		5. 5番目以降	0.2	0.1	0.3	0.1	0.2	0.3		
		⑤	アルバイトを現在しているか	1. はい	10.5	8.1	12.7	11.0	7.8	13.8
		2. いいえ	89.5	91.9	87.3	89.0	92.2	86.2		
⑥	アルバイト経験	1. ある	36.8	34.2	39.1	30.2	25.6	71.7		
		2. ない	63.2	65.8	60.9	69.8	74.4	28.3		
⑦	卒業後の進路希望	1. 就職	5.2	5.1	5.2	3.4	3.7	12.1		
		2. 家業・家の手伝い	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.0		
		3. 各種学校・専修学校	10.8	6.0	15.2	7.4	10.4	20.0		
		4. 短期大学	6.0	0.6	10.9	4.1	4.3	13.4		
		5. ふつうの4年制大学	47.5	53.5	42.2	46.6	55.2	36.9		
		6. むずかしい4年制大学	15.7	17.9	13.7	16.3	16.8	12.4		
		7. その他	2.7	2.5	2.9	3.1	2.5	2.1		
		8. まだ決めていない	12.0	14.3	9.9	18.9	7.0	3.1		

資料2 学年・性別集計表

質問項目			全 体	性 別		学 年 別				
				男 子	女 子	1 年	2 年	3 年		
8	友人の 数	1. 1人	0.4	0.6	0.3	0.6	0.2	0.3		
		2. 2人	0.6	0.4	0.8	0.4	0.4	1.4		
		3. 3人	0.7	0.7	0.6	0.6	1.0	0.3		
		4. 4~5人	5.9	5.7	6.1	5.2	5.8	7.7		
		5. 6~9人	9.6	9.6	9.6	9.4	8.3	12.2		
		6. 10~19人	24.0	22.9	25.0	21.8	25.5	26.9		
		7. 20~49人	27.0	25.9	28.1	26.2	28.0	27.6		
		8. 50人以上	30.0	30.9	29.2	33.5	29.2	22.7		
		9. いない	1.8	3.3	0.4	2.3	1.7	0.7		
9	友人 との つき あい 方	く方が 1人で 落ち 着い る	1. だいたいそう	9.5	13.1	6.2	9.4	9.7	9.7	
			2. まあそう	34.7	38.9	30.9	34.5	34.7	35.3	
			3. あまりそうでない	45.9	38.6	52.5	46.4	45.2	46.0	
			4. まったくそうでない	9.8	9.3	10.3	9.8	10.5	9.0	
		いと1 をの 大つ 友に あ人	1. だいたいそう	20.4	17.1	23.4	18.0	21.1	25.3	
			2. まあそう	42.7	42.2	43.1	43.5	43.6	38.8	
			3. あまりそうでない	32.9	34.8	31.1	33.7	30.9	34.3	
			4. まったくそうでない	4.1	5.8	2.4	4.8	4.3	1.7	
		流友多 す人方 する と面 交の	1. だいたいそう	15.2	16.1	14.4	14.0	17.7	14.2	
			2. まあそう	34.9	36.0	33.9	39.1	28.7	34.9	
			3. あまりそうでない	44.2	41.3	46.8	42.6	46.8	43.6	
			4. まったくそうでない	5.7	6.5	4.8	4.3	6.8	7.3	
		てあ友 いつ るさ 関り 係し は	1. だいたいそう	5.8	7.4	4.3	6.3	5.5	4.8	
			2. まあそう	33.7	35.8	31.7	33.7	35.0	31.5	
			3. あまりそうでない	51.7	48.5	54.6	52.0	49.6	54.7	
			4. まったくそうでない	8.8	8.2	9.3	8.0	9.8	9.0	
		はて友 違話 うす に内 容つ	1. だいたいそう	25.6	24.5	26.6	26.2	26.4	22.9	
			2. まあそう	53.9	54.4	53.5	54.5	53.2	53.8	
			3. あまりそうでない	18.4	18.4	18.5	17.0	18.4	22.2	
			4. まったくそうでない	2.0	2.6	1.4	2.3	2.0	1.0	
		と人熱 がと中 あ話 すこ 友	1. だいたいそう	27.2	25.7	28.6	23.7	33.3	25.7	
			2. まあそう	44.2	41.1	47.0	44.4	38.8	52.8	
			3. あまりそうでない	24.3	27.0	21.9	25.9	25.3	18.8	
			4. まったくそうでない	4.3	6.2	2.6	6.0	2.7	2.8	
こも友 とは して い緒 るで	1. だいたいそう	3.5	3.9	3.2	3.9	3.1	3.5			
	2. まあそう	34.3	30.6	37.6	34.8	31.7	37.2			
	3. あまりそうでない	52.4	55.4	49.6	51.2	54.5	51.7			
	4. まったくそうでない	9.8	10.1	9.6	10.1	10.7	7.6			
長友 く人 続関 く係 方	1. だいたいそう	32.3	29.6	34.7	31.7	31.0	35.8			
	2. まあそう	56.3	60.3	52.7	57.9	54.8	54.9			
	3. あまりそうでない	10.2	8.6	11.7	8.4	13.6	9.0			
	4. まったくそうでない	1.2	1.5	0.9	1.9	0.6	0.3			
10	仲の よい 友人 グル ープ	有無	1. ある	90.8	85.1	95.9	91.1	89.1	92.7	
			2. ない	9.2	14.9	4.1	8.9	10.9	7.3	
		「ある」 人の みに SQ	グル ープ の 数	1. 1つ	20.8	20.9	20.7	20.0	19.0	25.5
				2. 2つ	43.3	42.2	44.1	42.6	41.3	47.9
				3. 3つ以上	36.0	36.9	35.2	37.3	39.7	26.6
			グル ープ の 属 性	1. クラスの友人	46.5	36.5	54.8	51.1	44.5	38.3
				2. 部・課外活動の友人	12.4	14.6	10.6	9.1	20.5	7.4
				3. 同じ学校(クラス・部・課外活動以外)の友人	17.7	17.4	18.0	9.8	17.6	37.5
				4. 以前の学校の友人	19.7	26.8	13.8	27.1	14.4	9.7
5. その他	3.7	4.7	2.9	2.8	3.0	7.1				

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
10	仲のよい友人グループ 「ある」人のみに□ グループの構成人数	1. 2人	4.3	1.0	7.0	3.3	4.3	6.7	
		2. 3~5人	55.7	47.9	62.1	56.0	56.6	53.5	
		3. 6~9人	29.3	34.0	25.4	28.2	31.6	28.3	
		4. 10人以上	4.9	6.8	3.3	5.1	2.5	8.2	
		5. 決まっていない	5.9	10.3	2.2	7.5	5.0	3.3	
11	ど の く ら い 話 す か	勉強の話	1. かなりする	9.7	7.6	11.5	5.5	9.3	20.8
			2. ときどきする	50.7	44.1	56.6	49.2	53.3	50.0
			3. あまりしない	30.5	35.0	26.5	33.8	29.2	24.3
			4. まったくしない	9.1	13.3	5.4	11.4	8.2	4.9
		テレビの話	1. かなりする	21.7	18.8	24.3	18.5	24.1	25.7
			2. ときどきする	56.8	58.3	55.4	58.5	54.7	55.9
			3. あまりしない	18.1	18.1	18.2	18.2	18.5	17.4
			4. まったくしない	3.4	4.9	2.0	4.8	2.7	1.0
		社会問題の話	1. かなりする	5.0	6.4	3.8	5.1	2.7	8.7
			2. ときどきする	28.1	29.8	26.6	27.4	25.9	33.7
			3. あまりしない	46.0	43.0	48.6	43.6	51.6	42.4
			4. まったくしない	20.9	20.8	21.0	23.9	19.8	15.3
		マンガ・雑誌の話	1. かなりする	21.9	20.9	22.8	23.5	23.0	16.0
			2. ときどきする	51.7	53.7	49.9	52.7	50.9	50.7
			3. あまりしない	21.7	19.9	23.3	19.7	20.9	28.1
			4. まったくしない	4.7	5.5	3.9	4.1	5.2	5.2
		趣味の話	1. かなりする	29.5	34.1	25.3	30.0	31.1	25.3
			2. ときどきする	41.5	41.0	42.0	42.6	40.1	41.3
			3. あまりしない	24.6	20.2	28.6	23.4	23.3	30.2
			4. まったくしない	4.3	4.7	4.1	4.0	5.6	3.1
		異性の話	1. かなりする	38.6	32.8	43.8	37.7	38.6	41.0
			2. ときどきする	39.9	40.9	39.0	38.5	39.8	43.4
			3. あまりしない	16.1	19.5	13.0	17.0	16.7	12.8
			4. まったくしない	5.4	6.8	4.2	6.8	4.9	2.8
		将来の進路の話	1. かなりする	16.6	13.2	19.7	9.0	13.6	41.0
			2. ときどきする	44.0	38.0	49.4	39.0	48.6	49.0
			3. あまりしない	31.2	37.8	25.3	40.0	31.1	9.4
			4. まったくしない	8.1	11.0	5.6	12.0	6.8	0.7
		個人的な悩み	1. かなりする	20.4	11.3	28.6	21.3	17.5	23.3
			2. ときどきする	39.1	32.1	45.3	37.5	39.7	42.0
			3. あまりしない	29.7	38.0	22.2	29.5	32.5	25.3
			4. まったくしない	10.8	18.5	3.9	11.8	10.3	9.4
		家族の話	1. かなりする	7.0	2.8	10.7	6.1	6.6	9.8
			2. ときどきする	31.3	15.0	46.0	28.6	32.1	37.1
			3. あまりしない	39.8	44.9	35.2	40.4	40.8	36.7
			4. まったくしない	21.9	37.3	8.0	25.0	20.5	16.4
12	つきあいについて にも会つ	放課後や休日	1. よくある	36.5	38.7	34.5	35.8	33.7	42.9
			2. ときどきある	43.3	41.5	45.0	44.8	42.7	40.5
			3. あまりない	16.4	14.8	17.7	15.4	18.5	15.2
			4. まったくない	3.9	5.0	2.8	4.0	5.1	1.4
	行き来する	お互いの家	1. よくある	21.0	25.1	17.2	19.5	18.5	28.8
			2. ときどきある	40.1	40.4	39.9	40.7	40.0	38.9
			3. あまりない	28.5	25.7	31.0	29.6	29.4	24.3
			4. まったくない	10.4	8.7	11.9	10.2	12.1	8.0

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
12	つきあいに ついて	電話でケベ ルや話す	1.よくある	34.2	25.0	42.4	35.2	31.6	36.0
			2.ときどきある	34.2	29.8	38.1	33.7	33.6	36.3
			3.あまりない	22.2	29.8	15.4	21.4	25.4	19.0
			4.まったくない	9.5	15.4	4.1	9.8	9.4	8.7
		お金の貸し 借りする	1.よくある	12.9	13.0	12.9	11.9	11.3	18.4
			2.ときどきある	38.9	42.5	35.6	37.7	39.1	41.3
			3.あまりない	34.7	31.5	37.5	35.6	35.5	30.9
			4.まったくない	13.5	13.0	14.1	14.8	14.1	9.4
		ノートなど の貸し借りを する	1.よくある	41.7	35.1	47.7	42.1	39.9	43.6
			2.ときどきある	44.6	46.3	43.1	45.2	44.9	42.6
			3.あまりない	10.4	13.9	7.2	9.5	12.3	9.3
			4.まったくない	3.3	4.6	2.0	3.2	2.9	4.2
	ケンカなど を する	1.よくある	2.5	2.9	2.0	2.6	2.3	2.4	
		2.ときどきある	14.2	11.9	16.2	17.5	9.8	13.1	
		3.あまりない	45.3	48.8	42.2	44.8	44.7	47.8	
		4.まったくない	38.1	36.3	39.6	35.1	43.2	36.7	
13	今の親 し み	お母さん	1.とても親しみがある	51.8	38.9	63.4	48.0	57.3	51.7
			2.やや親しみがある	37.6	46.5	29.5	38.8	35.3	38.3
			3.あまり親しみがない	7.6	10.0	5.4	8.6	5.9	7.9
			4.まったく親しみがない	1.5	2.2	0.9	2.6	0.8	0.0
			5.そのような人はいない	1.5	2.4	0.8	1.9	0.6	2.1
		お父さん	1.とても親しみがある	30.1	32.0	28.5	30.9	29.1	30.0
			2.やや親しみがある	39.2	40.5	38.0	38.9	40.0	38.6
			3.あまり親しみがない	21.4	19.0	23.5	22.0	20.9	20.7
			4.まったく親しみがない	5.2	3.9	6.3	5.8	4.9	4.1
			5.そのような人はいない	4.1	4.6	3.7	2.5	5.1	6.6
		きょうだい	1.とても親しみがある	42.8	35.9	49.0	39.3	45.0	47.9
			2.やや親しみがある	33.8	37.6	30.3	33.9	36.6	28.8
	3.あまり親しみがない		12.8	14.5	11.3	12.8	12.7	13.2	
	4.まったく親しみがない		3.3	4.9	1.8	4.7	1.4	2.8	
	5.そのような人はいない		7.3	7.0	7.6	9.4	4.3	7.3	
	親戚の人	1.とても親しみがある	11.4	13.3	9.7	11.6	11.3	11.1	
		2.やや親しみがある	37.1	38.2	36.1	36.8	36.8	38.4	
		3.あまり親しみがない	37.5	34.5	40.2	36.6	39.6	36.0	
		4.まったく親しみがない	12.9	12.4	13.3	13.8	11.5	13.1	
		5.そのような人はいない	1.1	1.5	0.8	1.2	0.8	1.4	
	同級生	1.とても親しみがある	43.1	38.9	46.9	39.7	45.3	48.1	
		2.やや親しみがある	44.4	49.6	39.7	45.5	44.5	41.5	
		3.あまり親しみがない	10.4	8.4	12.2	11.6	9.0	9.7	
		4.まったく親しみがない	2.0	2.8	1.3	3.0	1.2	0.7	
5.そのような人はいない		21.8	20.8	22.8	17.9	18.4	37.5		
いつかあ った	1.とても親しみがある	8.5	10.2	6.9	9.2	7.4	8.7		
	2.やや親しみがある	2.0	2.6	1.4	2.6	1.2	1.7		
	3.あまり親しみがない	1.0	1.4	0.6	1.5	0.4	0.7		
	4.まったく親しみがない	66.7	65.0	68.2	68.8	72.5	51.4		
	5.そのような人はいない	63.4	53.0	72.9	58.8	64.4	73.5		
友人グル ープ	1.とても親しみがある	30.2	37.6	23.4	33.3	30.1	22.3		
	2.やや親しみがある	3.5	4.6	2.5	4.7	2.9	1.7		
	3.あまり親しみがない	0.4	0.8	0.0	0.6	0.4	0.0		
	4.まったく親しみがない	2.5	3.9	1.1	2.6	2.2	2.4		
	5.そのような人はいない								

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
13	今の親しみ	高校の先輩	1. とても親しみがある	14.9	13.6	16.1	12.2	20.0	13.1
			2. やや親しみがある	27.8	28.7	27.1	27.2	28.8	27.9
			3. あまり親しみがない	25.3	25.3	25.3	26.7	23.5	24.8
			4. まったく親しみがない	12.2	10.7	13.5	15.0	9.8	9.3
			5. そのような人はいない	19.7	21.7	18.0	18.9	18.0	24.8
		高校の後輩	1. とても親しみがある	7.3	6.3	8.2	1.3	13.8	11.4
			2. やや親しみがある	19.3	19.2	19.3	4.2	32.5	34.5
			3. あまり親しみがない	16.4	17.0	16.0	6.8	27.8	21.4
			4. まったく親しみがない	7.6	6.2	8.9	3.8	10.7	12.1
			5. そのような人はいない	49.4	51.3	47.6	84.0	15.2	20.7
		担任の先生	1. とても親しみがある	6.9	7.4	6.4	7.4	4.0	10.4
			2. やや親しみがある	32.4	31.0	33.7	33.6	28.2	36.5
			3. あまり親しみがない	39.2	39.9	38.5	39.6	42.2	33.0
			4. まったく親しみがない	21.3	21.3	21.3	19.1	25.7	19.8
		近所の知り合い	1. とても親しみがある	5.4	6.1	4.7	5.6	5.5	4.5
			2. やや親しみがある	24.6	22.8	26.1	25.8	21.9	26.0
			3. あまり親しみがない	39.8	39.6	40.1	41.6	41.1	33.2
			4. まったく親しみがない	22.4	21.2	23.4	19.9	24.9	24.2
			5. そのような人はいない	7.9	10.3	5.7	7.1	6.5	12.1
		14	今後の関係	お母さん	1. もっと親しくしたい	19.6	13.1	25.5	18.5
2. このままでよい	74.0				78.8	69.6	74.5	72.2	75.8
3. もっと距離をおきたい	5.0				5.8	4.2	5.2	5.7	3.1
4. そのような人はいない	1.5				2.2	0.8	1.8	0.6	2.1
お父さん	1. もっと親しくしたい			16.1	14.4	17.7	16.1	14.9	18.3
	2. このままでよい			72.4	74.5	70.5	73.3	72.6	70.0
	3. もっと距離をおきたい			7.2	6.2	8.1	7.9	7.2	5.5
	4. そのような人はいない			4.3	4.9	3.7	2.8	5.3	6.2
きょうだい	1. もっと親しくしたい			19.1	13.1	24.5	17.4	20.6	20.7
	2. このままでよい			69.5	74.8	64.6	70.0	69.6	67.9
	3. もっと距離をおきたい			4.2	5.3	3.2	3.9	5.5	2.8
	4. そのような人はいない			7.3	6.8	7.7	8.8	4.3	8.6
親戚の人	1. もっと親しくしたい			17.0	16.0	17.9	19.0	16.1	13.4
	2. このままでよい			77.2	77.3	77.1	74.5	78.6	81.4
	3. もっと距離をおきたい			4.7	4.9	4.6	5.0	4.5	4.5
	4. そのような人はいない			1.1	1.8	0.5	1.5	0.8	0.7
同級生	1. もっと親しくしたい			42.7	35.7	49.0	43.4	46.6	34.1
	2. このままでよい			55.7	61.1	50.7	53.9	53.0	64.8
	3. もっと距離をおきたい			1.7	3.2	0.3	2.8	0.4	1.0
いきあつて	1. もっと親しくしたい			19.3	19.2	19.4	18.4	14.2	30.2
	2. このままでよい			16.5	19.0	14.2	14.7	15.0	23.6
	3. もっと距離をおきたい			0.9	1.4	0.5	1.4	0.2	1.0
	4. そのような人はいない			63.2	60.4	65.9	65.5	70.6	45.1
友グループ	1. もっと親しくしたい			49.8	41.2	57.6	48.6	53.9	45.9
	2. このままでよい			46.7	52.9	41.0	47.5	42.8	51.0
	3. もっと距離をおきたい			0.9	1.8	0.1	1.1	1.0	0.3
	4. そのような人はいない			2.6	4.1	1.3	2.7	2.3	2.8
高校の先輩	1. もっと親しくしたい			26.1	23.2	28.7	30.9	25.3	15.5
	2. このままでよい	52.7	54.1	51.5	48.8	54.5	59.7		
	3. もっと距離をおきたい	3.3	4.1	2.5	4.3	2.2	2.4		
	4. そのような人はいない	17.9	18.7	17.2	16.1	18.0	22.4		

## 資料2 学年・性別集計表

質問項目			全 体	性 別		学 年 別			
				男 子	女 子	1 年	2 年	3 年	
14	今後の関係	高校の後輩	1. もっと親しくしたい	14.0	11.9	15.9	3.6	27.8	16.6
			2. このままでよい	39.9	41.3	38.7	20.6	54.6	63.1
			3. もっと距離をおきたい	1.7	2.4	1.0	1.3	2.0	2.1
			4. そのような人はいない	44.3	44.2	44.3	74.4	15.5	18.3
		担任の先生	1. もっと親しくしたい	13.0	13.6	12.5	13.6	13.4	10.8
			2. このままでよい	73.9	72.6	75.1	75.0	70.2	77.4
			3. もっと距離をおきたい	13.0	13.7	12.5	11.2	16.5	11.8
		近所の知り合い	1. もっと親しくしたい	10.3	10.8	9.9	11.2	10.0	8.6
			2. このままでよい	77.0	72.6	80.9	76.6	77.3	77.2
			3. もっと距離をおきたい	5.2	6.8	3.8	5.5	5.5	4.1
			4. そのような人はいない	7.5	9.8	5.4	6.7	7.1	10.0
		15	どの程度わかっていくれているか	お母さん	1. 非常にわかってきている	23.1	19.2	26.7	23.3
2. まあわかってきている	54.4				56.9	52.2	52.7	54.8	57.9
3. あまりわかってきていない	16.8				16.6	17.1	16.8	16.8	16.9
4. まったくわかってきていない	4.3				5.4	3.3	5.6	3.3	2.8
5. そのような人はいない	1.3				1.9	0.8	1.5	0.6	2.1
お父さん	1. 非常にわかってきている			13.1	15.8	10.8	14.5	12.9	10.0
	2. まあわかってきている			45.5	48.4	42.9	43.9	45.3	50.0
	3. あまりわかってきていない			27.9	24.0	31.4	29.1	27.7	25.2
	4. まったくわかってきていない			9.3	7.1	11.3	9.9	9.0	8.3
	5. そのような人はいない			4.2	4.7	3.7	2.6	5.1	6.6
きょうだい	1. 非常にわかってきている			16.4	14.7	18.1	16.9	16.8	14.6
	2. まあわかってきている			49.1	48.9	49.4	44.1	53.5	54.5
	3. あまりわかってきていない			20.3	21.6	19.1	22.2	19.7	16.7
	4. まったくわかってきていない			6.7	7.7	5.9	7.9	5.5	5.9
	5. そのような人はいない			7.4	7.1	7.6	9.0	4.5	8.3
親戚の人	1. 非常にわかってきている			3.3	4.6	2.0	4.6	2.5	1.4
	2. まあわかってきている			31.1	32.9	29.5	30.3	31.5	32.4
	3. あまりわかってきていない			41.0	41.8	40.3	40.0	42.7	40.8
	4. まったくわかってきていない			23.1	18.5	27.2	23.4	22.3	23.3
	5. そのような人はいない			1.5	2.2	0.9	1.7	1.0	2.1
同級生	1. 非常にわかってきている			11.6	9.2	13.7	11.2	12.1	11.8
	2. まあわかってきている			61.1	59.9	62.2	58.3	63.9	63.3
	3. あまりわかってきていない			21.9	24.9	19.1	23.6	20.3	20.1
	4. まったくわかってきていない			5.5	6.0	5.0	6.9	3.7	4.8
いきあつて	1. 非常にわかってきている			13.4	12.0	14.7	11.4	11.1	22.2
	2. まあわかってきている			15.7	17.7	13.9	14.7	12.5	23.6
	3. あまりわかってきていない			3.6	4.3	3.0	4.2	3.1	3.1
	4. まったくわかってきていない			1.3	1.8	0.8	1.8	1.0	0.3
	5. そのような人はいない			66.0	64.2	67.7	67.9	72.3	50.7
友人グループ	1. 非常にわかってきている			29.0	20.6	36.6	24.7	30.7	37.0
	2. まあわかってきている	56.7	59.3	54.3	58.6	55.4	54.0		
	3. あまりわかってきていない	10.2	13.5	7.1	11.7	10.0	6.6		
	4. まったくわかってきていない	1.3	2.1	0.6	2.1	1.0	0.0		
	5. そのような人はいない	2.9	4.5	1.4	3.0	2.9	2.4		
高校の先輩	1. 非常にわかってきている	4.1	4.5	3.8	3.7	5.2	3.5		
	2. まあわかってきている	27.3	25.5	29.0	24.7	31.0	27.8		
	3. あまりわかってきていない	28.4	31.0	26.0	29.7	28.7	24.7		
	4. まったくわかってきていない	17.5	16.6	18.3	20.4	13.8	16.3		
	5. そのような人はいない	22.6	22.5	22.8	21.5	21.3	27.8		

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
15	どの程度わかってきていると思うか	高校の後輩	1.非常にわかってきている	1.6	2.5	0.8	0.8	2.3	2.4
			2.まあわかってきている	17.7	16.5	18.8	5.3	29.3	29.3
			3.あまりわかってきていない	20.3	21.8	18.9	7.8	34.0	28.6
			4.まったくわかってきていない	10.7	9.7	11.6	5.0	15.9	16.0
			5.そのような人はいない	49.7	49.5	49.9	81.1	18.6	23.7
	担任の先生	1.非常にわかってきている	3.1	3.2	3.1	2.5	2.3	6.3	
		2.まあわかってきている	36.8	37.6	36.1	35.5	34.4	44.1	
		3.あまりわかってきていない	38.7	39.1	38.4	41.7	38.0	32.6	
		4.まったくわかってきていない	21.3	20.1	22.4	20.4	25.3	17.0	
	い近所の知り合	1.非常にわかってきている	2.3	3.1	1.7	2.6	2.5	1.4	
		2.まあわかってきている	17.6	19.0	16.4	15.9	18.1	21.2	
		3.あまりわかってきていない	33.7	33.5	33.9	36.4	33.7	27.1	
		4.まったくわかってきていない	36.1	32.1	39.8	36.5	36.0	35.4	
		5.そのような人はいない	10.2	12.3	8.3	8.6	9.7	14.9	
	16	親友の数	1.1人	9.3	6.8	11.6	9.3	8.7	10.3
2.2人			17.4	12.5	21.8	17.0	19.1	15.5	
3.3人			19.0	17.0	20.8	18.8	18.3	20.7	
4.4~5人			26.2	26.2	26.2	25.2	26.4	28.3	
5.6~9人			12.9	14.2	11.7	12.5	13.9	12.4	
6.10~19人			5.7	9.3	2.4	6.4	4.6	5.9	
7.20~49人			1.2	2.4	0.1	1.8	0.8	0.3	
8.50人以上			1.1	2.1	0.3	1.7	0.6	0.7	
9.いない			7.1	9.4	5.0	7.3	7.5	5.9	
17	どんなことができれば親友か	お互いに悩む	1.とてもそう思う	69.1	59.2	78.1	64.3	73.1	74.5
			2.ややそう思う	24.5	30.6	18.9	27.3	21.6	22.4
			3.あまりそう思わない	4.2	6.1	2.4	5.5	3.3	2.4
			4.まったくそう思わない	2.2	4.0	0.5	2.9	2.1	0.7
		本気でケンカができる	1.とてもそう思う	35.7	24.5	46.0	33.7	35.5	41.4
			2.ややそう思う	32.9	31.5	34.2	31.9	33.5	34.5
			3.あまりそう思わない	24.3	32.6	16.6	26.8	22.8	20.3
			4.まったくそう思わない	7.1	11.4	3.2	7.7	8.2	3.8
		気が合う	1.とてもそう思う	68.8	62.4	74.6	64.3	71.0	76.2
			2.ややそう思う	24.5	29.4	20.1	27.9	22.0	20.3
			3.あまりそう思わない	4.6	4.6	4.6	4.9	5.3	2.4
			4.まったくそう思わない	2.1	3.6	0.8	2.9	1.6	1.0
	一緒にいて疲れない	1.とてもそう思う	62.5	51.1	72.8	61.1	65.6	60.7	
		2.ややそう思う	28.1	34.5	22.4	27.5	25.7	33.8	
		3.あまりそう思わない	7.5	10.8	4.4	8.9	6.6	5.2	
		4.まったくそう思わない	1.9	3.6	0.4	2.5	2.1	0.3	
	時間を割ける	1.とてもそう思う	28.2	29.5	27.1	27.4	28.6	29.7	
		2.ややそう思う	39.5	40.2	38.9	40.6	37.7	40.0	
		3.あまりそう思わない	27.5	24.3	30.4	26.3	29.6	26.9	
		4.まったくそう思わない	4.7	6.0	3.6	5.6	4.1	3.4	
	意見を行動で認める	1.とてもそう思う	43.4	38.7	47.6	42.1	43.0	47.2	
		2.ややそう思う	42.3	46.0	39.0	43.7	40.9	41.4	
		3.あまりそう思わない	12.0	11.2	12.7	11.0	14.4	10.3	
		4.まったくそう思わない	2.3	4.1	0.6	3.2	1.6	1.0	
	本当の自分を見せられる	1.とてもそう思う	71.5	60.2	81.7	67.1	77.4	72.4	
		2.ややそう思う	22.6	29.9	15.9	25.2	18.3	23.1	
		3.あまりそう思わない	3.9	6.1	1.9	4.5	3.1	3.8	
		4.まったくそう思わない	2.1	3.8	0.5	3.2	1.2	0.7	

資料2 学年・性別集計表

質問項目			全 体	性 別		学 年 別			
				男 子	女 子	1 年	2 年	3 年	
18	自 分 の こ と	人助けができる	1. とてもそう	9.3	11.1	7.7	9.0	7.8	12.8
			2. ややそう	51.9	48.0	55.4	48.5	52.4	59.5
			3. あまりそうでない	36.1	37.5	34.9	39.5	37.1	26.0
			4. まったくそうでない	2.7	3.4	2.0	3.0	2.7	1.7
		非難が止まらなくなる	1. とてもそう	8.4	8.3	8.5	6.7	11.7	7.3
			2. ややそう	35.8	34.8	36.7	35.2	34.3	39.8
			3. あまりそうでない	48.5	48.3	48.7	50.3	47.8	45.0
			4. まったくそうでない	7.3	8.6	6.1	7.8	6.2	8.0
		笑人の失敗をうけてしまう	1. とてもそう	11.9	14.9	9.2	11.3	12.5	12.4
			2. ややそう	43.9	46.8	41.3	41.9	48.5	41.0
			3. あまりそうでない	38.3	32.9	43.3	40.7	35.3	37.6
			4. まったくそうでない	5.9	5.5	6.2	6.1	3.7	9.0
悪いことは言わない	1. とてもそう	22.1	17.7	26.1	19.9	23.0	26.2		
	2. ややそう	48.4	46.8	49.8	50.1	47.1	46.2		
	3. あまりそうでない	26.4	31.1	22.2	26.5	26.7	25.5		
	4. まったくそうでない	3.1	4.4	1.9	3.5	3.1	2.1		
ほいめるところは	1. とてもそう	32.7	25.2	39.4	28.9	36.3	35.9		
	2. ややそう	51.8	53.7	50.1	52.4	51.1	51.4		
	3. あまりそうでない	14.3	19.2	10.0	16.7	11.7	12.8		
	4. まったくそうでない	1.2	2.0	0.5	1.9	0.8	0.0		
親切は受け入れ	1. とてもそう	36.5	28.9	43.3	33.2	41.3	36.6		
	2. ややそう	51.8	55.5	48.4	54.7	45.8	54.5		
	3. あまりそうでない	10.5	13.5	7.7	10.4	11.9	8.3		
	4. まったくそうでない	1.3	2.1	0.5	1.7	1.0	0.7		
立ち場の弱い人を助けた	1. とてもそう	16.8	14.1	19.2	13.2	20.4	19.7		
	2. ややそう	51.2	49.3	52.9	51.2	47.1	57.9		
	3. あまりそうでない	28.3	32.0	25.0	31.2	28.4	21.0		
	4. まったくそうでない	3.7	4.6	2.9	4.4	4.1	1.4		
短所は言われたくない	1. とてもそう	23.1	25.4	21.1	23.5	24.2	20.3		
	2. ややそう	40.4	39.0	41.6	40.1	40.0	41.7		
	3. あまりそうでない	29.1	28.0	30.0	28.5	29.0	30.7		
	4. まったくそうでない	7.4	7.6	7.2	7.9	6.8	7.2		
19	自 己 に 対 す る 意 識	自分らしさがある	1. とてもそう思う	31.6	35.0	28.6	35.2	28.3	28.4
			2. まあそう思う	46.6	43.6	49.2	43.9	47.1	52.2
			3. あまりそう思わない	18.9	18.1	19.7	18.4	21.3	16.3
			4. ぜんぜんそう思わない	2.9	3.2	2.5	2.5	3.3	3.1
		ファッションは表現するもの	1. とてもそう思う	25.4	23.0	27.6	22.6	28.1	27.9
			2. まあそう思う	44.6	39.1	49.5	44.3	42.6	48.6
			3. あまりそう思わない	25.3	30.4	20.6	28.0	23.8	21.0
			4. ぜんぜんそう思わない	4.7	7.4	2.3	5.1	5.5	2.4
		自分があるがなくなるから	1. とてもそう思う	26.9	26.1	27.7	27.5	30.0	20.3
			2. まあそう思う	37.1	35.4	38.6	37.3	36.6	37.2
			3. あまりそう思わない	27.9	29.2	26.8	27.5	25.7	32.8
			4. ぜんぜんそう思わない	8.1	9.3	7.0	7.6	7.8	9.7
相手によって自分と違う	1. とてもそう思う	30.9	30.0	31.7	32.3	32.5	24.6		
	2. まあそう思う	47.5	46.4	48.4	44.6	46.5	56.4		
	3. あまりそう思わない	17.6	17.9	17.4	19.2	16.3	15.9		
	4. ぜんぜんそう思わない	4.1	5.8	2.5	4.0	4.7	3.1		
相手によって変えられる人は信用できない	1. とてもそう思う	25.4	24.4	26.2	23.2	29.2	24.5		
	2. まあそう思う	42.1	41.7	42.5	43.3	41.9	39.3		
	3. あまりそう思わない	27.8	28.3	27.4	28.0	24.8	32.4		
	4. ぜんぜんそう思わない	4.7	5.6	3.9	5.5	4.1	3.8		

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
19	自己に 対する 意識	きの 自分の 好	1. とてもそう思う	11.3	13.4	9.4	11.2	10.3	13.1
			2. まあそう思う	34.4	34.7	34.0	31.3	34.3	42.2
			3. あまりそう思わない	39.6	37.3	41.8	42.6	39.3	32.9
			4. ぜんぜんそう思わない	14.7	14.5	14.8	14.9	16.1	11.8
	の が 大 切	ど ん な 場 面 で	1. とてもそう思う	27.6	26.6	28.4	25.2	27.9	32.9
			2. まあそう思う	46.2	45.1	47.3	47.5	45.9	43.6
			3. あまりそう思わない	23.6	24.4	22.9	24.1	23.8	22.1
			4. ぜんぜんそう思わない	2.6	3.9	1.4	3.2	2.5	1.4
	自 分 と は 違 う	昨 日 ま で の	1. とてもそう思う	9.1	10.6	7.7	10.8	6.4	9.4
			2. まあそう思う	15.6	17.8	13.7	18.4	11.7	15.3
			3. あまりそう思わない	50.7	46.0	54.9	50.6	48.9	54.2
			4. ぜんぜんそう思わない	24.6	25.7	23.6	20.2	33.1	21.2
	で は な い	今 の 自 分 は	1. とてもそう思う	11.9	16.1	8.2	13.1	12.2	8.7
			2. まあそう思う	21.3	22.9	19.8	23.9	20.4	16.3
			3. あまりそう思わない	46.2	41.0	51.0	47.6	40.6	52.2
			4. ぜんぜんそう思わない	20.5	20.1	21.0	15.4	26.8	22.8
に も な い	本 当 の 自 分	1. とてもそう思う	9.1	11.4	7.0	9.3	10.0	6.9	
		2. まあそう思う	16.7	15.8	17.6	18.9	14.3	15.5	
		3. あまりそう思わない	39.2	36.3	41.8	43.0	32.6	40.7	
		4. ぜんぜんそう思わない	35.0	36.6	33.6	28.8	43.0	36.9	
20	不 安 や 悩 み	よ う で 不 安	1. よくある	13.8	11.9	15.6	15.6	14.5	8.3
			2. ときどきある	36.4	31.1	41.1	35.4	35.5	40.3
			3. あまりない	36.2	39.1	33.5	36.8	33.8	38.6
			4. まったくない	13.6	17.8	9.7	12.1	16.2	12.8
	感 じ る	自 分 の 居 場 所	1. よくある	12.6	11.9	13.2	14.6	12.9	6.9
			2. ときどきある	35.6	33.0	38.0	36.1	35.2	34.8
			3. あまりない	37.1	37.6	36.7	37.2	33.2	43.4
			4. まったくない	14.7	17.5	12.2	12.0	18.6	14.8
	な し く 感 じ る	今 の 生 活 を む	1. よくある	23.3	25.0	21.6	26.4	24.6	13.1
			2. ときどきある	39.8	39.5	40.0	38.3	41.5	40.7
			3. あまりない	26.4	24.8	28.0	25.8	22.2	35.2
			4. まったくない	10.5	10.7	10.4	9.5	11.7	11.0
	れ ず に 困 る	何 か を 決 め ら	1. よくある	29.3	24.9	33.3	23.2	36.4	32.8
			2. ときどきある	46.5	46.3	46.8	49.9	42.8	44.5
			3. あまりない	19.5	21.5	17.6	22.0	17.1	17.2
			4. まったくない	4.7	7.3	2.3	5.0	3.7	5.5
に 決 め る	物 事 を 感 覚 的	1. よくある	21.9	22.2	21.7	20.6	21.1	26.6	
		2. ときどきある	52.3	50.7	53.7	50.9	56.5	48.6	
		3. あまりない	22.9	23.5	22.3	25.7	19.7	21.0	
		4. まったくない	2.9	3.7	2.3	2.8	2.7	3.8	
い 口 で 可 能	自 分 を コ ン ト	1. よくある	12.1	12.4	11.8	13.8	11.7	8.3	
		2. ときどきある	34.0	32.3	35.5	34.6	34.2	32.1	
		3. あまりない	42.5	41.9	43.1	40.2	43.0	47.2	
		4. まったくない	11.5	13.5	9.6	11.3	11.1	12.4	
る わ か ら な く な か ら	何 を し た い の か	1. よくある	23.1	21.7	24.5	24.7	24.0	17.9	
		2. ときどきある	46.9	43.5	50.1	47.8	44.7	48.6	
		3. あまりない	25.3	28.6	22.4	23.1	27.5	27.2	
		4. まったくない	4.6	6.3	3.0	4.4	3.9	6.2	
に す ま じ め に 勉 強	す ま じ め に 勉 強	1. よくある	54.3	50.7	57.5	51.7	56.8	56.6	
		2. ときどきある	35.0	36.0	34.1	35.2	35.2	34.1	
		3. あまりない	8.1	9.1	7.1	9.1	7.2	6.9	
		4. まったくない	2.7	4.2	1.3	4.0	0.8	2.4	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別					
			男子	女子	1年	2年	3年			
20	不安や悩み	不安になる 自分の将来が	1.よくある	37.9	34.3	41.2	30.8	43.4	46.2	
			2.ときどきある	38.5	36.4	40.4	39.3	38.7	36.2	
			3.あまりない	17.9	20.8	15.2	22.0	13.3	15.2	
			4.まったくない	5.7	8.6	3.2	7.9	4.5	2.4	
		も体が自分の でない	1.よくある	6.7	7.7	5.7	6.5	7.2	6.2	
			2.ときどきある	11.2	11.1	11.3	12.0	9.6	11.7	
			3.あまりない	42.2	38.3	45.6	46.7	38.7	36.6	
			4.まったくない	40.0	42.8	37.4	34.7	44.5	45.5	
		体臭が自分の 臭が気になら ない	1.よくある	7.8	6.9	8.7	7.4	7.4	9.7	
			2.ときどきある	25.2	21.3	28.8	26.2	24.4	24.1	
			3.あまりない	45.9	47.9	44.0	46.6	45.0	45.5	
			4.まったくない	21.1	23.9	18.6	19.8	23.2	20.7	
21	誰と話を した い か	学校での出来事について	一番話したい人	1.両親	20.5	18.1	22.6	21.4	22.8	14.2
				2.きょうだい	5.0	3.0	6.8	5.7	5.4	2.8
				3.つきあっている人(好きな人)	15.3	17.8	13.2	12.2	13.9	25.6
				4.親友	48.4	47.8	48.9	49.9	47.7	45.9
				5.同級生	9.8	11.7	8.1	9.7	9.5	10.3
				6.高校の先輩や後輩	0.3	0.4	0.3	0.3	0.4	0.4
				7.学校の先生	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.0
				8.保健室の先生やカウンセラー	0.2	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0
				9.塾や予備校の先生	0.3	0.6	0.0	0.3	0.0	0.7
			二番目に話したい人	1.両親	23.8	20.2	26.8	23.0	25.6	22.7
				2.きょうだい	15.5	12.7	17.9	15.5	16.2	14.4
				3.つきあっている人(好きな人)	12.6	11.5	13.6	13.7	8.6	16.9
				4.親友	22.3	22.8	21.8	20.6	22.1	26.6
				5.同級生	22.0	27.3	17.4	22.4	24.4	16.9
				6.高校の先輩や後輩	1.5	2.1	1.0	1.5	2.3	0.4
				7.学校の先生	0.7	1.1	0.4	1.2	0.2	0.4
				8.保健室の先生やカウンセラー	0.6	0.9	0.4	0.9	0.0	1.1
				9.塾や予備校の先生	1.0	1.4	0.6	1.3	0.6	0.7
		クラブ活動について	一番話したい人	1.両親	17.7	13.5	21.5	18.7	18.1	14.5
				2.きょうだい	4.2	4.2	4.1	4.6	3.9	3.4
				3.つきあっている人(好きな人)	10.7	13.4	8.3	9.4	10.0	15.4
				4.親友	48.1	48.2	48.1	47.6	46.6	52.1
				5.同級生	14.4	15.7	13.2	14.6	16.9	9.4
				6.高校の先輩や後輩	3.4	3.3	3.5	3.4	3.5	3.4
				7.学校の先生	0.8	0.7	0.9	1.0	0.9	0.0
				8.保健室の先生やカウンセラー	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0	0.4
				9.塾や予備校の先生	0.4	0.8	0.0	0.3	0.0	1.3
			二番目に話したい人	1.両親	21.7	19.0	24.3	20.3	22.3	24.2
				2.きょうだい	11.6	8.3	14.7	11.8	12.6	9.5
				3.つきあっている人(好きな人)	9.4	10.0	8.8	10.1	5.2	15.2
				4.親友	19.8	21.2	18.5	20.6	18.8	19.5
				5.同級生	28.9	31.9	26.1	29.5	31.4	22.9
				6.高校の先輩や後輩	6.1	6.3	5.9	4.3	8.1	6.9
				7.学校の先生	1.5	2.2	0.8	2.1	1.0	0.9
				8.保健室の先生やカウンセラー	0.6	0.5	0.6	0.9	0.0	0.9
				9.塾や予備校の先生	0.5	0.7	0.3	0.5	0.7	0.0

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	2年	3年	
21	誰と話をしたい人	1. 両親	1.1	1.5	0.8	1.8	0.8	0.0
		2. きょうだい	2.3	1.7	2.9	1.8	3.2	2.2
		3. つきあっている人(好きな人)	5.1	7.0	3.5	4.0	5.7	6.8
		4. 親友	82.8	76.4	88.3	82.1	82.4	85.3
		5. 同級生	7.5	11.2	4.4	8.8	7.6	4.3
		6. 高校の先輩や後輩	0.4	0.8	0.1	0.7	0.0	0.4
		7. 学校の先生	0.1	0.3	0.0	0.1	0.2	0.0
		8. 保健室の先生やカウンセラー	0.3	0.6	0.0	0.4	0.0	0.4
		9. 塾や予備校の先生	0.2	0.5	0.0	0.1	0.0	0.7
	誰と話をしたい人	1. 両親	5.7	5.4	5.9	5.0	4.9	8.7
		2. きょうだい	10.4	5.5	14.6	8.2	11.7	13.3
		3. つきあっている人(好きな人)	4.6	5.2	4.1	5.4	4.2	3.4
		4. 親友	10.0	12.6	7.7	9.8	9.9	10.6
		5. 同級生	59.7	59.6	59.8	61.3	60.3	54.5
		6. 高校の先輩や後輩	7.4	8.5	6.5	6.7	8.2	8.0
		7. 学校の先生	0.7	1.3	0.1	1.2	0.0	0.4
		8. 保健室の先生やカウンセラー	0.9	0.9	0.8	1.2	0.4	0.8
		9. 塾や予備校の先生	0.7	0.9	0.5	1.1	0.4	0.4
	自分の成績や進路について	1. 両親	41.2	38.7	43.4	45.2	41.0	31.8
		2. きょうだい	4.2	3.0	5.3	4.1	5.2	2.9
		3. つきあっている人(好きな人)	7.3	8.2	6.6	6.0	5.4	13.9
		4. 親友	31.0	29.7	32.1	28.4	31.5	36.4
		5. 同級生	6.3	7.9	4.9	6.3	6.9	5.4
		6. 高校の先輩や後輩	1.7	2.4	1.0	1.5	2.9	0.0
		7. 学校の先生	6.3	8.0	4.8	6.0	5.8	7.9
		8. 保健室の先生やカウンセラー	0.2	0.1	0.3	0.3	0.2	0.0
		9. 塾や予備校の先生	1.7	2.1	1.4	2.2	1.0	1.8
誰と話をしたい人	1. 両親	23.6	20.1	26.6	19.8	24.9	30.5	
	2. きょうだい	9.2	9.5	9.0	10.5	8.6	6.9	
	3. つきあっている人(好きな人)	6.2	6.3	6.1	5.9	4.4	9.8	
	4. 親友	25.6	23.6	27.4	24.3	25.1	29.8	
	5. 同級生	14.0	17.0	11.3	14.9	14.3	10.9	
	6. 高校の先輩や後輩	2.8	2.9	2.8	1.5	4.9	2.5	
	7. 学校の先生	14.0	15.3	12.8	16.1	14.6	7.6	
	8. 保健室の先生やカウンセラー	1.8	2.0	1.7	2.8	0.6	1.5	
	9. 塾や予備校の先生	2.9	3.5	2.4	4.1	2.5	0.4	
社会の出来事について	1. 両親	42.7	32.7	51.6	42.5	45.1	39.3	
	2. きょうだい	3.4	2.8	4.1	3.6	3.9	2.2	
	3. つきあっている人(好きな人)	5.1	6.4	3.9	5.0	4.1	7.0	
	4. 親友	30.3	37.3	24.1	31.6	26.9	33.0	
	5. 同級生	13.4	13.9	13.0	11.2	16.7	13.3	
	6. 高校の先輩や後輩	0.9	1.4	0.4	1.1	0.9	0.4	
	7. 学校の先生	2.4	2.6	2.3	3.0	1.3	3.0	
	8. 保健室の先生やカウンセラー	0.6	0.9	0.3	0.6	0.2	1.1	
	9. 塾や予備校の先生	1.1	2.0	0.3	1.4	0.9	0.7	

## 資料2 学年・性別集計表

質問項目			全 体	性 別		学 年 別			
				男 子	女 子	1 年	2 年	3 年	
21	誰と話をしたいか	社会の出来事について 一番目に話したい人	1. 両親	18.6	17.9	19.1	16.3	18.9	23.6
			2. きょうだい	12.9	8.7	16.6	13.8	14.7	7.6
			3. つきあっている人(好きな人)	5.0	5.3	4.7	4.2	4.0	8.7
			4. 親友	22.2	20.7	23.5	21.7	21.6	24.3
			5. 同級生	28.9	33.1	25.1	29.9	29.4	25.5
			6. 高校の先輩や後輩	2.4	3.3	1.7	2.6	2.7	1.5
			7. 学校の先生	6.0	6.6	5.6	6.4	6.2	4.9
			8. 保健室の先生やカウンセラー	1.5	1.9	1.3	2.2	0.7	1.5
			9. 塾や予備校の先生	2.4	2.5	2.4	2.9	1.8	2.3
22	誰を頼りにしたいか	おしゃべりや気晴らしをする 一番頼りにしたい人	1. 両親	3.3	3.8	2.9	4.0	3.1	2.1
			2. きょうだい	4.0	2.9	5.0	3.3	5.6	3.2
			3. つきあっている人(好きな人)	11.2	13.4	9.3	9.5	11.0	16.0
			4. 親友	66.0	63.2	68.5	67.1	66.7	62.1
			5. 同級生	14.4	15.2	13.8	14.7	13.0	16.3
			6. 高校の先輩や後輩	0.3	0.4	0.3	0.4	0.4	0.0
			7. 学校の先生	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.0
			8. 保健室の先生やカウンセラー	0.2	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0
			9. 塾や予備校の先生	0.3	0.4	0.1	0.4	0.0	0.4
		一番頼りにしたい人	1. 両親	10.7	8.9	12.4	10.4	12.3	8.9
			2. きょうだい	13.2	11.4	14.8	13.4	13.8	11.8
			3. つきあっている人(好きな人)	14.1	13.0	15.1	13.3	12.5	18.9
			4. 親友	20.3	20.3	20.3	18.9	19.9	24.3
			5. 同級生	37.6	40.7	34.9	39.9	37.5	32.1
			6. 高校の先輩や後輩	2.6	3.3	2.0	2.3	3.0	2.5
			7. 学校の先生	0.8	1.2	0.4	1.3	0.2	0.4
			8. 保健室の先生やカウンセラー	0.5	0.7	0.3	0.4	0.2	1.1
			9. 塾や予備校の先生	0.2	0.4	0.0	0.0	0.6	0.0
	個人的な悩み事を相談する 一番頼りにしたい人	1. 両親	9.8	11.1	8.6	10.7	11.3	5.0	
		2. きょうだい	4.0	3.3	4.6	4.1	5.2	1.8	
		3. つきあっている人(好きな人)	10.0	11.7	8.5	9.0	6.9	17.9	
		4. 親友	70.4	65.1	75.0	68.8	72.0	71.4	
		5. 同級生	3.7	5.8	1.9	3.9	4.0	2.9	
		6. 高校の先輩や後輩	0.3	0.4	0.1	0.6	0.0	0.0	
		7. 学校の先生	0.5	0.9	0.1	0.9	0.2	0.0	
		8. 保健室の先生やカウンセラー	1.0	1.0	0.9	1.4	0.4	0.7	
		9. 塾や予備校の先生	0.3	0.6	0.1	0.6	0.0	0.4	
	1. 両親	19.6	18.1	20.8	20.6	19.2	17.7		
	2. きょうだい	8.9	7.2	10.4	7.9	9.9	9.7		
	3. つきあっている人(好きな人)	13.5	12.3	14.6	12.5	11.2	19.9		
	4. 親友	18.1	19.2	17.3	18.1	18.3	18.1		
	5. 同級生	32.3	33.7	31.1	32.7	34.3	28.2		
	6. 高校の先輩や後輩	3.0	3.8	2.4	2.7	3.7	2.9		
	7. 学校の先生	1.8	3.2	0.5	2.2	1.5	1.1		
	8. 保健室の先生やカウンセラー	2.3	1.8	2.6	2.7	1.5	2.5		
	9. 塾や予備校の先生	0.4	0.6	0.3	0.6	0.4	0.0		

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
22	誰を頼りにしたい人	1. 両親	33.3	30.7	35.6	40.1	29.7	22.9	
		2. きょうだい	5.8	4.3	7.1	5.7	6.6	4.6	
		3. つきあっている人(好きな人)	5.9	7.4	4.7	4.4	4.8	11.8	
		4. 親友	32.4	30.7	33.9	29.6	32.6	38.9	
		5. 同級生	6.5	8.3	4.9	5.8	7.5	6.4	
		6. 高校の先輩や後輩	2.1	2.4	1.8	1.7	3.3	0.7	
		7. 学校の先生	10.9	12.4	9.6	9.3	11.6	13.6	
		8. 保健室の先生やカウンセラー	0.4	0.4	0.4	0.7	0.2	0.0	
		9. 塾や予備校の先生	2.7	3.4	2.1	2.6	3.7	1.1	
	一番目に頼りたい人	1. 両親	24.1	20.2	27.5	21.9	24.4	29.0	
		2. きょうだい	7.8	7.8	7.9	9.7	6.4	5.7	
		3. つきあっている人(好きな人)	5.0	5.1	4.8	4.4	3.6	8.6	
		4. 親友	22.2	22.9	21.6	21.2	22.7	24.0	
		5. 同級生	13.7	15.6	12.0	14.7	13.3	11.8	
		6. 高校の先輩や後輩	3.2	4.2	2.4	2.6	4.4	2.5	
		7. 学校の先生	18.9	18.6	19.1	17.8	22.0	16.1	
		8. 保健室の先生やカウンセラー	1.2	0.7	1.6	1.5	0.8	1.1	
		9. 塾や予備校の先生	3.9	4.8	3.1	6.2	2.3	1.1	
	好きな人について相談する	1. 両親	1.2	1.7	0.8	1.3	1.3	0.7	
		2. きょうだい	2.5	1.7	3.1	2.4	2.7	2.2	
		3. つきあっている人(好きな人)	2.7	4.3	1.3	2.2	2.7	3.6	
		4. 親友	86.0	80.8	90.5	84.9	86.5	88.1	
		5. 同級生	6.6	9.5	4.2	7.7	6.6	4.0	
		6. 高校の先輩や後輩	0.3	0.6	0.0	0.6	0.0	0.0	
		7. 学校の先生	0.4	0.9	0.0	0.4	0.2	0.7	
		8. 保健室の先生やカウンセラー	0.1	0.3	0.0	0.1	0.0	0.4	
		9. 塾や予備校の先生	0.2	0.3	0.1	0.3	0.0	0.4	
一番目に頼りたい人	1. 両親	5.5	5.4	5.7	5.6	4.9	6.4		
	2. きょうだい	10.9	6.8	14.5	8.5	12.4	14.2		
	3. つきあっている人(好きな人)	4.0	5.1	3.0	4.2	3.5	4.1		
	4. 親友	7.4	9.7	5.5	8.0	7.1	6.7		
	5. 同級生	63.0	62.1	63.7	63.8	65.0	57.7		
	6. 高校の先輩や後輩	6.6	7.4	5.9	6.0	6.4	8.6		
	7. 学校の先生	0.6	0.8	0.4	1.3	0.0	0.0		
	8. 保健室の先生やカウンセラー	1.5	2.1	1.0	2.0	0.4	1.9		
	9. 塾や予備校の先生	0.4	0.6	0.3	0.6	0.2	0.4		
23	成績や進路に口出しされたら	きょうだい	1. 素直に聞き入れるだろう	18.1	15.7	20.3	16.7	17.7	22.3
			2. 聞くだけは聞いておくだろう	45.6	45.3	45.9	43.3	48.0	47.4
			3. 聞きたくないと不満を感じるだろう	13.1	12.0	14.1	14.9	12.9	9.1
			4. まったく気にしないだろう	15.4	19.6	11.6	15.6	16.6	12.9
			5. そのような人はいない	7.8	7.3	8.2	9.6	4.7	8.4
	人(好きでない)	1. 素直に聞き入れるだろう	26.9	25.5	28.2	24.8	24.8	35.9	
		2. 聞くだけは聞いておくだろう	26.9	25.4	28.3	25.9	25.1	32.8	
		3. 聞きたくないと不満を感じるだろう	1.8	2.7	1.0	2.6	0.8	1.4	
		4. まったく気にしないだろう	1.9	2.8	1.0	1.7	1.8	2.4	
		5. そのような人はいない	42.5	43.6	41.5	45.1	47.4	27.5	
	親友	1. 素直に聞き入れるだろう	42.8	35.5	49.4	38.3	46.8	47.4	
		2. 聞くだけは聞いておくだろう	48.7	51.9	45.7	51.0	46.4	46.7	
		3. 聞きたくないと不満を感じるだろう	2.3	3.0	1.8	3.5	1.4	1.1	
		4. まったく気にしないだろう	2.7	4.7	1.0	3.3	2.1	2.5	
		5. そのような人はいない	3.4	4.9	2.0	3.9	3.3	2.5	

## 資料2 学年・性別集計表

質問項目			全 体	性 別		学 年 別			
				男 子	女 子	1 年	2 年	3 年	
23	成績 や 進路に 口出 しされ たら	同級生	1. 素直に聞き入れるだろう	18.6	17.0	20.0	15.8	21.9	20.2
			2. 聞くだけは聞いておくだろう	65.6	65.2	65.9	65.8	65.8	64.8
			3. 聞きたくないと不満を感じるだろう	9.2	8.9	9.4	10.2	7.8	9.1
			4. まったく気にしないだろう	6.5	8.7	4.6	8.1	4.5	5.9
			5. そのような人はいない						
		後高 校の 先輩 や	1. 素直に聞き入れるだろう	20.9	19.3	22.3	18.6	26.5	17.1
			2. 聞くだけは聞いておくだろう	45.2	42.5	47.7	42.4	43.7	54.7
			3. 聞きたくないと不満を感じるだろう	7.9	9.3	6.6	10.7	6.4	3.5
			4. まったく気にしないだろう	7.4	9.3	5.7	7.5	7.8	6.6
			5. そのような人はいない	18.6	19.6	17.6	20.7	15.6	18.1
		人高 校以 外の 友	1. 素直に聞き入れるだろう	14.5	12.7	16.1	15.4	13.8	13.2
			2. 聞くだけは聞いておくだろう	51.3	50.3	52.2	51.7	47.7	56.4
			3. 聞きたくないと不満を感じるだろう	6.3	7.9	4.8	7.4	5.3	5.2
			4. まったく気にしないだろう	6.0	7.8	4.5	5.1	7.0	6.6
			5. そのような人はいない	21.9	21.3	22.4	20.4	26.1	18.5
		人中 学時 代の 友	1. 素直に聞き入れるだろう	26.3	24.3	28.2	30.4	23.2	21.3
			2. 聞くだけは聞いておくだろう	61.1	60.8	61.4	58.1	62.4	66.6
			3. 聞きたくないと不満を感じるだろう	5.0	5.2	4.8	4.7	6.2	3.8
			4. まったく気にしないだろう	5.3	7.1	3.7	4.7	6.4	4.9
			5. そのような人はいない	2.3	2.7	1.9	2.1	1.8	3.5
24	顔つ きや 体つ きに 口出 しされ たら	き ょう だ い	1. 素直に聞き入れるだろう	14.1	11.3	16.6	12.8	14.0	17.5
			2. 聞くだけは聞いておくだろう	35.1	39.0	31.5	35.1	34.9	35.3
			3. 聞きたくないと不満を感じるだろう	24.4	19.1	29.1	25.0	26.1	19.9
			4. まったく気にしないだろう	19.1	23.5	15.2	17.9	20.9	19.2
			5. そのような人はいない	7.3	7.1	7.5	9.2	4.1	8.0
		人 る つ き あ っ て な い ( 好 ま な い )	1. 素直に聞き入れるだろう	24.6	23.4	25.8	22.4	21.8	35.1
			2. 聞くだけは聞いておくだろう	21.8	21.8	21.8	22.7	17.9	26.3
			3. 聞きたくないと不満を感じるだろう	10.0	7.5	12.2	9.5	11.7	8.4
			4. まったく気にしないだろう	3.0	4.6	1.5	2.7	2.9	3.9
			5. そのような人はいない	40.6	42.7	38.6	42.7	45.8	26.3
		親 友	1. 素直に聞き入れるだろう	30.9	25.9	35.3	29.9	30.2	34.3
			2. 聞くだけは聞いておくだろう	45.9	47.7	44.3	47.1	44.7	44.8
			3. 聞きたくないと不満を感じるだろう	13.0	11.4	14.4	13.1	14.2	10.5
			4. まったく気にしないだろう	7.3	11.0	4.0	6.3	8.2	8.0
			5. そのような人はいない	3.0	4.1	2.0	3.5	2.7	2.4
		同 級 生	1. 素直に聞き入れるだろう	13.4	11.8	14.8	12.8	14.0	13.7
			2. 聞くだけは聞いておくだろう	51.6	52.5	50.7	50.9	50.8	54.4
			3. 聞きたくないと不満を感じるだろう	26.1	22.6	29.2	26.4	27.7	22.5
			4. まったく気にしないだろう	8.9	12.9	5.4	9.7	7.4	9.5
		後高 校の 先輩 や	1. 素直に聞き入れるだろう	7.3	7.3	7.3	6.7	7.8	7.7
2. 聞くだけは聞いておくだろう	35.7		34.7	36.6	35.7	36.0	35.0		
3. 聞きたくないと不満を感じるだろう	26.5		24.1	28.7	25.5	28.2	26.2		
4. まったく気にしないだろう	12.0		15.0	9.4	11.9	11.9	12.6		
5. そのような人はいない	18.5		19.0	18.1	20.2	16.0	18.5		
人高 校以 外の 友	1. 素直に聞き入れるだろう	7.1	7.3	7.0	7.4	6.2	8.0		
	2. 聞くだけは聞いておくだろう	38.9	38.4	39.4	41.5	35.6	38.1		
	3. 聞きたくないと不満を感じるだろう	21.3	19.2	23.2	20.8	21.6	22.0		
	4. まったく気にしないだろう	10.3	14.2	6.9	9.9	10.5	11.2		
	5. そのような人はいない	22.3	20.9	23.6	20.4	26.1	20.6		

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全 体	性 別		学 年 別				
			男 子	女 子	1 年	2 年	3 年		
24	顔つきや体つきに口出しされたら	人 中学時代の友	1. 素直に聞き入れるだろう	16.9	15.2	18.3	18.2	16.3	14.7
			2. 聞くだけは聞いておくだろう	51.3	50.8	51.7	53.2	51.4	46.2
			3. 聞きたくないと不満を感じるだろう	19.4	18.5	20.3	18.7	18.9	22.0
			4. まったく気にしないだろう	10.0	12.7	7.6	8.1	11.1	12.9
			5. そのような人はいない	2.4	2.8	2.0	1.8	2.3	4.2
25	お金のことで困っている人に対して	きょうだい	1. 自分のできる範囲でお金を貸してあげる	45.1	40.1	49.6	38.9	49.4	53.3
			2. 親身になって相談を受ける	13.6	12.8	14.4	13.6	14.8	11.8
			3. 話を聞くだけは聞いてあげる	22.6	25.6	20.0	24.5	21.6	19.9
			4. あまり干渉しないようにする	11.4	14.9	8.3	14.1	9.9	7.3
			5. そのような人はいない	7.2	6.5	7.8	9.0	4.3	7.7
		人)つきあっていない(好きな人)	1. 自分のできる範囲でお金を貸してあげる	24.6	28.4	21.2	21.3	22.1	37.3
			2. 親身になって相談を受ける	22.5	19.3	25.3	23.0	20.8	24.0
			3. 話を聞くだけは聞いてあげる	8.5	6.8	10.0	9.0	8.5	7.3
			4. あまり干渉しないようにする	2.8	2.8	2.8	2.9	2.3	3.5
			5. そのような人はいない	41.5	42.5	40.7	43.8	46.4	27.9
		親友	1. 自分のできる範囲でお金を貸してあげる	39.0	42.7	35.7	37.5	37.3	45.5
			2. 親身になって相談を受ける	38.7	30.7	45.9	38.5	39.4	38.1
			3. 話を聞くだけは聞いてあげる	15.5	16.9	14.2	16.5	16.5	11.2
			4. あまり干渉しないようにする	4.0	5.8	2.4	4.2	4.3	3.1
			5. そのような人はいない	2.8	3.8	1.8	3.2	2.5	2.1
		同級生	1. 自分のできる範囲でお金を貸してあげる	13.9	18.1	10.1	14.2	12.3	15.7
			2. 親身になって相談を受ける	32.5	29.1	35.6	31.6	33.1	33.8
			3. 話を聞くだけは聞いてあげる	39.4	38.5	40.1	40.6	39.6	35.9
			4. あまり干渉しないようにする	14.2	14.2	14.2	13.5	15.0	14.6
		後輩 高校の先輩や	1. 自分のできる範囲でお金を貸してあげる	6.5	9.3	4.0	6.3	6.4	7.0
			2. 親身になって相談を受ける	20.3	18.2	22.1	19.6	22.9	17.5
			3. 話を聞くだけは聞いてあげる	31.3	32.3	30.4	31.6	28.7	35.3
			4. あまり干渉しないようにする	22.7	20.8	24.4	21.5	25.2	21.7
			5. そのような人はいない	19.2	19.4	19.1	21.0	16.9	18.5
		人 高校以外の友	1. 自分のできる範囲でお金を貸してあげる	6.0	8.1	4.1	6.9	4.7	5.9
2. 親身になって相談を受ける	19.4		18.6	20.0	20.8	18.7	16.7		
3. 話を聞くだけは聞いてあげる	33.2		34.6	32.0	33.7	30.2	36.9		
4. あまり干渉しないようにする	19.1		17.5	20.5	17.9	20.0	20.6		
5. そのような人はいない	22.4		21.2	23.4	20.7	26.3	19.9		
人 中学時代の友	1. 自分のできる範囲でお金を貸してあげる	17.9	23.7	12.6	21.0	16.0	13.2		
	2. 親身になって相談を受ける	34.0	31.0	36.7	37.3	34.2	25.4		
	3. 話を聞くだけは聞いてあげる	32.5	29.8	34.9	30.1	33.5	36.9		
	4. あまり干渉しないようにする	13.2	12.8	13.5	9.8	14.0	20.2		
	5. そのような人はいない	2.4	2.7	2.2	1.8	2.3	4.2		
26	どれくらい恥ずかしいか	座る教室の床に	1. とても恥ずかしい	7.8	7.1	8.4	6.7	9.5	7.6
			2. やや恥ずかしい	18.9	16.1	21.5	16.3	23.6	17.7
			3. あまり恥ずかしくない	34.6	31.4	37.5	34.8	35.0	33.7
			4. ぜんぜん恥ずかしくない	38.7	45.5	32.6	42.3	31.9	41.0
		はきかえる教室で靴下を	1. とても恥ずかしい	10.7	7.2	13.9	8.0	13.7	12.5
			2. やや恥ずかしい	30.0	23.1	36.1	26.6	36.2	27.9
			3. あまり恥ずかしくない	29.8	30.4	29.3	32.8	27.7	25.8
			4. ぜんぜん恥ずかしくない	29.4	39.4	20.6	32.6	22.4	33.4
		を教室で化粧する	1. とても恥ずかしい	26.4	28.8	24.3	21.5	32.4	28.1
			2. やや恥ずかしい	27.6	21.1	33.2	27.6	29.7	24.1
			3. あまり恥ずかしくない	25.4	23.0	27.4	28.2	22.5	23.4
			4. ぜんぜん恥ずかしくない	20.6	27.1	15.1	22.7	15.5	24.5

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	2年	3年	
26	食 教 室 で の を を	1. とても恥ずかしい	3.2	4.1	2.4	3.2	4.5	1.0
		2. やや恥ずかしい	9.0	9.8	8.3	8.9	12.8	2.8
		3. あまり恥ずかしくない	26.7	24.1	29.0	27.0	29.7	20.8
		4. ぜんぜん恥ずかしくない	61.1	62.0	60.3	60.9	53.0	75.3
	す べ い ト な 話 を	1. とても恥ずかしい	3.7	4.5	2.9	3.9	3.9	2.8
		2. やや恥ずかしい	21.9	21.0	22.7	21.9	22.5	20.8
		3. あまり恥ずかしくない	33.2	31.3	34.9	33.5	32.9	33.0
		4. ぜんぜん恥ずかしくない	41.2	43.1	39.5	40.6	40.7	43.4
	る 電 車 の 床 に 座	1. とても恥ずかしい	51.2	41.1	60.4	47.1	56.3	53.0
		2. やや恥ずかしい	27.3	28.8	25.9	28.0	25.2	28.9
		3. あまり恥ずかしくない	11.5	14.4	8.8	12.6	11.5	8.7
		4. ぜんぜん恥ずかしくない	10.0	15.7	4.9	12.3	7.0	9.4
	ど れ く ら い 恥 ず か し い か	1. とても恥ずかしい	49.7	40.3	58.2	41.7	61.0	50.9
		2. やや恥ずかしい	29.9	33.1	27.0	33.1	26.7	27.5
		3. あまり恥ずかしくない	10.5	12.4	8.8	12.8	7.4	10.1
		4. ぜんぜん恥ずかしくない	9.8	14.1	6.0	12.5	5.0	11.5
	粧 を す る 中 で 化	1. とても恥ずかしい	42.3	42.7	42.0	38.7	46.0	45.0
		2. やや恥ずかしい	29.2	25.0	32.8	30.4	29.7	25.4
		3. あまり恥ずかしくない	15.8	15.7	15.9	16.8	15.8	13.6
		4. ぜんぜん恥ずかしくない	12.6	16.6	9.3	14.2	8.4	16.1
の を 食 べ る 中 で も	1. とても恥ずかしい	15.3	17.3	13.5	13.6	13.6	22.2	
	2. やや恥ずかしい	32.5	28.5	36.1	32.5	35.3	27.8	
	3. あまり恥ずかしくない	28.1	25.4	30.6	27.6	29.7	26.7	
	4. ぜんぜん恥ずかしくない	24.1	28.9	19.9	26.3	21.4	23.3	
話 を す る 中 で も	1. とても恥ずかしい	10.1	11.6	8.7	10.0	9.7	10.8	
	2. やや恥ずかしい	25.7	25.1	26.3	28.2	22.1	25.7	
	3. あまり恥ずかしくない	35.5	31.0	39.5	33.3	37.9	36.8	
	4. ぜんぜん恥ずかしくない	28.7	32.3	25.5	28.5	30.3	26.7	
広 場 に 座 る	1. とても恥ずかしい	22.1	19.0	24.9	21.3	22.5	23.3	
	2. やや恥ずかしい	25.1	23.5	26.4	22.6	29.8	23.3	
	3. あまり恥ずかしくない	25.8	22.0	29.2	27.6	24.0	24.3	
	4. ぜんぜん恥ずかしくない	27.1	35.5	19.5	28.5	23.8	29.2	
は ぎ か え る 靴 下 を	1. とても恥ずかしい	38.6	31.1	45.3	31.3	48.1	40.9	
	2. やや恥ずかしい	30.3	30.6	30.1	31.9	28.3	29.7	
	3. あまり恥ずかしくない	15.2	16.5	14.1	18.4	13.1	10.8	
	4. ぜんぜん恥ずかしくない	15.8	21.8	10.5	18.4	10.4	18.5	
す る 広 場 で 化 粧 を	1. とても恥ずかしい	36.3	35.0	37.4	32.8	40.6	37.5	
	2. やや恥ずかしい	29.5	26.5	32.0	31.0	27.9	28.6	
	3. あまり恥ずかしくない	18.3	17.0	19.4	18.6	18.2	17.9	
	4. ぜんぜん恥ずかしくない	15.9	21.4	11.2	17.6	13.3	16.1	
食 べ る 広 場 で の を	1. とても恥ずかしい	6.5	6.4	6.6	5.9	6.4	8.3	
	2. やや恥ずかしい	16.4	12.7	19.8	15.1	18.6	16.0	
	3. あまり恥ずかしくない	32.5	29.7	35.1	32.7	31.6	33.7	
	4. ぜんぜん恥ずかしくない	44.5	51.2	38.5	46.3	43.4	42.0	
す る 広 場 で の 話 を	1. とても恥ずかしい	6.8	7.5	6.1	7.2	6.4	6.3	
	2. やや恥ずかしい	17.3	16.7	17.8	18.2	17.3	14.9	
	3. あまり恥ずかしくない	35.9	32.3	39.2	37.7	31.5	38.9	
	4. ぜんぜん恥ずかしくない	40.0	43.5	36.8	36.8	44.7	39.9	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
27	他者の行為への許容・不許容	るに切符の買いらす方	1. とてもそう	25.4	30.0	21.2	28.2	22.0	24.0
			2. ややそう	45.0	39.1	50.4	42.4	47.4	47.6
			3. あまりそうでない	22.4	22.4	22.5	22.0	22.6	23.3
			4. ぜんぜんそうでない	7.2	8.5	6.0	7.4	8.0	5.2
		つで子どもが騒ぐ	1. とてもそう	22.0	26.9	17.5	26.4	17.5	18.4
			2. ややそう	26.0	22.8	28.9	26.4	26.1	25.0
			3. あまりそうでない	36.9	36.3	37.6	34.1	39.2	40.3
			4. ぜんぜんそうでない	15.1	14.0	16.0	13.1	17.2	16.3
		る気通持ちがわか	1. とてもそう	4.5	7.5	1.8	5.7	3.3	3.5
			2. ややそう	6.1	9.4	3.2	7.0	6.2	3.8
			3. あまりそうでない	21.8	28.1	16.3	23.7	19.3	21.5
			4. ぜんぜんそうでない	67.6	55.0	78.8	63.6	71.2	71.2
	人の援助交際は自由	1. とてもそう	21.8	26.3	17.8	23.8	20.0	19.8	
		2. ややそう	35.4	34.6	36.2	33.1	35.4	41.3	
		3. あまりそうでない	23.7	21.3	25.8	24.7	21.2	25.3	
		4. ぜんぜんそうでない	19.1	17.8	20.3	18.4	23.5	13.5	
	が同性愛の友人	1. とてもそう	19.8	15.6	23.5	16.8	21.4	24.3	
		2. ややそう	27.7	21.8	33.0	28.2	24.3	32.3	
		3. あまりそうでない	28.1	28.9	27.4	28.5	29.0	25.7	
		4. ぜんぜんそうでない	24.4	33.6	16.1	26.4	25.3	17.7	
にお年寄りなど	1. とてもそう	29.1	27.6	30.5	27.3	29.0	33.8		
	2. ややそう	47.1	47.2	47.1	46.3	48.1	47.4		
	3. あまりそうでない	20.2	20.0	20.3	21.8	20.4	15.7		
	4. ぜんぜんそうでない	3.6	5.3	2.2	4.6	2.5	3.1		
た友だちを助ける	1. とてもそう	14.0	13.7	14.2	14.9	12.8	13.6		
	2. ややそう	26.8	27.9	25.8	28.1	23.1	29.7		
	3. あまりそうでない	40.3	40.1	40.4	38.4	41.0	43.7		
	4. ぜんぜんそうでない	19.0	18.3	19.6	18.6	23.1	12.9		
う万引きをした	1. とてもそう	16.6	22.7	11.1	16.2	15.2	19.9		
	2. ややそう	21.5	26.2	17.3	21.7	17.9	27.2		
	3. あまりそうでない	23.5	23.4	23.6	24.8	24.2	19.2		
	4. ぜんぜんそうでない	38.4	27.7	48.0	37.3	42.7	33.8		
28	る持っているもの	1. 携帯電話	6.6	7.6	5.7	9.0	1.8	8.6	
		2. PHS	27.9	22.5	40.0	31.6	21.0	30.7	
		3. ポケベル	9.7	6.7	12.6	5.6	15.1	11.4	
		4. その他	55.8	63.2	41.7	53.8	62.1	48.3	
	た友だちが増える	1. とてもそう	32.1	30.5	33.3	35.5	31.8	24.6	
		2. ややそう	41.7	41.7	41.6	41.3	37.5	47.8	
		3. あまりそうでない	18.9	17.3	20.0	15.6	21.0	23.9	
		4. ぜんぜんそうでない	7.3	10.5	5.1	7.6	9.7	3.6	
	係友だちとの関係が深まった	1. とてもそう	38.7	34.6	41.6	39.8	42.0	31.9	
		2. ややそう	41.0	42.1	40.3	41.3	36.4	46.4	
		3. あまりそうでない	15.3	16.9	14.1	14.1	14.8	18.8	
		4. ぜんぜんそうでない	5.0	6.4	4.0	4.9	6.8	2.9	
	連絡をしないのに	1. とてもそう	23.2	16.5	28.0	21.7	22.7	27.5	
		2. ややそう	34.8	35.0	34.7	31.2	38.6	38.4	
		3. あまりそうでない	29.3	33.1	26.7	33.0	26.7	23.9	
		4. ぜんぜんそうでない	12.6	15.4	10.7	14.1	11.9	10.1	
教える	1. とてもそう	20.7	22.6	19.5	18.7	24.4	21.0		
	2. ややそう	35.6	34.2	36.5	37.0	34.7	33.3		
	3. あまりそうでない	31.0	29.3	32.3	32.7	27.3	31.9		
	4. ぜんぜんそうでない	12.6	13.9	11.7	11.6	13.6	13.8		

## 資料2 学年・性別集計表

質問項目		全 体	性 別		学 年 別			
			男 子	女 子	1 年	2 年	3 年	
29	一番落ち着くところ	1. 部屋で1人有的时候	51.9	53.2	50.8	53.2	49.2	53.3
		2. 家で家族有的时候	16.1	10.3	21.3	14.8	19.6	13.3
		3. 外で1人有的时候	2.6	3.6	1.7	3.0	1.7	3.2
		4. 外で人込みなど有的时候	0.7	1.3	0.1	0.6	0.6	1.1
		5. 外で友だち有的时候	18.8	20.6	17.2	18.2	20.0	18.2
		6. その他	9.9	11.0	8.9	10.2	9.0	10.9